

実践授業報告

先生方が作成したワークシートや略案のデータを、
今後 JICA 北陸のウェブサイトで公開する予定です。

ましじ海外協力隊! 今、自分にできること。

氏 名	田中 陸人	学 校 名	石川県能美市立辰口中央小学校		
担当教科		実践教科	国語、社会		
時 間 数	5 時間	対象学年	5 年生	人 数	34 人

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

サモアの人々の文化や愛国心を理解し、サモアの人々の幸せな暮らしのために自分にできることを考えることができる。

02 | 単元の評価 規準

(ア) 関心・意欲・態度	サモアの人々のために意欲的にボランティア活動を考えている。
(イ) 思考・判断・表現	サモアの人々の幸せな暮らしのために、自分たちにできることを考えている。
(ウ) 技能	開発途上国とその分布の特徴について資料から捉えている。
(エ) 知識・理解	サモアの人々の文化や愛国心について理解している。

03 | 単元設定の理由

<児童観>

本学級の児童は、これまでに学習の中で外国についてふれる機会が何度かあった。例えば、外国語科で世界の子もたちのじゃんけんの様子を動画で見たこと、社会科で世界の国々について調べたことなどである。さらに、本校の教員で青年海外協力隊として活動する吉田先生とのテレビ電話交流も経験している。それらの場面で子どもたちは、大変生き生きとしていた。

しかし、開発途上国や協力隊の仕事、海外の人々の考え方については、学習しておらず、十分に理解していない子が多いと思われる。

<教材観>

本研修でいただいた資料やサモア現地で見たり聞いたりして学んだことを教材として取り扱う。5 年社会科「環境を守るわたしたち」や道徳（内容項目「国際理解・国際協力」）に関連した複合単元とした。この単元での学習は、6 年社会科「世界の未来と日本の役割」にもつながる。

開発途上国の人々の暮らしや考え方、青年海外協力隊の仕事について知り、開発途上国の人々の幸せな暮らしのために自分たちにできることを考えることができる単元である。

<指導観>

世界の中での日本の位置付けや、開発途上国の存在を知った上で、サモアにいる協力隊の人々やサモアの国の課題にスポットを当てたい。サモアの人々の暮らしや思いを尊重させ、サモアの人々のために、自分たちができるボランティアを考えさせたい。

04 | 展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<色分けされた世界地図は何を表しているのか> 世界の中での日本の位置付けと開発途上国の存在を知る。	- 色分けされた世界地図の資料を見て、何を表しているのかを考える。 - 先進国、開発途上国について知る。 - 青年海外協力隊について知る。 - ふりかえりを書く。 - サモアの文化クイズをし、次回はサモアに着目することを知る。	資料：世界の国々『国際理解教育実践資料集』p.60) パワーポイント
2	サモアの国でどんなボランティアをしたらいいか考える。	- サモアの問題点を知り、どんなボランティアがあったらいいのかを考える。 - 次回は自分たちの考えたボランティアを精選することを知る。 - ふりかえりを書く。	サモアの問題点を写した写真
3 本時	<「ボランティアというやつに殺された」ってどういうこと?> 開発途上国の人々にとっての幸せについて考え、自分の考えたボランティアをよりよくする。	- 自分たちの考えたボランティアについてふりかえる。 「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」を読み、「殺された」の意味を考える。 - サモアの人々にとって、自分たちにできる本当に必要なボランティアは何なのかを話し合う。 - 自分のボランティアを見直す。	資料：「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」（宮崎大輔著）
4	<提案書を仕上げよう> SDGsについて知り、自分のボランティア提案書にSDGsの要素を付け加える。	- SDGsについて知り、サモアでの協力隊の活動がどの項目にあてはまるのかを考える。 - 自分の考えたボランティアがSDGsのどれにあてはまるのかも考える。 - 提案書を仕上げる。	サモア協力隊員の板書用写真 SDGs板書用短冊
5	<提案書セッションをしよう> 自分の考えたボランティアを交流する。	友達の考えたボランティアの提案を聞き、感想を交流する。	

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○自分たちの考えたボランティアについてふりかえる ○「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」を読む	・自分の考えたボランティアの提案書をよりよくするためのヒントをつかむために、物語を読むという目的をもたせる。	資料：「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」（宮崎大輔著）
	<提案書をよりよくするためのヒントを見つけよう>		

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
展開 (25分)	○「殺された」の意味を考える ・昔のおとうさんと過ごす時間が好きだった ・昔の暮らしの方がよかった ・自分の暮らしがうばわれたことをうらんでいる	・おとうさんの様子とボクの気持ちを視覚的に対比できるよう、構造化して板書する。 ・「協力隊の幸せ」と「ぼくの幸せ」は違うことに気づかせる。	
まとめ (15分)	○ボランティアをするときに大切にすべきことは何か考える ・そこに住む人のくらしを壊さない ・自分がいいと思っているものをおしつけない ・そこに住む人の思いを大切にする	・友達にアドバイスをもらってもよいこととする。	
	○サモアの人々にとっての幸せについて考え、自分のボランティアの提案書を見直す。	・提案書の書き直し用シートを用意しておき、必要に応じて持って行っていいことを伝える。	
	・ボランティアをするときには、相手にとっての幸せを考えようとするのが大切だ ・友達のアドバイスをもらい、自分のボランティアの提案書を見直すことができた		

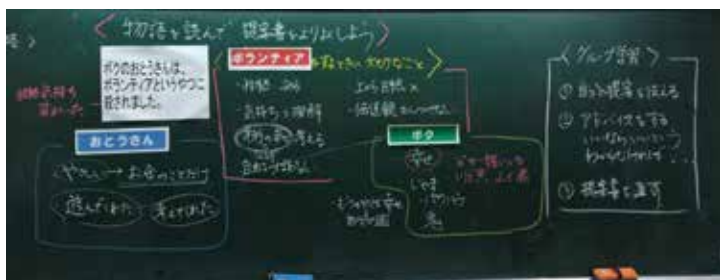
≫ 授業実践の様子



提案書を交流し、よりよい提案にするためのアドバイスをもらう



アドバイスを受け、よりよくした提案書



本時の板書

06 | 本時の振り返り

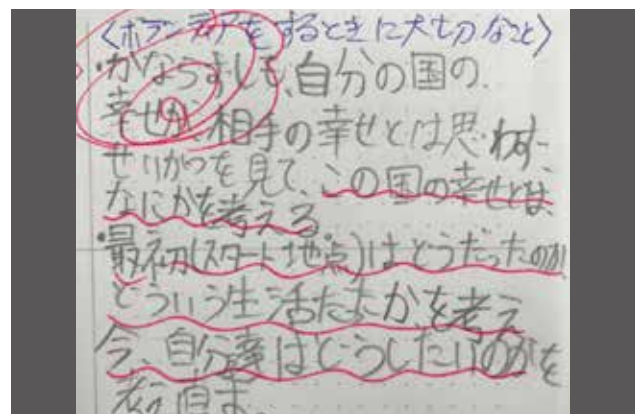
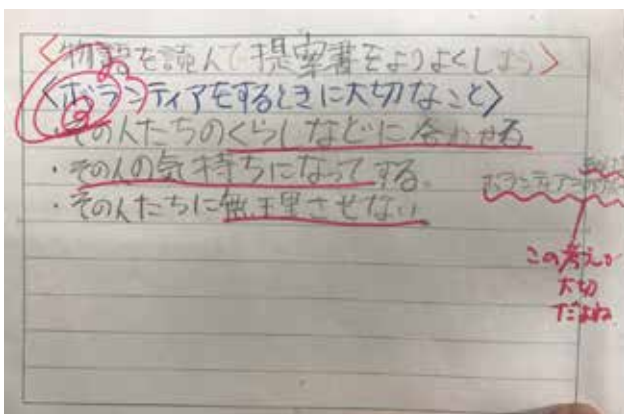
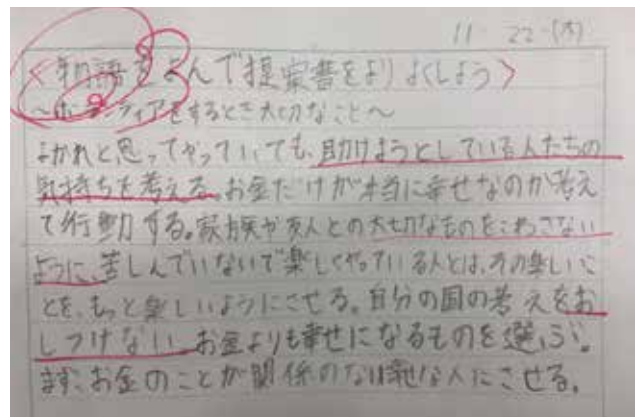
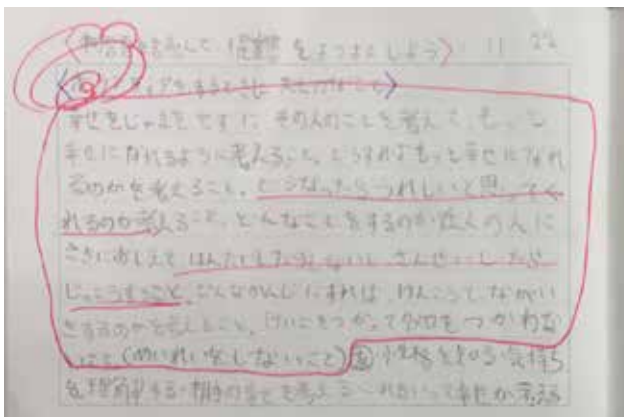
まずはじめに、資料から学んだことを生かして、提案書をよりよくすることが本時のゴールであることを伝えた。そして、資料のタイトルが『ボクのおとうさんはボランティアというやつに殺されました』であることを示した。すると、児童からは「殺された?! ということ?!」「ボランティアの人が殺したん?!」などの声が挙がった。児童は大変驚愕した様子だった。「資料を一度だけ読むから、一体どういうことなのか考えながら聞こう」と伝え、読み聞かせをした。

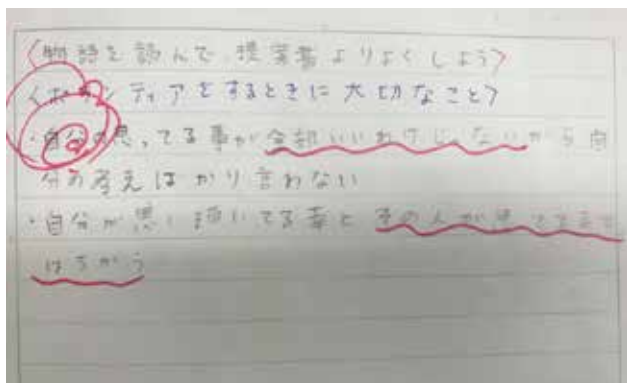
読み聞かせ後、タイトルの意味を問ひかけ、児童の発言を整理して板書し、お話の内容を確認した。児童の発言はとても活発だった。さらに、「ボランティアをするときに大切なことはどのようなことか」を考えさせ、ノートに書かせた。すると、一人一人が一生懸命に黙々と鉛筆を走らせていた。児童のノートには、「相手の幸せを考えること」「自由を奪わないこと」「自分の価値観をおしつけないこと」など、自分の言葉で考えが書かれていた。それらを共有し、ボランティアをするときに大切なことを十分に理解することができた。

その後、資料から学んだことを生かし、提案書をよりよくする活動に入った。グループの人に自分の考えた提案を一人一人が伝えた。すると、「サモアの人はそれをしてほしいと思っているのか」「自分たちがいいと思うことを押し付けているのではないか」などの意見を活発に出しているグループもあった。友達のアドバイスを生かし、よりよい提案を考えているところで授業終了のチャイムが鳴った。

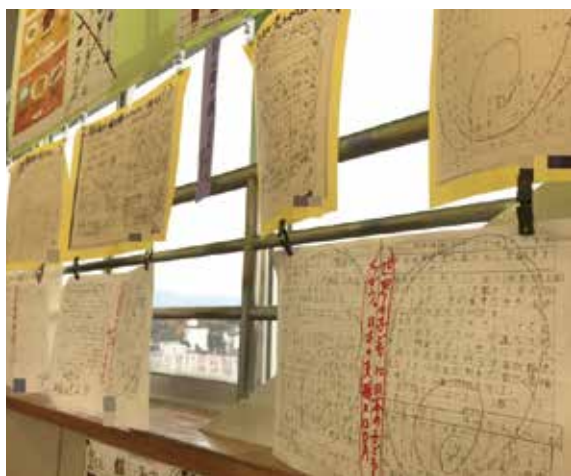
07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

はじめの児童の考えた提案書を見ると、「学校に行っていない人に声をかけ、学校に行かせる」「道路を舗装する」「ゴミ拾いをするよう呼びかける」など、相手の文化や気質、思いを考慮していない提案が多かった。しかし、単元を通し児童の考えは以下のように、ボランティアをするときには相手のことをよく考えることが大切だということに気づくことができた。





≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲



開発途上国や青年海外協力隊、SDGsに対する関心が上がった。自主勉で調べ学習をしてくる子も多かった。海外の本に関心を持ち、読む子が増えた。

◀ くわしく知りたいことや疑問に思ったことを自主的に調べてきている。評価後、掲示し、共有できるようにした。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

開発途上国と先進国の意義すら知らず、それらの国の仲間分けをすることも全くできなかった。

(授業後)

途上国には暮らしに困っている人がたくさんいることを知った。また、SDGsについて知り、世界の人々のために貢献したいという思いをもつ児童も多かった。単元と同時期に行われた「ユニセフ募金」に、とても協力的であった。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

本時で、ボランティアをする際には相手の立場をよく考えることが大切だということに気づくことはできた。しかし、サモア人の文化や気質、思いについての理解が不十分であり、提案を練り直す際に苦勞した。

≫ 2. 改善点

本時の後、サモアの国や人について十分に学んだ上で、提案書の見直しをするべきである。単元の流れの見直しが必要である。本単元は、国語科の提案書を書く単元や社会科の工業の単元と関連している。カリキュラムマネジメントが大切である。

≫ 3. 成果が出た点

国語科で提案書の書き方や交流の仕方を学んでいたため、単元の見通しを持つことができた。提案書を書き友達と交流し、最後にJICAの職員さんにベストの提案書を選んでもらうことをゴールとして示すことで、持続的に意欲をもって学習することができた。

相手の立場に立って考えることの大切さに気づくことができた。今後の日常生活で、友達との関わりの中でも生かしてほしい。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

人権集会で、ユニセフ募金の取り組みを説明する際に、発展途上国の現状とSDGsについて触れた。

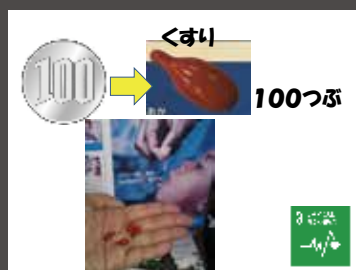
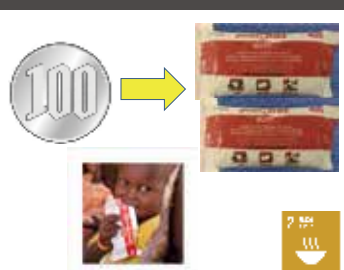
対象人数：全校生と全教員 621人+30人

≫ 5. 備考（授業者による自由記述）

サモアでの研修を通し、「自分がこれまで考えていた幸せ」と「サモアの人々の幸せ」に違いがあることに気づくことができた。先進国の人々の幸せを、サモアの人々に押し付けてはいけけない、と強く感じた研修であった。それを子どもたちにも理解させるためにこの単元を計画し、実行できたことが大変嬉しく思う。

【添付資料】人権集会で使用したスライド





12月6日(木)
7日(金)
7時40分~8時5分

ご協力よろしくお願いします!

【参考資料】

- ・「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう!考えよう!～」 JICA地球ひろば
- ・「どうなっているの?世界と日本」 JICA
- ・「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました」 宮崎大輔
- ・「私たちがつくる持続可能な世界」 ユニセフ
- ・子どもと先生の広場 (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/>)

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

- ・自分自身、青年海外協力隊の活動に興味があり、現場で活動する人々の様子を生で見たかった。
- ・開発途上国や青年海外協力隊の活動について、社会の授業の中で取り扱うことがあったが、自分の知識量が足りていなかった。研修を通して実際に自分が現地で見て学んだことを授業の中に取り入れ、教育実践を行いたいと思っていた。自分の実践で、子どもたちに外国に興味関心をもってほしいという強い思いがあった。
- ・研修中のふりかえりを通して、現地視察の視点は「必要のある支援活動なのか」「持続可能な支援活動であるか」というものに変わっていった。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

協力隊員と共に働く人たちは、支援活動を喜んでいるように見えた。サモアの人々はルーズなところも多いという話もあったが、自分は一生懸命向上心をもって仕事をする人も多いと感じた。

一方で、「持続可能な支援活動か」という観点でみたときに、協力隊の支援がなくなったときにもとの状態に戻ってしまうのでは…と思わせるような一面も見られた。支援をただ受けるだけという「受け身の姿勢」と捉えることもできる。

隊員がいなくなっても、隊員が残してくれたことを現地の人々だけで続けていけるように、早いうちから準備を進める必要があると思った。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

サモアの人々の思いをコミュニケーションを通して知ることができたのは大きな収穫だった。愛国心が強く、自分たちの国に誇りを持っていること、支援がなくても、幸せに暮らしていけると思わせるようなのんびりとした雰囲気があることは、実際に現地に行かなければ分からなかった。

子どもたちには、海外で協力隊として活動する日本人がいることを伝え、同じ日本人として誇りを持ってほしい。また、協力隊の活動が、本当にサモアの人々の幸せに繋がっているのかということを考えさせたい。実践を通し、協力隊の活動や、外国の人々の暮らしや考え方に興味をもたせ、日本だけではなく海外もある、という広い視野を持たせたい。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

- ・小学校 6 年社会の協力隊の活動を学ぶ時間に活用できる。
- ・道徳の「国際理解」という項目で、「途上国の人々の幸せにつながる支援のあり方」を話し合わせることができる。（小学校高学年がよい）
- ・協力隊の活動の様子と、開発途上国の現状を伝えたくて、「今のあなたにもできることがある」と伝え、人権集会やユニセフ募金などの全校行事につなげる。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

研修を通し、学んだことを今後の教育活動に生かしていきたいと強く感じた。たくさんの現場を視察し、たくさんの人と話し、日本にいただけでは学べない、多くのことを吸収できた。それらの中から、子どもたちに伝えたいことを精選し、今年受け持つ子どもたちだけでなく、これからの自分の教員人生で受け持つ子どもたちにも還元していきたい。また得たことを、担当する業務につなげ、今後も国際理解教育を実践していく責任があると思っている。この研修だけで終わってはいけな

≫ 6. JICA に対する要望・提言

どのような形であれ、今後も教師海外研修が続いてほしい。時間的に余裕のある夏休みにこのような研修の機会を作っていただいたことは本当にありがたい。自分の現場には、教師海外研修に興味を持っている人もいる。実際に自分自身も、先輩教員がこの研修に参加したことを聞き、興味を持った。今後も、教師海外研修を宣伝してほしいし、自分もこのような研修があることを周りに伝えていきたい。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

限られた時間のなかで、たくさんのことを学べるよう、事前に視察場所についての情報を収集し、気になることや質問したいことをメモしておくとうい。どの教科で実践をしたいか、あらかじめ決めておいてもよい。視察をするときの観点が定まる。ただし、視察を通し、子どもたちに伝えたいことは大きく変わるかもしれない。

Helloおとなりさん! ～相手を知ること～

氏 名	小山 昂志	学 校 名	石川県金沢市立小坂小学校		
担当教科	学級担任	実践教科	国語科		
時 間 数	6 時間	対象学年	小学5年生	人 数	31 人

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

日本の環境と発展途上国の環境を比較し、それぞれの課題を考えることができる。

02 | 単元の評価 規 準

（ア）関心・意欲・態度	海外の様子について、自ら調べ、考えようとする。
（イ）思考・判断・表現	海外の現状から、日本ができることを考えている。
（ウ）知識・理解	発展途上国の抱えている問題について知ることができる。

03 | 単元設定の理由

【児童観】

小学生の児童にとって、海外の文化に触れている実感は多くないのではないだろうか。日本に持ち込まれている海外製品はほぼ日本化されており、ルーツがどこにあるのか考える必要がなくなっている。（ファストフードやカタカナで表現される商品など）しかし、金沢という土地は観光客が多く訪れる街の一つで、遠足に出かける際に海外の方と出逢うこともある。さらに言えば、今後の社会の動向を考えると外国人労働者が多く日本にやってきて、共に勉強をする、仕事をするという環境ができあがることも多いに予想できる。そうした、グローバル化する日本において、今の子どもたちが身に付けていかなければいけない資質は山積している。その中でも、相手の国の文化や考え方に共に寄りそっていく国際理解を深めることは、コミュニケーション能力と共に重要な資質であると考え。

【教材観】

本単元は、与えられた情報について現状を自分たちで分析し、その過程で発見された問題を解決するためにはなにができるのか考えるものである。学習の中で、グループで話し合いを行い、共に意見を出し合い、考えを深め、コンセンサスを得ながら一つの意見へと収束させていく。そのテーマとして、海外研修で訪れたサモアの実態と、SDGs で取り上げられている課題を出し、両方を合わせて理解を量っていく。また、その際に身に付けるべき司会としてのスキルや、フォローアップがどうあるべきなのかを児童と学習していく。

【指導観】

指導する際に気を付けるべきポイントがある。「豊かな日本＝幸せ」であってもかまわないが、「物が無いサモア＝不幸せ」とならないようにしたい。日本の価値観として海外を見ることでは、真の国際理解はない。相手を否定せず、ありのままを受け入れる。その資料の一つとして、「ボランティアに殺されました」の資料を最後に提示し、子どもたちが力を注いだ解決策が本当に現地の人のためになっているのか、持続可能なものなのかというところまで考えさせたい。

04 | 展開計画（全 6 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	どうして外国のことを勉強するのかな	もし、隣の席に外国人が転校してくるようになったらどう思うか、という質問から入る。外国人に対する不安感について考える。同時に、コミュニケーションして関わっていく必要性を考えていく。	写真 ホワイトボード
2	幸せに暮らす条件とは何かな	SDG sを使い、幸せに暮らす条件を見つけていく。あらかじめ 17 ある中から 9 つ選びその中でベスト 3 を考えていく。友だちの意見を取り入れ、討論後再度ベスト 3 を考え直す。	SDG s アンケート用紙 ワークシート
3	海外はどんな現状にあるのかな	前時に選定した SDG s の観点から、世界の現状を考えていく。その際の資料として、図書館にある外国の本から考えていく。	海外の文化、 生活に関する本 ワークシート
4	サモアはどんな現状なのかな	2 時間目に選ばれた SDG s の観点から実際に見てきた内容を載せた資料を使い、サモアの現状を紹介する。自分の感じた素直な思いなどをノートにメモし、今後の学習に活かす。	液晶テレビ パワーポイント資料 ノート
5	サモアのためにできることは何かな	前時に学習した内容から、サモアのためにできることをグループで考え、解決策を考えていく。	
6 本時	サモアにどんなことができるか考えよう	前時に話し合った解決策を、発表し合う。一通り出した中で、ボランティアの必要性に疑問を持つ資料を提示する。そして、賛成派、否定派の討論を行い考えを広げていく。	ワークシート 液晶テレビ

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5 分)	SDG s を使って、サモアの満たされているところとそうでないところを再度確認する。 ・サモアは日本に比べて、不自由なのかな。 ・かわいそうな国だね。	象徴的な写真を使いながら、児童に満たされていないことなどを具体的にイメージさせる。	ワークシート
展開 (15 分)	サモアにどんなことができるのか考えよう 各班の発表を聞く。 ・浄水場が必要です。 ・野菜の大切さをアピールします。 映像資料を見て、ODA（政府開発援助）の内容や、日本が世界で第 4 位の金額を拠出していることを学ぶ。	SDG s の観点に沿ったプリントを用意し、聞きながら友だちの意見を書き込めるようにする。 児童作成の絵などを用いて、支援内容を文章だけではなく絵でもわかるようにする。 2016 年に 103.8 億ドルを発展途上国に援助している現状から、受け取り手の考えをイメージさせる。	資料 「ぼくのおとうさんはボランティアというやつに殺されました」

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
(15分)	資料を提示し、支援の必要性を考え直す。 相手の国に支援することに賛成?反対? 賛成派、反対派で討論を行う。 ・ 貧しい国を助けるのは当たり前だよ。 ・ でも、その国の文化がなくなってしまうのでは?	自分たちの支援で解決する問題もある一方で、現地の人たちの苦しみを生んでしまう場合もあることを強調する。 黒板にキーワードを強調し、視覚的に話し合いのポイントを分かりやすいように提示し、ふりかえりを書きやすいように工夫する。	
まとめ (10分)	様々な立場の意見を聞き、支援の在り方についてふりかえりを通して考える。		

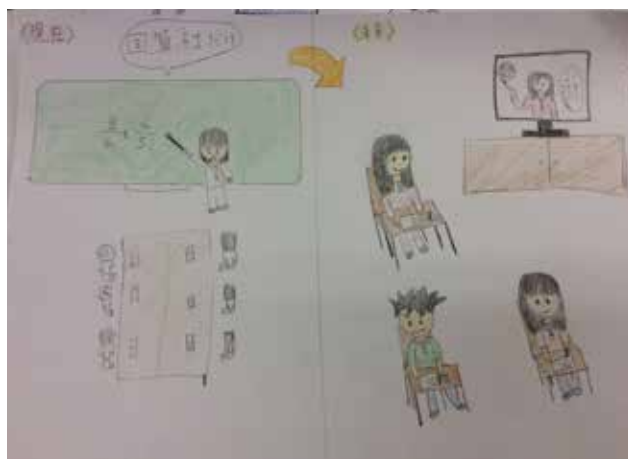
≫ 授業実践の様子



健康な食事を促すポスター



お金の支援で生活レベルの向上をうたえるポスター



インターネットを使って、教育を充実させようとするポスター



児童の発表の様子



授業後の板書

06 | 本時の振り返り

児童の発想力に驚かされた。サモアの実態について知り、日本との違いに目を向けていた。サモアのために、もしできることがあったらどんな方法で助けるかチームで話し合った結果、実際に行われている取り組みを児童自ら考え出したり、さらには、オリジナリティーあふれる独自の取り組みを考えたりと主体的に学習を進めることができた。

しかし、本時で核としてねらっていた支援の在り方について話を深めることは十分にできなかった。「ぼくのお父さんはボランティアというやつに殺されました」という資料から、必ずしも支援が正義ではないことを理解しながらも、「では、どのようにあるべきなのか」については児童全員で意見を作り上げられなかった。数人の児童だけの発表に留まってしまったが、支援側の立場や支援される側の立場、両方の立場に立って考えを出してくれた。対外国だから、支援を考える必要があるのではなく、違いがある相手だからこそ「相手の立場」になって考える必要がある。それは、日本人同士でも同じである。さらに言うと、隣に座っている友だち同士でも同じだと思っている。自分の価値観を絶対的なものとして、相手に押し付けるのではなく、コミュニケーションを取る間で上手いかわないことがあればそれをきっかけに、相手の話を聞いて理解につなげていく。そういった授業を展開できれば、さらによかったと感じている。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

事前のアンケートを実施すると、「海外の文化を知ってみたい?」という設問に対して80%の児童が「はい」と回答しており、関心が高いことがうかがえた。

SDGsを9つ選びその中から「幸せに生きる条件ベスト3」を選ぶ場面では、生活体験から一人一人が自分事として根拠を持ちながら主体的に考えることができた。「2 飢餓をゼロに」と「16 平和と公正をすべての人に」を必要としている児童が特に多かった。理由を聞くと、「食べ物がないと暮らしていけない」「戦争で死んでしまう人がいることは悲しいこと」と述べていた。

また、日本の立場から世界の国々を調べたときに、大きく分けて2つの反応が見られた。1つは、日本よりも生活が豊かで文化的にも華やかである国に対して、うらやましいという気持ちがあるもの。「いいなあ」「行ってみたい」という肯定的な発言が多く聞かれた。もう1つは、日本よりも生活が後進的に感じる国に対してのものであった。飲み水や服装、食生活、衛生面など日本に住む子どもたちからすると、日本とのギャップに驚くことばかりで、「えー!!」「いやだ!」という否定的な発言が多く聞かれた。

発言内容に違いはあれど、多くの児童が個人個人で異文化と向き合い、異文化を考えていた。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

アンケート調査を行った結果、外国人の転校生が来るとなったときに「不安・楽しみ」かを聞いた問題では、40%の児童が不安と回答していた。その理由として、「言葉が通じるかわからない」、「違う文化の人といると何が起こるかわからないから」と答えていた。興味関心はあっても、言語という壁は児童にとってとても大きいものと予想できる。

その他、結果を提示する。

- ①海外へ行ってみたい → Yes 80% 、 No 20%
- ②海外の文化を知ってみたい→ Yes 80% 、 No 20%
- ③海外の人と友だちになってみたい→ Yes 77% 、 No 23%
- ④海外に住んでみたい→ Yes 53% 、 No 47%
- ⑤将来、海外の人と仕事をしたい→ Yes 47% 、 No 53%
- ⑥英語の勉強は自分に必要だと思う→ Yes 87% 、 No 13%

これらのことから、児童の外国への関心は高いが、実際は外国の人と関わる機会が少ないことや、英語を使ってコミュニケーションをとることが難しいのではないかという不安を持っていることがわかった。

(授業後)

授業では支援のあり方を大きな狙いとして実践を行った。「ボクのお父さんはボランティアというやつに殺されました」の資料を読み、支援することに「賛成・反対」で意見を聞くと、80%近くの児童がわからないと回答した。

以下、内容を抜粋。

- ・みんなの生活豊かになるのはいいけど、つらいことをさせるのは反対。
- ・ものが増えるのは幸せだと思うけど、自分の時間がなくなってしまうらだめ。
- ・その人に合わせる助けを考えるのは大変。助けてと言われたら助けたい。
- ・不幸せな人が一人いるとだめ。

などの感想が書かれていた。

学習のまとめでは、「相手の立場に立って考えないといけない」、「いやな気持ちになってほしくない」、「一人一人考えが違う」などねらいに沿った内容が書かれていた。

児童らは、いままで考えたことのない分野を知り、考えることによって新しい価値観を持つことができたように感じる。自分本位ではなく、相手がいてこそその支援であることに気づいていたようであった。

≫ 1. 苦労した点

事前研修や、現地での研修で学んだたくさんの財を自分なりに消化することがとても難しかった。授業をする際に、なるべくオープンエンドにせず、45分終わったときに自分はどうしようと、決意できる授業を組み立てようとすると教師が自分なりの答えを持っておかなければいけないと感じた。個人対個人のコミュニケーションではなく、支援には政治的な思惑、自立支援を行う立場など様々な要因が渦巻いている。私自身学んだ内容を噛み砕くことが十分にできず、本単位では「あれも、これも」と伝える授業になってしまった。

児童の生活範囲から離れている内容であればあるほど、内容をシンプルにして授業の道筋をコーディネートしなければならないと感じた。難しい言葉、意味の分からない言葉を使われ足並みがそろわない授業ほど、収集がつかなくなる。小学生という生活環境に目線を落とし、授業展開を考えなければならない点にも苦労した。

≫ 2. 改善点

トピック的な単元で本時を扱う場合、児童の理解を深めるためには時間が不十分である。そのため、本単元を組み立てながら、他の教科についても同時並行で国際理解について考えていくことが大切だと感じた。

例えば社会科であれば、国内の農業の様子と海外の農業の样子の違い。耕地面積や使っている道具の違い、食生活などいろいろな場面を切り取って他者理解を深めることができる。数回の授業で知識が浸透するのではなく、継続的にそのことについて考えることで国際理解について考える土壌が作り出される。忘れさせない、考え続ける、そして、自分なりの答えを作る。このサイクルを意識して、今後の生活の中からも取り上げていきたい。

≫ 3. 成果が出た点

この単元を学習しているときに、児童から「それってSDGs的には～だね」という言葉が聞かれた。17つの内容を網羅しているわけではなかったが、本単元で選んだ内容について児童が自らアンテナを張り巡らせて設置している様子が見られた。

また、この実践からSDGsを活用してみようと同学年の教員から相談を受けた。児童だけではなく、教員にも「地球に住む一人」としての意識を持ち、どのように今後生活していくべきなのか考える指標を与えられたと思う。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

- ・職員 30 名を対象に、行内研修を実施し、海外研修で学んだ内容の共有を行った（20 分ほど）
- ・第 4 学年児童数 108 名を対象に、特別授業を実施し、サモアの文化と、環境問題についての紹介を行った（45 分）

≫ 5. 備考（授業者による自由記述）

実際に、私自身が学んだ経験から伝えられることが多く、児童はいつも以上に積極的に授業参加をし、質問なども考えてくれていたことが印象的であった。社会科でも世界各国のことを学習しているが、教科書の内容ではなく生きた内容に児童らは反応したのだと考えられる。教師が自らアクティブに行動し、そこで得たものを児童に還元することが、重要だと改めて感じた。

児童にも授業内容だけではなく、なにかに挑戦することの大切さを感じてもらえたらうれしいと思う。

【添付資料】

こんなとき、どうする！？

名前 ()

「今日から転校生がやってきます」と言う先生。そこにやってきたのは、外国の子もどった。あなたは…

質問1 不安？ 楽しみ？

どうしてそう思うか理由も書いてみよう

質問2 どうして外国の勉強する必要があるのかな

質問3 アンケート

①海外に行ってみたい？	Yes	No
②海外の文化（衣食住）を知ってみたい？	Yes	No
③海外の人と友達になってみたい？	Yes	No
④海外に住んでみたい？	Yes	No
⑤将来、海外の人と仕事をしてみたい？	Yes	No
⑥英語の勉強は自分に必要だと思う？	Yes	No
⑦サモアについての質問があればどうぞ！		

なんでも答えます！！



幸せに生きる条件とは？

名前 ()



この9つの中で、幸せに生きるために必要なもののトップ3を考えよう！

トップ3！

	番号	タイトル	理由
NO. 1			
NO. 2			
NO. 3			

	番号	タイトル	理由
NO. 1			
NO. 2			
NO. 3			

その国ってどんな国？？

名前 ()

自分の選んだ国「 」

SDGsに合わせて、その国の現状を知ってみよう！

内容	できているか	理由
	○ △ ×	

サモアのためにできることを考えよう

名前 ()

○この中から、1つ選んで解決策を考えてみよう！



1、選んだ内容
私たちが選んだSDGsは、
2、その内容についての現状
3、その現状についての解決策（なにをして、どのように生活を改善するか）

サモアのためにできることを考えよう

名前 ()

○いろいろなグループの話を聞き、サモアのためにできることを考えよう。

SDGsの内容	具体的解決策	サモアのためになってる度
		%
		%
		%
		%
		%

○自分の立場をはっきりさせよう。

私は (賛成 ・ 反対) です。

○これまでの授業を振り返って、これから大切にしていけることはなんだと思いますか。

思ったことを振り返って、自由に書いてみよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【参考資料】

- ・ JIBURi.com 「ボクのおとうさんはボランティアというやつに殺されました」 / 宮崎大輔
<http://jiburi.com/seigi/>
- ・ イマココラボ <https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/>
- ・ 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
- ・ どうなってるの?世界と日本 (第二版) JICA
- ・ 私たちが目指す世界 The Global Movement for Children of Latin America and Caribbean
- ・ 砂漠化する惑星 JICA
- ・ 世界の食料 JICA
- ・ いのち、輝け! JICA
- ・ 世界の水問題 JICA
- ・ 学校にいけない世界の子どもたち JICA
- ・ 国際理解教育 実践資料集 JICA

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

異文化交流の視点から、日本の価値観を持ちながら、サモア文化を否定せず、フラットな状態で見ることに努めた。日本が先進国と言われていることには変わりはないが、だからといって世界的に偉い国であるわけではない。その国の守られている文化もある。ありのままを見て、偏見を持たず、教育の質や生活環境、さらには、人々の幸せとは何かを考えながら研修に参加した。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

途上国であるとは言われていたが、国内の中心部は生活をする分には、表面上何も苦労がないように思えた。町にはマーケットがあり、飲食店も並んでいる。食べること・生活することには、問題なさそうであった。しかし、経済という面で見ると、「働いている人」があまりいないのではないかと疑問に思った。確かに、店を営む人はいたが、どこかのオフィスに所属し、サモア国内の経済発展を願い、野望を持っている印象はなかった。「今が楽しければ・・・」、私には、そう見えた。ホームステイ先（農村部）の実態でも、海外へ出稼ぎに行っている親族からの送金を頼りにしながら、自給自足の生活をする。それが可能なので自ら働く必要性が全くないのだ。

いったい、サモア国民は、自分たちの未来をどう見据えているのだろうか（どんな国になってほしいのか、政治に不満はないのか、マタイ制度を持続することについて問題はないのかなど）、と疑問に思った。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

今回の研修を通して、判断する基準が自分の中にあってはいけないのだと再確認をした。支援内容について、実際の施設を見て職員の方の話を聞くことができたが、日本の思い・意図とは違った受け取られ方・行動結果になることもあると分かった。現地の人達がこちらの意図とは違う受け取り方・動きをしていたとしても、「こちらが支援してあげたのに・・・」と上から目線の立場で遺憾に思うのではなく、相手の立場になって考え直すことが大切になる。これは、日本の中でも同じ事が言える。教員という仕事に就いている以上、子どもたちに知識を与える側となっている。そのときに、自分のがんばりばかりに目を向け、「これだけやったのだから、児童が応えるだろう」と慢心でいるのではなく、その指導が本当に児童に必要なのか、その考えを今一度持つ必要があると感じた。

そして、これは児童にも伝えたいことである。自分と相手は、同じ人間ではない。顔も違うし、体も違う、声も、考え方も、なにもかも違う。それなのに、自分と一緒にいたい込んで、自分の意見が受け止められなかったら相手を卑下する。「日本国内でも差がある。その差が海外とでは顕著になっているだけ」。この言葉に、納得させられる。外国の人だから理解を進めていかなければいけないのではなく、違う人だから理解をする。そして、善意の押し売りすることなく、相手と話をし、最善の解決策を見つける。以上のことを、子どもたちに伝えたいと思う。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

まず、今回の研修で学んだことをまとめ、資料として作成する。パワーポイントとして残しておくことで、何度でもサモアのことを紹介できる。また、ただ紹介するだけではなく、そのあとにSDGsを活用し、サモアの現状や日本の現状にも目を向けていく。海外を知ることで、日本の良さが浮き彫りになってくる。「え？日本ってどうなっているんだっけ？」と、再度日本の視点に返して調べていくことも一つだろう。

また、現地に派遣されている職員や隊員とも関係を持つことができた。いくら学習を進めていても、日本国内で学習して

いる分には、机上の空論になりかねない。百聞は一見にしかず。実際に、海外に行くことは難しくても、ネットワークを駆使し、海外と気軽につながることができる今だからこそできることもある。そして、それがエネルギーとなり、さらに調べたい、関わってみたい、となってくると国際理解の一步につながるだろう。つながっているときに感じた違和感や温かな気持ちになれた感覚を教室で共有しあうことが、今の私にできることだと思う。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

今回の研修は、国際理解も目的にしていたが、一番の参加理由は「自己啓発」の部分が多い。英語がしゃべれない、だから、海外の人を避ける。そんな気持ちがあった。子どもたちに指導している身でありながら、指導内容と自分の姿が乖離していることに葛藤もあった。それが、嫌で、なにか変えたくて、世界を知りたくて。そんな想いで参加させていただいた。

参加させていただいて本当に良かったと自信を持って言える。目標であった自分の変化。英語を言い訳にしていたのだが、そんなことはちっぽけな壁だと感じた。困っていると何でも丁寧に説明してくれる店員さん、それを見てさらに助けてくれる現地の人。日本にいたときには、自分で何とかしなければいけない、他の人に頼ることは恥ずかしいこと、と、どこか自分で決めつけていたのだが、「聞かなければ分からない」と開き直すことで一気に視界が晴れた。分からないことは聞く、自分の思いを伝える。そんなことができるようになった。また、毎日のディスカッションを通して自分との違いを感じ、そういった見方もあるのだと尊敬できる人たちに出会えた。ただ楽しいバケーション的研修ではなく、たくさんの議論を重ね、気づきを共有することができた。志を同じにした者が集まり、同じ物を見る。しかし、感じ方は千差万別。他人と関わることの楽しさを実感できた。

また、日本のあり方にも考えを巡らせることができた。均一性が重視される日本。和を乱すな、横を合わせろ、余計なこととは言わない。そんなことをどこか空気に感じ取らなければいけない日本の教育。どこか息苦しさを感じる。しかし、海外での経験は自分をマイノリティとしての立場に変えることができた。見回しても外人なのは自分なのである。さらに、他国からの観光で来ているいろいろな民族と入り交じる。そうすると、狭い世界で他人を意識していた日本とは全く環境が異なり、どこかのびのびとすることができた。学校教育の中でも、「みんなちがってみんないい」と個性を認める動きがあるものの、根底には均一性が徹底されている。本来あるべき姿をサモアで実感し、今学校に行きたくてもいけない登校拒否などの問題を抱えている子どもたちの姿がふっと脳裏をよぎった。

実際自分が何を学んだかを明文化することは非常に難しい。具体的に「これが分かった!」とひとまとめにすることができない。しかし、私が得た中で一番は考えるきっかけの「アンテナ」が敏感になったことだろう。本当にこれでいいのか、日本はどうなのか、海外のスタンダードとは・・・そんなことを考える機会が増えた。今後は、今回の海外研修で学んだ内容をベースとして考えることをあきらめずに、追求する姿勢を大切にしていこうと思う。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

私たちの質問に対して回答がグレーではなく、スタッフさんなりの回答を聞くことができて良かった。もちろん、JICA に所属しているため立場として言わなければいけないこともあると思うが、一個人としても JICA スタッフとしても2つの側面から話を聞くことができたことはとても良かった。

また、現地視察のプログラムでは、その施設の仕事情況についてそこで働いているサモアの方達から詳しく話を聞くことができた。過去の出来事や、文化的なことについては現地に派遣されている JICA スタッフさんから再度聞くことができた。忙しいにもかかわらず、私たちの研修に同行してくださったことは、とてもありがたかった。次の研修時にも、現地スタッフと関わる時間がたくさんあるとうれしい。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

今回ホームステイをする中で、もっと家族に日本のことを紹介できたらいいなと感じた。以下、箇条書きで示す。

- ・日本の食事の写真や、買い物をする店の写真を用意したら良かった。
- ・学校の写真や周囲の写真を用意すると日本の様子を伝えることができた。
- ・金沢のことが書いてあるパンフレットや雑誌があると興味を持ってくれる。
- ・サモアの子どもたちは、運動が好きだったので事前に子どもたちの様子を現地スタッフから聞いておき、一緒に遊べるものを用意しておくとうかった（フリスビー、たこ揚げ、野球など）
- ・ブルートゥースのスピーカーがあれば日本の歌を紹介できるから便利だった。
- ・英語の辞書を携帯アプリに入れておけば、電波がなくても単語が調べられて便利だった。
- ・JICA の研修でお世話になること、自分たちがどんな目的できているのかしっかりと伝えた方が良い。ホームステイの目的が相手に伝わっていない可能性もあるため。

幸せとは何か

氏 名	細井 啓行	学 校 名	石川県内灘町立向栗崎小学校		
担当教科	理科	実践教科	総合的な学習		
時 間 数	10時間	対象学年	5年生	人 数	31名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

- サモアの生活や文化、自然、問題点について、知り、理解する活動に興味を持って取り組む
- サモアの人々の幸せについて考える
- 自分たちにできることを考える

02 | 単元の評価 規 準

（ア）知識及び技能	世界には様々な国があり、それぞれの生活や文化、自然があることを理解している。
（イ）思考力、判断力、表現力	サモアの国の問題点に気づき、解決策や必要な支援について考え、それらを広く発信している。
（ウ）学びに向かう力、人間性等	世界の国々の生活や文化、問題点に対して、自分なりの思いや考えを持っている。

03 | 単元設定の理由

（1）児童観

本学級の児童は、男女の仲が良く、何事にも前向きに取り組む児童が多い。高学年として、毎朝自主的にあいさつ運動をしたり、委員会の仕事に責任をもって取り組んだりする姿が見られる。学級会の話し合いでも、積極的に意見を出し合い、自分たちのクラスのために、学校のために必要なことを考えてきた。

国際理解への興味・関心と、外国語の授業の必要感についてどう感じているかをアンケートで調査すると、31人中21人が外国に興味があると答えていた。また、25人が外国語の授業が大切だと感じている。その理由として、「外国に行ったら役立つから」という理由だけでなく、「外国の人が増えているから」「外国の会社と取引する時に話せないといけないから」「外国人と関係が出てくるから」など、日本にいても外国との関わりがあることを認識している児童もいる。

（2）教材観

総合的な学習の時間の国際理解教育として、テーマ「幸せとは何か」を本単元では設定した。サモアという国を例に挙げることで、広く世界に目を向けることができ、いろいろな国の人々の生活や文化、自然に興味を持たせることができる。その国の実際の衣装や道具、また映像を通して遠い世界の国を身近なものと感じ、自分事として考えさせたい。そして、世界の国のことを調べる中で、自分の国や生活について見つめ直し、自分の幸せは何か、世界の国の人々にとっての幸せは何かを考えさせていく。

単元末には、自分たちが調べたことや考えたことを異学年の児童に発信させ、国際理解教育や開発教育を全校に広めていくことができる。

(3) 指導観

本単元の導入では、「自分は幸せなのか」を問いかけその理由を明確にさせておく。そこで、サモアの同じ11歳の女の子の写真を提示し、その子が幸せなのかどうかについて考えていく。同じ年齢の小学生について考えさせることで、より身近に考えさせたい。自分たちの幸せの理由となるものがサモアの子にはなかったり、幸せではない理由がサモアにはなかったりすることを知りながら、本当の幸せについて考えさせていきたい。知識だけの授業にならないように、民族衣装や食事（サモア原産は難しい）、音楽、自然（画像）など体験的な活動も交えて、自分の事として考えられるようにしていく。

単元の後半では、SDGs（持続可能な開発目標）を提示し、世界の途上国に対する支援について理解させる。サモアの課題について子どもたちなりの考えを持たせ、日本としてできる支援策を提案させていく。日本人の価値観で行う支援ではサモアの国が良くならなかったり、サモアの人々に喜んでもらえなかったりする。そのことに気づかせるために、くらしや文化、環境などの視点を与え、支援策をより現実的なものにさせていきたい。さらに、その支援策を全校の児童に発信し、今後の一人一人の行動や生き方につなげていく。

04 | 展開計画（全10時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<サモアの子どもたちは幸せなのか> 【学】サモアの国に興味を持ち、調べようとしている	・自分は幸せなのかを考える。 ・「幸せ」「幸せではない」と思う理由。 ・サモアの女の子は幸せなのかを考える。 ・サモアという国をもっと知らなければ分からない。 《幸せとは何か》 ・サモアを調べてもっとよく知ろう。	・サモアの女の子の写真
2	<サモアってどんな国なのか（自然）> 【知】サモアの自然環境や町の様子を理解している	・自然がいっぱいあってきれいな国。 ・フルーツの木があって暖かそうな気候。 ・ビルやお店、レストランもある。 ・面積が約 2800km² で人口が約 19 万人。 ・日本の都市と比較する。 ・津波やサイクロンも来る。	・海や山、町のビル、リゾートホテルなどの写真
3	<サモアってどんな生活をしているのか> 【思】サモアの人々の生活について、自分の生活と比べて幸せなのか考えている	・きれいな衣装を着ている。 ・家に壁がない。 ・自給自足で生活している。 ・楽しそうに歌ったり踊ったりしている。 ・お父さんに入れ墨が入っている。 ・家族と親戚と一緒に暮らしている。 ・マタイ（酋長）制度がある。 ・厳しいきまりがある。 ・男女の役割がはっきりしている。 ・子どもたちも家の仕事をしている。	・村やファレ様式の家、畑や家畜、食事の写真 ・ラバラバなどの民族衣装 ・伝統的な音楽や踊りの映像 ・パワーポイント（解説）
4	<サモアってどんな産業が盛んなのか> 【知】サモアの産業や問題について理解している	・観光産業が盛んな国。 ・外国からお金持ちがたくさん来ている。 ・外国の商品がたくさん輸入されている。 ・出されたごみはどうなっているのか。 ・電力問題。 ・仕事がない人は海外へ出稼ぎに行く。	・空港やリゾートホテル、ビーチ、飲食店、民芸品などのお店の写真 ・町のゴミや処分場の写真

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
5	<どんな支援をすればいいのか> 【思】サモアの問題についてどんな支援が必要かを考えている	- 世界の途上国に対して国連がどんな支援をしているのかを紹介する。 - サモアの現状と問題を踏まえて、支援策を考えグループでまとめる。 - 各グループの支援策を発表し交流する。	- パワーポイント (SDG sの解説) - ワークシート - 発表用模造紙
6 本時	<本当に必要な支援は何か> 【思】サモアの立場に立った支援策について考えている	- 考えた支援策を発表し、サモアのためになるのかを話し合う。 - 支援策のデメリットについて考える。 - 支援の在り方について考える。	「[ぼくのお父さんはボランティアというつに殺されました] - ワークシート
7	<どのように伝えればいいのか> 【学】サモアの現状と自分の考えをどのように伝えればいいのかを考えている	- サモアの人々、世界の人々が幸せになるための支援策を広めるための方法を話し合う。 - 発表方法を決め、役割分担をする。	
8	【思】サモアの現状と自分の考えを、資料にまとめることができる	- 発表の準備をする。 - 発表の練習をする。	- 画用紙、模造紙 - パワーポイント (発表用)
9	<自分の考えを伝えよう> 【思】サモアの現状と自分の考えを、資料を用いて伝えることができる	- 全校集会で発表する。 - 意見交換をする。	発表用の資料
10	<学習をふり返ろう> 【学】これからの自分の行動や生き方について考えている	- 学習を通して学んだこと。 - 今後の生活や学習に生かしたいこと。	ワークシート

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
つかむ (5分)	1 既習を確認し、課題をつかむ <サモアにどんな支援をすればいいのか> - 考えた支援策をグループごとに発表する。 - どの支援策がサモアの国のためになりそうかな。	サモアの現状と課題を明確にすることで、支援策がどういう効果があるかに着目させる。	【写真1】 【写真2】 各グループの支援策ポスター
考える (5分)	2 自分の考えを持つ ゴミが処理できる施設を作る考えはいいね。	支援策が有効なのかどうか、自分なりの考えが持てるように、ワークシートに評価させる。	ワークシート
話し合う (30分)	- 分別リサイクルをしたらゴミが減らせそう。 - 台風に備えた丈夫な家を建てれば安全だね。		SDGsの17のグローバル目標パネル

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
	・学校の施設を良くして、授業の時間を増やせば、子どもたちがもっと頭が良くなるはずだね。 ・病院をもっと建てると患者さんを治せるね。 ・食生活を直せば病気が減るはずだよ。 3 考えを交流する ・考えた支援策は本当にサモアのためになるかな。 ・施設を作るにはお金がかかるね。 ・サモアの気候にあった家がいいんじゃないかな。 ・子どもたちは家の仕事があって大変だよ。 ・病院を作っても医者になれる人がいないかも。 本当に必要な支援とはどんな支援なのか ・自分たちの幸せとサモアの人の幸せは違うのかもしれないよ。 ・日本人でないとできないことはサモアでは続けられないよ。 ・サモアのくらしや文化を大切にしないだめだよ。	・支援策のデメリットについて話し合わせるために、サモアのくらしや文化、環境などの視点を与える。	
まとめる (5分)	4 まとめる 支援をするときには、相手の立場になって支援を考えなければ本当の支援にはならない。 5 ふり返りをする ・自分たちがしたい支援が、相手がしてほしい支援だとは限らないんだね。 ・相手の気持ちや幸せを考えることが大切だね。 ・アグネスに幸せになってもらいたいな。	【思】 サモアの立場に立った支援策について考えている。 ・昔のサモアのくらしや文化のよさを提示し、サモアの立場で考えさせる。	【写真3】 ・「ぼくのお父さんはボランティアというやつに殺されました」 【写真4】 ・ワークシート

≫ 授業実践の様子



写真1 各グループの支援策



写真2 各グループの支援策発表



写真3 支援策の改善



写真4 授業後の板書

06 | 本時の振り返り

前時まで、グループ内で支援テーマを1つに決めて話し合わせた。支援策をまとめる活動に時間がかかったが、グループ活動にすることでどの児童も活動に参加することができた。本時では、ワークシートで各グループの支援策を評価させることで、自分たちの支援策と比べながら聞くことができた。

ねらいに迫るために、支援策のデメリットはないのか問い返した。社会科で学習したゴミ処理場の建設に伴う問題や、食材を集めるための輸送費用などに気づき、自分たちの支援策をより実現可能なものに直さなければならないことに気づかせることができた。支援策を改善するための時間を十分に確保できなかったが「途上国の人たちを少しでも助けたい」という気持ちを持たせることができた。

終末では、相手の立場に立って考える大切さに気づかせるために、資料「ぼくのおとうさんはボランティアというやつに殺されました」を提示した。自分たちが考えた支援策が相手の国の人を傷つけることもあると知り、自分の価値観や思いが必ずしも相手と同じではないことに気づかせることができた。ただ、支援策のデメリットに問いかけなしでは気づけなかったので、資料「おとうさんはボランティアというやつに殺されました」をもっと前に提示すればよかった。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

「あなたは幸せですか」という話し合いから単元に入った。その後、サモアの11歳の少女アグネスは幸せなのかを想像した。幸せの理由として、家族や友達がいること、家があること、戦争がなくて元気に生活できることを挙げていた。その後も、

サモアの自然や食べ物、首都アピアの街並みから、幸せそうな国だと感じていたが、サモアの産業や文化、問題点を扱うにつれて、日本の国や生活の方が幸せだと感じ始めた。

○ ふり返り
思っていたよりぜんぜん幸せそうなのとて
安心しました。建物はいくぶんあるしきれ
いなビーチもあるのてわたしはサモアが好きです
住みたいです？

4. ふり返り
幸せな人がたくさんいたのてよか
たです。アグネスについてもっと
知りたいなと思いました。
どんなリオン人だろうね。

○ ふり返り
サモアの学校は道具が少なくてじゃあみんな
うがえないなら私は日本の学校の方がいい
と思いました。どうして？日本がいい？
サモアの子供たちはどうなの？

○ ふり返り
アグネスがこうそうを作るため、こうしている所と始めて
見たので少しかわいそうでした！(泣)でもサモア
の人は日本人よりがんばってせいかつしているんだ
なと思いました。日本とどちらがいい

第二次のサモアに対する支援策を考える場面では、日本も外国から一方的に何かをされたら嫌になるかもしれないと感じ、相手の立場に立って考える大切さを理解した児童もいた。

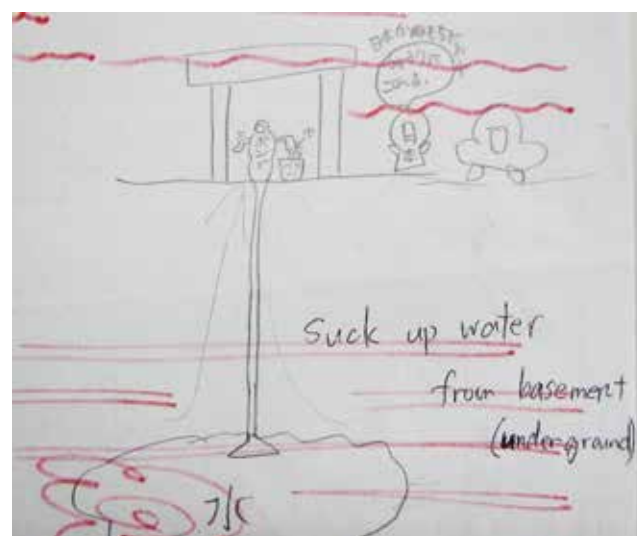
3は人の何かを売って、お金にするのていいなあ
と思いました。わけはサモアにはくた物が
ほつふたからです。ちがう意見も出て楽しかったです。

私は1-7は人全部いい方法かと思っていたけど、
その方法の中には、自分たちのことしか考えてない
方、でも、サモア相手の国の人はさかばうたいやにな
たりしてはうのもあからさかみねては相手の国のた
りこともうたあからさかみねては相手の国のた

第三次の発信活動と関連付けて、英語活動ではアグネスに手紙を書いた。サモアのくらしを心配する質問や日本に来て楽しんでもらいたいというメッセージが多かった。また、飲料水に関わる問題に対して、井戸を作る支援策を絵で描いた児童もいた。

質問 (アグネスへ)
1. 大学に行きたいですか？ (Do you want to go to the university?)
わたしは大学に行きたいです。(I want to go to the university.)
2. しょう来の夢は何ですか？ (What is the future dream?)
わたしのしょう来の夢はイラストレーターです。イラストが(の)が大好きで、好きな
ことを仕事にしたいと思うからです。(My future dream is an
illustrator. I like drawing an illustration, and this
is because it thinks a favorite thing to want to
do it for work.)

Suck up water
from basement
(underground)
水



≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

事前アンケートでは、外国に興味があると答えた児童が半数以上いたが、外国＝先進国、世界遺産、リゾート地のイメージが強かった。途上国や異文化の存在は知識として持っているが、自分たちとの関りが感じられない実態があった。

(授業後)

サモアの衣装や装飾品、生活の道具や食べ物（バナナジャム）などの実物を見たり、触ったり、食べたりすることで、その土地で生きている人たちがいることを実感していた。自分たちの日本にもある伝統的な衣装や食べ物と比べながら、サモアの国の物がどれだけ大切かを考えることができた。

また、授業で取り上げたサモア以外にも世界には開発途上国と呼ばれる国々が全体の75%あることを知り、たまたま運良く日本に生まれて生きているということだけで済ませられないと感じる児童も出てきた。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦労した点

児童自身の力で情報収集が難しい国だったので、教師側からできるだけ多くの写真や情報を提示した。そのため、児童は受け身になったり、批判的に考えられなかったりし、主体的に学ぶ姿が見られない児童もいた。また、発表の場面でも相手意識が弱かった。自分たちが理解した内容を、相手が分かるように伝える資料の書き方や話し方にもっと指導が必要だった。さらに、サモアの国での学びを他の途上国でも生かせるような学習にしたかったが、それぞれの途上国の現状の知識が乏しく関連を持たせていくことが難しかった。

級外という立場で、指導教科以外の授業をするという時間的な大きな負担があった（指導教科の時間を削って授業をした）。児童の実態を他教科との関連を図りながら実施していく上でも、学級担任が指導した方が効果的だと思う。

≫ 2. 改善点

まずは、6年間を見通した国際理解教育カリキュラムを作ることが必要である。海外研修に参加した教師しかできないような授業ではなく、1年生から6年生までの発達段階における国際理解や国際交流を計画的に行えるようにしたい。また、各教科や道徳、英語活動、キャリア教育とも関連付けて実施できると効率的で効果的な指導ができると思う。

≫ 3. 成果が出た点

英語活動の中でしか異文化に触れることがなかったが、今回の授業で途上国を含め、世界の国や人々に大きく目を向けるきっかけを作れた。サモアの人の幸せについて考えることで、自分の幸せや友達の幸せについても考えることができた。それは、相手の立場に立った見方、多面的な見方を理解するきっかけにもなったと思う。

また、校内の教員にも授業を見てもらうことで、国際理解教育の意味や大切さを広めることができた。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

所属校で研修報告（文書） 対象人数：教員26名

異学年他クラス（4クラス）で実践授業を実施

対象人数： 6年1組（30人）5時間 6年2組（29人）5時間

3年1組（23人）2時間 3年2組（23人）2時間

【参考資料】

宮崎大輔「ぼくのお父さんはボランティアというやつに殺されました」

私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標（SDGs）」～2030年までの17の目標～

どうなってるの？世界と日本 わたしたちの日常から途上国とのつながりを知ろう

【添付資料】



5年 総合的な学習

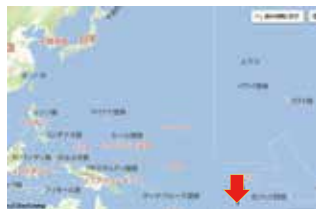
内瀬町立向栗崎小学校

「あなたは 幸せですか」

アグネス



サモア独立国



人口 195,125人

日本の約1/650

面積 2,842km²

日本の約1/130

幸せとは何か

〈サモアは どんな国なのか〉



ファレオロ空港



首都 アピア



日本大使館



総合的な学習 月 日()

名前

1、「あなたは幸せですか」

A.

(理由)

2、「 は幸せだと思いますか」

A.

(理由)

3、

4、ふり返り

総合的な学習 月 日()

名前

〈サモアはどんな国なのか〉

メモ

○ ふり返り

5年 総合的な学習 月 日()

名前

〈 どんなくらしをしているのか 〉

① 学校の様子

② 生活

【衣】

【食】

【住】

○ ふり返り

総合的な学習 年 組 名前 月 日()

〈 どんな支援が必要なのか 〉

① 世界の国々 約(200)か国

『(先進)国』と『(開発途上)国』

② 日本が(輸入)している物

③ 『(開発途上)国』のかかえる問題

④ 「(国連)」の取り組み

⑤《(どの国の、どんな人に、どんな支援をすればいいのか)》

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

今まで世界の国々や人々のことを授業で子どもたちに伝えてきたが、それは代表的な国や表面的な話ばかりで、世界の人々の本当の声や姿を日本の子どもたちに伝え切れてはいないと感じていた。本研修に参加して、そこで生活する人々の思いや世界に対する思い、その国の自然環境や生活環境の問題をこの目で確かめたいと思った。また、日本の環境や文化についても紹介し、日本の良さも伝えられる交流ができればと考えた。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

「途上国に対して支援をしたい」という思いで産業から生活、都市部から農村部まで多面的にサモアの国や人々を見ることができた。一番驚いたのは、首都アピアの生活とホームステイをしたアウファガ村の生活のギャップだった。都市の中心部では大きなビルが建ち並び、そのショーウィンドウには衣料品が飾られ、飲食店には観光客も出入りしている。また、道路には多くの車と満員のバスが行き来している。しかし、その場所から車で1時間ほど移動した農村部では、壁もないファレ様式の家に家畜と農業で自給自足の生活をする人々がいた。なぜ、こんなに小さな国でこれほどの生活の差があるのか、信じられなかった。首長（マタイ）制度が残り、自然と共存してきた国の中に、外国の街が入ってきたかのような感じがした。自分たちがしている支援は、サモアの国をどう変えてしまうのか、サモアの人々を本当に幸せにできるのかを考えさせられた。協力隊として派遣されている人たちは、任務とは別の仕事もさせられていると聞き、現場で必要とされていることや今のサモアに必要なことは違うのだと分かった。日本目線で一方的に支援をしても相手にとっては余計なお世話になることがあり、相手の立場に立った支援、つまりその国の人の力で持続可能な取組になっていくような支援が大切だと感じた。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

サモアの現状を知ること、日本という国を見つめ直すことができた。普段自分たちが食べているもの、来ている服、電子機械の材料の多くが外国から輸入されていることは知っていたが、どのような人たちがどのような環境で働いて作っているのかは考えたことがなかった。経済的に発展している日本が本当に幸せなのか、サモアが不幸せなのか、数字だけでは測れないと実感することができ、多面的な見方で物事を見ることができるようになったと思う。また、今回の研修で一番不安だったことは言葉であったが、言葉が通じなくても十分に気持ちを伝えたり相手の思いを理解したりすることができた。肌の色や言葉が違って、相手を思う気持ちや自然や命を大切に思う思いは変わらない。世界中のみんなが平和な世界をつくっていかなければならないことを子どもたちに伝えていきたい。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

本校の国際理解教育のカリキュラムを見直し、SDG sに沿った系統的な国際理解教育・開発教育を全職員で進めていきたいと思う。例えば、1年生の外国語活動の中では、まず英語を話す国、それ以外の言葉話す国・人々がいることを知る。そして2年生ではそれらの国のあいさつを覚え日本以外にもたくさんの国の人々が地球上で生きていることを理解する。そういった繋がりを意識した取り組みを入れることを想定している。3年生以上の総合的な学習の時間の中には年間10時間の国際理解教育の時間が確保されているので、衣・食・住、ごみ、経済・貿易、文化などについて、教科と関連づけながら進めていくことができると思う。また、それぞれの学年の発達段階に応じた疑問を投げかけ、課題解決型の学習にしていき、「子どもたちの答え」を学習の成果として発信できるようなカリキュラムを作っていきたいと考えている。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

国内での事前研修で、途上国について、また支援の在り方について協議することによって、現地視察中は具体的な視点を持つことができてよかった。現地に行って自分の目で確かめることは大切なことだが、実際に見ることができないものや見過ごしてしまっていることもあるはずだ。派遣隊員の間報告会に参加させて頂くなど、現地で滞在する人たちから聞くことでより実態をつかむことができた。

スケジュール的にタイトであったが、教育に限らず幅広い分野の施設や機関を訪問でき、多面的にサモアを視察することができた。特に、ホームステイは農村部の暮らしを生で体験でき、そこで暮らす人の幸せについて、その目線で考えることができてよかった。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

今回参加させていただいた 9 名の教員は、女性は少なかったものの、小学校・中学校・高校それぞれの校種から参加があり、年齢層も幅広かった。様々なバックグラウンドから意見を出し合うことができたので、多様な価値観や視点を仲間内で討論できた。JICA の多くの予算を費やしてこのような研修を準備していただいているが、今後予算の関係上、研修が縮小される話を聞いた。こんな貴重な経験は、お金を払ってもなかなかできることではないと思う。研修員の自己負担が多少増えたとしても、できるだけ多くの教員が参加できるようにしていただきたい。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

体験しなければ感じることはできない、考えることができないことがあるから、まずは体験することが大切だと思う。もちろん英語や現地の言葉を話せるに越したことはないが、相手のことを理解したいという気持ちと、自分の思いを伝えたいという気持ちがあれば、分かり合うことはできる。また、他国のことを考えるときに、必ず日本の国についても考えることになる。改めて日本の良さや日本の問題点についても考え、相手の国の人たちに日本のことも説明できれば喜んでもらえると思う。とにかく、相手の国の人たちや研修仲間と積極的に関わって、充実した研修にしてほしい。

未来がよりよくあるために ～自分の良さに目を向けて～

氏 名	北 洋輔	学 校 名	石川県白山市立蝶屋小学校		
担当教科		実践教科	国語・道徳・総合		
時 間 数	10時間	対象学年	6年	人 数	67名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

国際協力をするには、まず国際理解の視点を持つことが必要である。一方的な支援の姿勢だけではなく、相手にとって何が必要か、自分に何ができるかを考え、サモアへの支援の内容について提案する。その中で、自分の良さや日本の良さに気づき、自分がどう生きていくかについて考えることができる。

02 | 単元の評価 規 準

（ア）関心・意欲・態度	「サモアの未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、友達の意見も聞いて考え、自分の考えを書こうとしている。
（イ）話す・聞く能力	自分の立場や意図をはっきりさせ、相手の意見と比較したり、関連付けたりしながら話合っている。
（ウ）書く能力	自分にとって必要な情報を用い、説得力のある意見文を書いている。
（エ）伝国	書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書いている。

03 | 単元設定の理由

（1）児童観

本学級の児童は、ALT に対しても積極的に話しかける児童が多く、海外のことを知りたいと思っている児童が多い。一方で、海外に行った経験がある児童は少なく、校内にも外国人は ALT しかいない。そのため、世界の状況や、日本の立ち位置、日本の文化の良さや、国民性を客観的にとらえている児童はほとんどいない。

（2）教材観

本単元では、自分の身近に起こっている問題を扱う。その事柄に対して、様々な資料から自分にできることを考え、意見や思いを発表することをゴールとしている。導入部で、問題に対する意欲をしっかりと持たせることで、最後まで主体的な思いをもって調べたり、発表したりすることができる単元である。

（3）指導観

単元の導入部では、サモアについての現状を知り、多くの日本人が支援を行っていることを伝える。ここでは必ず「サモアへの支援が、日本の将来にもつながる」という点を抑え、ゴールに向けて明確な目的や意欲を持てるようにする。

次に、すぐに自分にできる支援を考えさせる。ここでは、一方的な立場で支援の方法を考えさせることで、後に出す資料の効果を高められるようにする。児童のボランティアに対する意欲や、思いが盛り上がったところで、現地の JV の悩みや、資料「ボクのおとうさんは、ボランティアというやつに殺されました。」などについて考えさせる。ここでは必ず「支援のためには相手を理解することが大事だ」という点を抑える。こうした学習を踏まえて、最後には「ボランティアの必要性」を問う時間を設け、自分の意見を明確にし、クラスでディスカッションを行い、さらに考えを深められるようにする。

最後には自分のできるボランティアについて、最終的な意見文を書き、富山の児童と意見交換を行う。

04 | 展開計画（全10時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	日本にはどんな問題があるのかな	日本の総理大臣とアメリカの大統領の会話を予想し、日本の問題に目を向ける。 ・家庭で日本の問題について話してくる。	・パワーポイント
2 3 4	世界の国を調べて、良いところや問題点を話し合おう	・196カ国をくじ引きし、自分の担当する国について、良さと問題点について調べる。 ・観光地だけではなく、人間性や食べ物などの良さも含めてプレゼンで紹介し合う。 ・家庭学習で、自分の調べた国の問題について話し合う時間をもつ。	・PC ・キッズ外務省
5	サモアにはどんな問題があるのかな	・サモアの現状、問題について知る。 ・自分にできる支援について考える。 ※事前に宿題で支援内容を考えさせる。 (家族と相談する)	・大型テレビ ・パワーポイント ・サモアの現状などが一目でわかるワークシート
6 7	サモアへの支援をグループで考えよう	・各グループで一つ、具体的な支援を考える。その際、扱う問題は以下の点に絞る。 ○肥満問題 ○借金問題 ○労働問題 ○ゴミ問題	
8	サモアの未来のためにどんな支援ができるかな	・サモアに対してできる自分の支援を発表する。 ・ボランティアをするうえで必要な資質や態度は何かを考える。	・JV の言葉など ・資料
9 本時	ボランティアって何だろう	・ボランティアの本質をとらえ、今後の人生でボランティアとどうかわるかを考える。 ・身近なことにもボランティアとしてできることがあることを知る。	
10	より良い未来のためにできることを考えて書こう	・これまでの学習の中で考えてきたことをもとに、自分自身の良さを生かした取り組みを考えて書く。	

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	これまでの学習をふりかえる ボランティアのモラルについて質問する	・議論の下地となるボランティアの本質押さえる。	・パワーポイント(クイズ) ・ワークシート

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
展開 (30分)	＜ボランティアって何だろう＞ ボランティアの3原則を押さえる ボランティアに向かう姿勢について考える	・立場を明確にし、討論を始める。 ・課題意識に迫らせる。	
まとめ (10分)	将来ボランティアをするかどうかを問う ボランティアに生かせる自分の良さとは？ 今日からできるボランティアについて考えて発表する	評価規準 ・自分の立場をはっきりさせ、相手の意見と比較したり、関連付けたりしている。 ・意見が止まらないように、教師からも指名を行う。 ・教師自身の悩みも開示し、誰もが悩みながらボランティアを行っていることを知る。 ・男女問わず話ができるように声をかける。 ・時間がなければふりかえりを書かせる。	・サモアでの活動を動画にし、自分らしくボランティアをすることについて考えさせる

≫ 授業実践の様子



ボランティアという言葉の語源をもとにパワーポイントでクイズを行い、ボランティアの本質を考えた。意欲的に問題に向かう姿が見られた。



ボランティアの三原則を押さえた。これら3原則は、日本のボランティア団体が提唱したものである。



多くの児童が活発に意見を言い合った。これまでの学習とつなげた発言が多く出た。



肯定派と否定派とに分かれ、多くの児童が活発に意見を言い合っていた。



サモアで行ってきた、教師自身の交流の様子などを見せ、自身の良さを生かしていけば、人の役に立つのではないかと、という教師の考えを示した。



終末では、自分の良さを生かすことがボランティアにつながることであると伝え、男女問わずお互いの良さを伝え合う姿が見られた。

06 | 本時の振り返り

これまで漠然ととらえていた「ボランティア」という概念を、具体的に考える時間を設けた。そのことで、児童は更にボランティアについて身近に、そして前向きに考えることができていた。討論の場では、ボランティアをしたい理由、したくない理由について、建前ではなく本音で意見を語り合い、それぞれがボランティアとは何かをよく考え、自分なりに価値づけできていた。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

単元を通した児童のふりかえりでは「改めて日本の良さ、すばらしさを感じた」という意見が多かった。これまで、世界の問題について考えたことのある児童はほとんどおらず、世界の問題を知ること、日本や自分自身を客観視できていたようだった。一方で、日本だけが「良い国」「幸せ」と考えていた子どもたちも、サモアにはサモアの幸せがあるということに気づき、お互いに尊重し合うことが大切だと述べる児童がたくさん見られた。

≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

単元の初めでは「何のために世界の問題を学ぶのかわからない」と言っていた児童も、単元末には「いつか自分もボランティアをしたい」と言っており、ボランティア、支援について前向きに考える児童が増えた。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

- ・サモアの服装や、村での様子などを見て「気持ち悪い」「日本人で良かった」などという児童が大半であった。
- ・他の国が困っていようと自分には関係ないとする児童が多く、授業の必要性や、意義を感じる事ができていなかった。

(授業後)

- ・サモアの方が優れている点や、サモアの方が楽しそうに暮らしているポイントなどにも目を向け、お互いに「幸せ」と感じるものは違うことを理解し、他国を尊重しようとする姿勢が見られた。

- ・授業前は、ボランティアは「良いことだからする」という、漠然とした考えを持っている児童がほとんどであった。しかし、授業を進める中で「ボランティアを行うことで、自分たちにも良い影響がある」という考えを持つようになった。単元末には、多くの児童が、自分の将来のためにもボランティアを行っていきたいと考えるようになった。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

児童は、ボランティアの価値について考えようにも、世界がどのような状況かを考えたこともなく、貧困や紛争についても、自分たちの生活とははるかに離れているため、まずはそのような現実を知る機会が必要である。そのため、最初に世界についての情勢や、様々な文化について知るための時間を設けた。しかし、突然「世界について調べよう」と言っても、必要感がなく、単元のスタートでは、主体的に授業に取り組むことができなかった。

≫ 2. 改善点

次に同じ授業を行うならば、世界について知る時間をしっかり確保できるようにしたい。そのため、土台となる知識を1学期の間に身につけさせる。そうすれば、様々な角度から支援の方法や、価値について考えることができるだろう。

≫ 3. 成果が出た点

学習を始めて3時間たったころ、子どもたちから「何のために世界について学ぶのかわからない」という疑問が聞こえ始めた。そこで、そのままそれを学習課題とし、世界について学ぶ価値について、クラス全体で考えた。その結果「生きるもの同士助け合うことは当たり前」「まずは知ることが大事」「自分たちの未来のため」という価値が子どもたちの中から生まれた。その結果、次時以降から、前向きに学習に取り組もうとする児童が増えた。



≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

同学年、他クラスも交えて、67人での授業を3度行った。世界の問題や、日本の問題について考える時間。そして、調べたことを発表する時間。さらに、マクロにサモアの現状について考える時間である。単元末の、ボランティアの価値を考える時間では、どちらの児童もボランティアの価値を再考することができ、これからの生き方について考えていこうとする姿が見られた。

≫ 5. 備考（授業者による自由記述）

授業を通す中で、児童だけでなく、自分自身もボランティアをすることの価値について考えさせられた。子どもたちの発言について、ともに考え、ともに話し合うことで、自分にはこれから何ができるのかを、しっかりと考えることができた。また、この授業を通して、子どもたちの発言に耳を傾けることの重要性を改めて感じる事ができた。授業は、教師だけが作るものではなく、教師と児童の共同作業である。これからも、全ての授業で、子どもたちの言葉を大切にしていきたい。

【使用した資料】

- ・サモアで撮影した写真や動画（プレゼンテーションを行った）
- ・現地隊員のインタビュー

【参考資料】

- ・道徳資料「マザーテレサ」
- ・総合学習に役立つボランティア（1）ボランティア入門 こどもくらぶ

所 感

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

海外ボランティアの必要性。ボランティアを行う上で気を付けたい点や、国際理解のためのものの考え方やとらえ方。サモアでの JICA ボランティアの認知度や、位置づけ。国際交流にあたって、必要とされるグローバル人材とは何か。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

自分たちの生活が、多くの支援を受けて成り立っているということをあまり国民が理解していないこと。モノは豊かだが、人から何かを学ぼうといった姿があまり見られず、自分たちが何を知っていて、何を知らなければいけないか、そのようなメタ認知ができていないように感じた。協力隊の職員がマンパワーとしか思われておらず、日本の優れた技術や考えが広まっているような様子がないことが不満であった。逆に、サモアに合った支援にしていかなければ、独りよがりの支援では何にもならないということが分かった。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

研修を通して、日本の文化のすばらしさに改めて気が付いた。しかし、一方的な思いだけでは相手を本当に幸せにすることはできない。真の国際理解は、相手を理解したうえでなければ始まらない。そのためには、相手から答え、思いを引き出す必要がある。なんでも積極的にできる人材だけではなく、フラットな視点で物事をとらえたり、相手の立場を尊重できる人間の育成をしていきたいと思った。自分自身が偏った考えをしていたので、どんな人間関係においても、相手の過去や文化、思いなどを大切にしていきたいと思った。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

まず、国際理解のためには、相手を理解することも、自分自身を理解することも大切である。そうした視点を常に与えられるような教育をしていきたい。特に、ALT の先生などのかかわりの中で「相違点」ばかりに目を向けるのではなく、共通点にも目を向けさせていきたい。自分自身も積極的に英語を学び、様々な国を見て、そして自国の良さ・他国の良さについて考える授業を子供たちに対して展開していきたい。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

議論する場などもあり、本当に毎日が勉強になった。楽しかったというと、なんだか稚拙だが、本当に心の底から学びを楽しむことができた。なぜ学校現場だけではなく、様々な場を回るかをよく考え、そこから何を得られるかを毎日考えることができた。国際理解とは、ただ一面だけを見てできるものではない。そうした様々なところに目を向け、相手を理解しようとする気持ちがなければ本当の援助はできないのだと気づかされた。プログラムなど、本当によく考えていただき、かけがえのない時間を過ごさせていただきました。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

あえて提言させていただくなら、振り返りの場だけでなく、何かのテーマを持ってディスカッションするような時間があった方が良いと思います。夜は部屋でミーティングをしていたのですが、その場のおかげで毎日学びが深くなりました。自然発生すれば良いですが、そうでない場合はプログラムに位置付けても良いかと思います。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

僕は毎日（朝か夜に）パソコンで振り返りを行っていました。時間はありませんが、移動時間や空き時間にもメモを残すことができます。毎日記録を残すことで、日々考えが変わっていくのが可視化でき、成長を感じることができました。荷物にはなりますが、軽めのノートパソコンがあるのなら、必須だと思います。また、ただ人の話を聞いているだけではなく、必ず自分なりの疑問や課題をもってプログラムに参加するべきです。そして現場では、日本にいたときに見えなかった疑問がたくさん見つかります。やはり、必ずメモや記録などを残し、わからないことなどは周りのメンバーや JICA スタッフ、現地の方に聞いて、とにかくいろいろな意見を知るべきです。時間があればつぶやいて、とにかく議論しましょう。また、現地の言葉はどんどん覚えてほしいです！相手への理解がなければ国際理解は生まれません。言葉を覚えることが基本だと思います！3語ほど覚えれば、コミュニケーションがすぐにとりやすくなります。

未来がよりよくあるために

氏 名	表 克昌	学 校 名	富山県氷見市立宮田小学校		
担当教科		実践教科	国語科、道徳科、外国語活動		
時 間 数	13時間	対象学年	6年	人 数	33名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

知ろう、考えよう、伝えよう 世界の幸せ

- ・自分なりの課題を決め、話し合い、意見文を書くことができる。
- ・世界の国と比較して、幸せについて考え、ともに生きようとする心情を育てる。
- ・サモアの国の子供と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

02 | 単元の評価 規 準

（ア）関心・意欲・態度	未来がよりよくなるためにどうすればよいのか、友達の考えを取り入れ、自分の考えを書こうとしている。
（イ）話す聞く能力	互いの立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる。
（ウ）書く能力	自分の考えを明確に伝えるために、構成を工夫して、説得力のある文章を書くことができる。
（エ）知識・理解	書き言葉と話し言葉の違いに気を付けながら意見文を書くことができる。

03 | 単元設定の理由

<児童観>

本学級の子供は、国語科「ようこそ、私たちの町へ」の学習を通して、自分で課題を見付け、追究することができるようになってきた。しかし、友達と話し合って考えを深めることや、自分で文章を読み返してよりよいものにしていけることは苦手である。また、消極的な子供も多く、相手と積極的に関わろうとする態度を育てることが大事である。

<教材観>

本単元の国語科は、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元となっている。友達と話し合い自分の考えを深め、それを基に自分で構成を考えて文章を書く。書いたものを視点を沿って推敲する。よりよく伝えられるよう、言葉の働きに関して見方や考え方を育てていくことがねらいである。

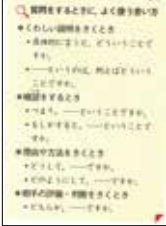
また、幸せについて、サモアと比較しながら話し合うことで、より深く考えさせたい。よりよい未来のため、自分たちができることに取り組もうとする心情を育てたい。

<指導観>

そこで、本単元では次の2点に留意して、授業を進める。一つ目は、話し合い活動の充実である。そのために、「詳しい説

明を聞くととき」「確認をするとき」「理由や方法を聞くととき」「相手の判断を聞くととき」等の「話し方のアイテム」を利用して、話し合いのスキルを身に付けさせたい。二つ目は、意見文を書く場面での ICT 活用である。これまで作文を推敲し、修正することは、作文が苦手な子供には大きな抵抗があった。そこで、ワープロを使うことで、修正や意見交換がより簡便に、楽しくできると考えた。また、子供たちは単学級で限られた人間関係の中で生活をしている。そこで、他の学校との交流を通してより広い見方や考え方を獲得させたい。

04 | 展開計画（全 13 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	学習の計画を立てる。	- 教科書を読み、単元の目当て、学習の流れをつかむ。 <添付資料：資料①参照>	教科書（光村図書）
2	自分の課題を調べる。	SDG s の 17 の課題の中から一つ選び、インターネットや書籍を使って調べる。	
3	仮の意見を考える。	調べたことを基に自分の仮の意見を考える。	
4	話し合いの仕方を知る。	- 教科書を使って、話し合いの仕方を学ぶ。 <添付資料：資料②参照>	
5	グループで話し合い、考えを深めよう。	似た意見をもつ子供でペアやグループになって話し合い、考えを深める。	
6	意見文を書くための準備をしよう。	- 意見文の構成の仕方を知り、意見文を書くための準備をする。 <添付資料：資料③参照>	
7, 8	自分の意見文を書こう。	説得力のある文章を書く工夫を理解し、意見文を書く。	タブレット PC
9	意見文を読み合う。	友達と意見文を読み合って、よりよい意見文を書く。	タブレット PC 

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
10 本時	幸せについて考える。 (道徳科)	・ サモアの国と比較しながら、幸せとは何か考える。	パワーポイント
11	サモアについて知ろう。	・ 子供たちの疑問を基にサモアについて理解を深める。 	パワーポイント
12	英語を使って交流しよう。	・ サモアの小学生とビデオ通話による交流をして、質問をし合う。 	
13	他の学校と意見文を交換して交流しよう。	・ 他の学校と意見文を交換して、考えを伝え合う。	

05 | 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	「幸せとは、何か」について考え、発表する。 子供から出た幸せの条件 ・ お金 ・ 健康 ・ 友達 ・ 食べ物 ・ 平和 ・ 愛	・ 事前に意見を書かせておき、発表しやすくする。 ・ 保護者などにも質問し、考えを広める。 ・ グループで、幸せの条件の中で何が一番大切な、話し合い、考えを共有する。	
展開 (25分)	日本とサモアの小学生の生活を比較して、どちらが幸せか話し合う。 (日本 30 人 サモア 2 人) ・ トイレや風呂等サモアの生活は大変そうだ。 ・ のんびりとしていてサモアの子供たちは楽しそうだった。 ・ 生活は、貧しそうだけどサモアの子供たちは幸せそうだった。 ・ どの国でも家族や友達といれば幸せだと思った。	・ サモアの小学生の生活について紹介する。 ・ 日本の小学生との違いが分かるように板書する。 ・ どちらが幸せか、立場や根拠を明確にして話し合う。	パワーポイント

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
まとめ (10分)	もう一度、幸せとは何かについて考え、書く。 ・日本の方が幸せだと思ったけれど、ランキングはサモアの方が上でびっくりした。 ・改めて幸せについて考えるとよく分からなくなった。	・「世界の幸せランキング」等の補助資料を提示し、考えを深める。 	幸福度指数 (2006)

≫ 授業実践の様子

祖父母学級で行った。

- ・改めて自分は幸せか考えると分からなくなった。自分が幸せと感じたら幸せだと思う。
- ・私にとっての幸せは、「平和」であることです。平和だからみんな健康なのだと思います。
- ・日本と比べてサモアの子供は、元気いっぱい幸せそうだと思います。
- ・サモアのことを聞いて知らないことがたくさんありました。これからもっといろいろな国について調べてみたいです。

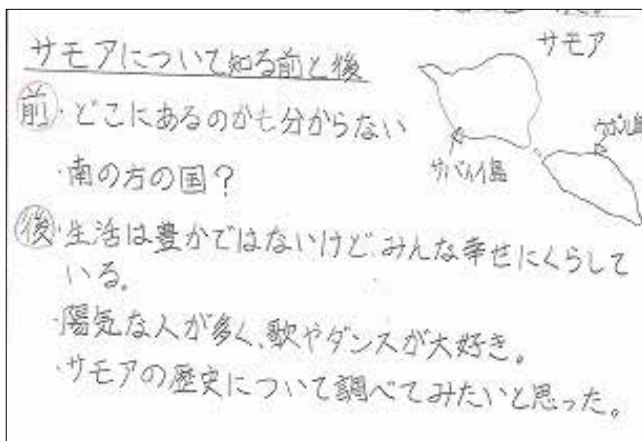


どっちが幸せなのかな？

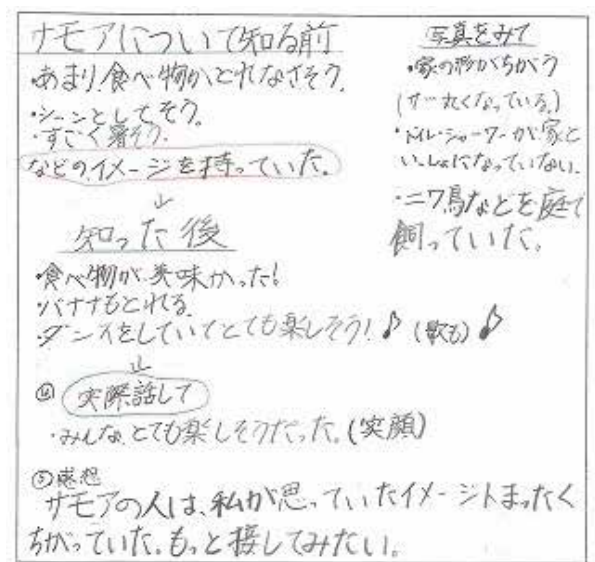
06 | 本時の振り返り

サモアについての情報が足りず、子供たちは「宿題がない」「授業時間が短い」等表面的なことで判断をしていた。子供の発達段階に応じて、多面的な情報を提供することが大事である。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化



児童のワークシート



- ・本当に時差が5時間ある。季節が2つしかない。日本は冬なのにサモアは夏で半袖だった。日本とは違うことが分かった。地球は丸いことを実感した。
- ・英語を聞き取ることができなかったので、外国語をしっかりと学習していきたい。
- ・サモアの子供たちは、本当に明るくて、ダンスや歌が好きということが分かった。
- ・コミュニケーションをとるには、表情に表したり、紙に書いたりして、言葉以外の方法も使って伝えることが大事だと気付いた。
- ・肌の色や食べ物が違うけれど、同じ小学生として仲よくしていきたい。

≫ 単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

- ・もっと色々な国々について知りたいと興味をもった子供がいた。
- ・外国の子供たちともっと友達になって会話をしてみたい。

≫ 途上国・異文化への意識の変容について

(授業前)

- ・ほとんど興味がない。
- ・貧しくて、不便な生活をしている。
- ・かわいそう。

(授業後)

- ・同じ今を生きているのに、時間や季節が違う。
- ・肌の色や生活が違うけれど、楽しく、明るく生活しており、幸せそうだ。
- ・自分の幸せとは何か分からなくなった。考えてみたい。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

教師が経験したことを全て伝えることは、難しい。その中でどのような学習目的で、どのような単元で、どのような内容を提示するかなど判断するのに苦勞した。

≫ 2. 改善点

開発途上国や国際協力については、6年生の3学期の社会科で学習することになっているが、事前に周辺の知識がある方がよりよい話し合いになると感じた。

≫ 3. 成果が出た点

ビデオ通話で実際にサモアの小学校と交流することのインパクトは大きかった。ICTを活用することで子供たちにとってより実感のある学習につながると感じた。

4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

- ① 所属校の職員会議で研修内容を報告 対象人数：教員 15 名
- ② 所属する教員サークルでサモアのことを紹介 対象人数：15 人
- ③ 所属校の祖父母にサモアのことを紹介 対象人数：20 人

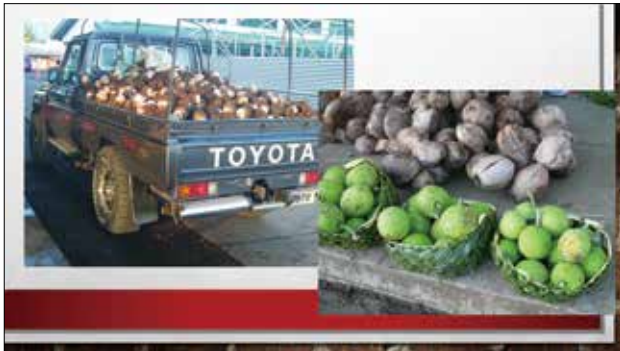
5. 備考（授業者による自由記述）

単元を構成するにあたって、新しいものを作成するのは負担が大きいので、これまでにある学習の中に組み込むことを意識した。そこで、国語科の単元を中心として、道徳科や総合的な学習の時間、外国語活動と連携した単元を構成した。

せっかく機会をいただいたので、授業の展開例が広まればよいと考える。そのため、学んだことを生かし、道徳科の授業等はパワーポイントを作成し、活用した。それぞれの学校の実態に応じて修正を加え、生かしてもらえれば幸いである。

【添付資料】

自作パワーポイントデータ



- ① 学習の計画を立てる
- ② SDGsの中からテーマを決め調べる
- ③ 自分の意見を考える
- ④ ほかの意見を聞き合ひ、考えを深める
- ⑤ 意見文の組み立てを考える
- ⑥ 意見文を書く
- ⑦ 意見文を読み合ひ合う

- ・サマアと比べよう
- ・サマアの学校と交流しよう
- ・石川県の学校と交流しよう

🔍 質問をするときに、よく使う言い方

- くわしい説明をきくとき
 - ・ 具体的に言うと、どういうことですか。
 - ・ ——というのは、例えばどういうことですか。
- 確認にんをするとき
 - ・ つまり、——ということですか。
 - ・ もしかすると、——ということですか。
- 理由や方法をきくとき
 - ・ どうして、——ですか。
 - ・ どのようにして、——ですか。
- 相手の評価・判断をきくとき
 - ・ どちらが、——ですか。

[illegible]

68

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

これは、遊びの旅行ではないということ。昔の遣唐使のように大事な使命を託されたメンバー、という自覚を忘れないようにした。また、ベテランの参加者として話合いをする時などはメンバーをまとめ、チームとしての結束力を高めるようにした。現地では、できるだけ現地の方と話をし、生の声を聞き、体で感じるように努力した。事前の研修で学んだように開発途上国への支援の在り方をどうすればいいのか、見聞したことをもとに考えようとした。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

国レベルの問題とボランティアレベルでの問題があると感じた。ボランティアだけの力ではどうにもできないことも多い。サモアという国の人々は幸せそうである。しかし、知らないうちに中国の植民地化、食事の欧米化による健康被害、ごみによる環境問題、メディアによる情報化等の波は押し寄せている。ホームステイ後、「フェイスブックをしているか」と聞かれ、すぐに友達申請が届いたことには驚いた。昔ながらの生活と最新の情報化の波がブッキングしていることを目の当たりにした。日々の生活に危機感が少ない人たちに、それをどう伝え、実践していくかは難しい問題だと感じた。まず、郷に入っては郷に従えのことわざの通り、サモアのことを体験し、理解することから始め、信頼関係を築くしかないと感じた。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

これまでの自分が何も知らないで、子供たちに国際理解だのボランティアだのと言っていたことが恥ずかしい限りである。まさに百聞は一見にしかずで、どれだけの本を読んでも体験しないと分からないことばかりであった。子どもに教える上での幅が広がったと実感する。

子供たちに伝えたいことは、知ることの大切さ、学ぶことの喜びである。まず、いろいろなことに興味関心をもって知ることである。サモアのこと、開発途上国のことも知らなくても生きていける。でも、それを知ること、考えが深まり、生き方も変わってくると考える。そして、先進国に生まれたばかりができることを考え、同じ地球人として関わっていくことができる。次に「勉強することは最高に贅沢な遊びである」といった教師がいたが、まさにその通りで、いろいろなことを体験することで学ぶ喜びを獲得してほしい。当然ながらそのためには多くの人のふれあいが必要。そして、子供たちには、人間は人間と関わることで生きる力が生まれることを実感してほしいと考える。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

教員の研修会等発表する場があるので、いろいろな場で今回の研修のことを報告していく。

今回の研修を通して、授業パッケージを作成する。追試がしやすいように1時間の道徳のものを考えている。パワーポイント資料や指導案、児童の反応などをセットにして公開したい。そうすることで、より多くの教育現場で実践が行われることを期待する。

もちろんであるが、今後も国際理解教育の見識を深めるために、セミナーに参加して意見を交換したり、積極的に海外にも行き見聞を広めたりしていきたい。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

研修のプログラムが素晴らしかった。2回の事前研修で、JICA の取り組みや開発途上国の開発と援助について考えさせられた。また、過去の参加者やボランティアの方の話は、説得力があり、非常に参考になった。

現地でのプログラムも教育だけではなく、ゴミ処理場や博物館、科学研究機構など様々な見学が最初にあった。そこで、いろいろと感じたことをもとに、JICA ボランティアの中間発表を聞き、交流をした。いろいろな話をする中でボランティアとしての悩みや成果について共有できた。その上でホームステイを体験できた。本当にその時には、現地の生の体験をすることができ、家族の絆やマタイという制度について考えさせられた。

見る、話す、体験するという様々なプログラムのお陰で本当に充実したものとなった。その影では、現地 JICA スタッフのみなさんや JICA 北陸のみなさんの連絡、調整があったことは本当に感謝しかない。

また、今回のメンバーと毎晩 H 先生の部屋で SDG s を中心にいろいろと語り合ったことは、かけがえのない財産となった。参加したメンバーが本気で語り合う仲間になれたことを誇りに思う。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

事前の研修会において、予定する授業について話し合うセッション、先輩の授業について聞くセッションがあったほうが、より研修後の授業について課題意識をもって参加できたと思う。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

授業をするにあたって、海外研修の前にある程度耕しておく方が実りは大きいと感じる。教師と子供たちと一緒に、問題意識を高めることができる。また、縦だけではなく、横のつながりも生かすとよい。つまり、自分の学級だけの実践ではなく、現地の人との交流、参加者同士の学校の交流があるとよりダイナミックな実践が期待できる。

「Share Happy?」～ともに生きる地球の未来～

氏 名	藤田 実代子	学 校 名	石川県白山市立松任中学校		
担当教科	国語科	実践教科	総合的な学習の時間		
時 間 数	13時間	対象学年	3年生	人 数	250名

実施概要

01 | 単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

世界に目を向ける 「Share Happy?」 ～ともに生きる 地球の未来～

世界はつながりの中で成り立っていることを理解し、持続可能な開発の視点を持ちながら、他者と協働し、世界の幸せの実現に向けて自分にできることを考える。

02 | 単元の評価 規 準

（ア）知識及び技能	持続可能な開発のための17の目標を知り、世界はつながりの中で、関わり合いながら成り立っていることを理解する。
（イ）思考・判断・表現	多角的な視点で情報を分析したり、答えのない課題の解決方法を探ったりしながら、整理・分析して、自分の考えをまとめる。
（ウ）学びに向かう力・人間性	主体的・協動的に課題解決に取り組むとともに、自他のよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

03 | 単元設定の理由

〈生徒観〉

本校の総合的な学習の時間を使って、生徒は1年生の時は金沢について、2年生の時は関西について学習してきた。関西に関しては、テーマに分かれて調べた内容について、フィールドワークを修学旅行中に行った経験がある。これまで地元から日本へと視野を広げてきたので、これらを踏まえ世界に目を向けさせたい。これまで、技術では環境問題やエネルギー問題を、社会科ではさまざまな国際問題を、そして英語科では熱帯雨林の破壊とフェアトレードについて図書資料も活用しながら学んできた。ディベート後には、チョコレートの裏側にある児童労働をビデオ映像で学んだ。しかし、JICAのエッセイコンテストに参加したところ「世界の幸せのためにあなたができることは？」という問いに対する答えをみつけられない生徒が多かった。

人や世界とつながりながら生きている自分に気づき、そして日本・世界に存在する多種多様な出来事に対してさまざまな見方・考え方を働かせていくには、答えのない問いに対しても積極的に考える姿勢や、学びを自分の行動へとつなげていく意識を育むことが大切である。

〈教材観〉

世界の遠い国の話ではなく、自分の食卓や自分の日常生活が世界とつながっていることを実感できるような資料を準備する。世界の諸問題は答えのないものであるからこそ、一人ひとりが自分の言葉で思考し、判断できる場面を設定できる教材である。また、過程においては、議論や話し合いの場を設定するのに適した教材でもある。

〈指導観〉

「知る」→「考える」→「行動する」につながるようグローバルな視点を身につけさせたい。将来にわたって世界の問題を自分事としてとらえ、世界の幸せのために自分ができることを探し続けるような生徒を育てたい。また、他者と協働する態度を養いたい。実生活や実社会の中で生きて働く力を育む一助となるよう課題解決的な学習を進めていきたい。

04 | 展開計画（全13時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	1次【世界を知ろう】 「はじめに」	- これから半年間の学習内容を知る。 - フォトランゲージで「白山市の姉妹都市」クイズをする。	*白山市の姉妹都市の写真
2	1次【世界を知ろう】 「探検しよう みんなの地球」①	- フォトランゲージで世界の国クイズをする。 「国際理解」という中心ワードからブレインストーミングをする。 - これから調べてみたいことや考えてみたいことを挙げる。	*世界の国の写真9枚 *「国際理解教育とは」の資料
3	1次【世界を知ろう】 「探検しよう みんなの地球」②	「一度旅をしてみたい国」「友達がいたらいいなと思う国」「ずっと住んでみたい国」を挙げ、その理由を書く。 - スライドを見て、自分たちが挙げた国は「先進国」と「途上国」のどちらに入っているか分類する。なぜ先進国ばかりなのか。 - スライドを見て3つの問いについて考える。 Q1「なぜ世界に目を向けることが大事なのでしょう？」 Q2「生まれる国は選べないのに生まれた場所が違うだけでこんなにも差があることについてどう感じますか？」 Q3「あなたには何ができるのでしょうか？」	*スライド（5才までの死亡率やハンガーマップなどの資料）
4	1次【世界を知ろう】 「Needs or Wants?」	- 無人島で暮らすとしたらどのアイテムを持ていくか。ダイヤモンドグラムを用いて、優先順位をつける。 - 選んだアイテムを「生活」「医療」「教育」に分けてみる。 - 気づいたことをまとめる。	*ダイヤモンドグラム（班に1つ） *アイテムカード（班に1セット）
5	1次【世界を知ろう】 字が読めないってどんなこと？	- 外国語で「水」「毒」「薬」と書かれたラベルが貼られた3つのボトルを用意する。 - 世界の識字率を知る。 - 字が読めないとどんなことが起こりうるか、考えたことや気づいたことをまとめる。	*3つのペットボトル（水・塩水・味つきの水） *識字率の世界地図
6	1次【世界を知ろう】 私たちの生活とアフリカとのつながりを考える	18個のアイテムの中からアフリカとつながっているものを見つける。 - 気づいたことをまとめる。	*18個のアイテムワークシート *「アフリカローズ」の本

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7	1次【世界を知ろう】 私たちの生活と熱帯雨林との つながりを考える	・熱帯雨林について知っていることを挙げる。クイズをする。 ・私たちの生活の物に、熱帯雨林が伐採されている一因があることを知る。 ・平等な世界をつくるためにどうしたらよいか、解決策を考える。	*ポテトチップス、インスタントラーメンなどの実物 *「ゾウの森とポテトチップス」の本
8	1次【世界を知ろう】 自分たちができることを考える	・熱帯雨林をこれ以上伐採しないようにするには何ができるかを考える。 ・「パーム油農園」で働くミーナちゃんの話から、どんな支援ができるかを考える。	*「パームヤシ」「パーム油のプランテーション農園」などの写真
9	2次【Share happy?】 負の連鎖を断ち切るために①	・「負の連鎖」を断ち切るためにどんな方策があるか、話し合う。 ・負の連鎖を断ち切るために、できるだけ多くの方策を考えて、班でまとめる。	*負の連鎖のカード *書き込める負の連鎖の大きな紙（班に1枚）
10 本時	2次【Share happy?】 負の連鎖を断ち切るために②	・「よりよい地球国」を作るにはどんな方策をとればよいか、マニフェストを練る。 ・マニフェストの理念を考え、それをもとに4つの省庁（役割）に分かれて考える。 ・話し合っってブラッシュアップする。	*シンキングツールとなるワークシート
11	2次【Share happy?】 負の連鎖を断ち切るために③	・さらに班で話し合っってマニフェストとしてまとめる。 ・どんな地球国にしたいか、理念に合わせてイメージカラーやイメージ図も盛り込んでマニフェストを模造紙に作成する。 ・「地球大統領選」を実施し、1つに投票する。それが良いと思った理由を述べる。 ・「なぜそれが未だに実現しないのか、その理由は何だと思うか」「今後、自分は世界の幸せのために何ができるか」を考える。	*各班で作成した模造紙
12	3次【ともに生きる地球の未来】	・SDGsという概念を知る。 ・100年後の地球をイメージし、持続可能な地球にするためには何が問題かを調べる。	*国連のパワーポイント
13	3次【ともに生きる地球の未来】	・解決方法を探り、何ができるかを考える。 ・自分SDGsを作成し、発表する。	

05 | 本時の展開

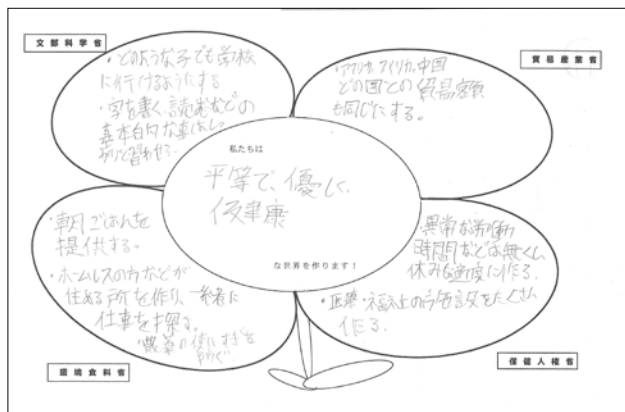
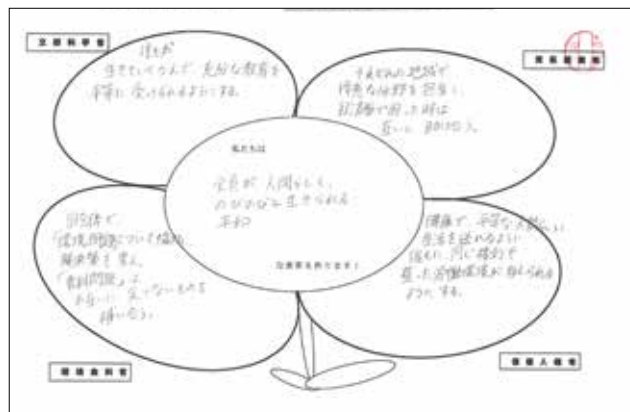
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	・前回までの振り返りをする。どんな問題がありましたか？ ・みなさんの感想は…… 「世界は不平等すぎる!」 「なんとかしなければ」 「なにができるかな……」 ・世界の不平等さ貧富の差をどうしたらなくせるか本気で考え、マニフェストを作る。	・私たちの生活は、今、地球に生きる他の地域の人々とも密接につながっていることを確認する。 ・黒板に前回の紙を貼る。	・前回の紙
展開 (20分)	より良い「地球国」にするには？ ・4人で1チームとして「地球大統領選挙」に立候補する。 ・そのためにマニフェストを作る。 【思考活動：1】 ・グループで「どんな地球国にしたいか」話し合っ中心の理念を決める。 【思考活動：2】 ・班でそれぞれの担当を分け、「文部科学省」「貿易経済省」「保健人権省」「環境食料省」の4つの役割に分かれて考える。 【思考活動：3】 ・担当ごとに集まって話し合う。 ※エキスパート活動	【4人班の活動】 1. まずどんな「地球国」を実現したいか考える。 2. 担当を分けて、各担当で考える。 3. 考えを共有する。 ※一度思考したあと、エキスパート活動を取り入れる。 4. 各班の同じ担当ごとに集まって考えを出し合う。 5. 元の班に戻って考えをシェアし、ブラッシュアップする。 6. 班ごとにマニフェストを練る。	・ワークシート ・シンキングツール
(10分)	【まとめ】 ・4人班で考えを共有する。 ・考えをブラッシュアップする。 ・マニフェストを練る。		
まとめ (10分)	・各班の発表を聞く。 ・今日の授業を通して自分の感じたことや考えたことを書く。 (例) 改めて「平等」な世界の実現を目指せたら良いなと感じた。 できることは意外にたくさんあると思った。		

≫ 授業実践の様子

- *熱帯雨林の破壊に自分たちの日常生活が関わっていることを知り、「個人」「家庭」「学校」「国や世界」レベルで、「すぐに」「1年以内に」「50年以内に」それぞれ何かできることはないか考える。
- *途上国の「負の連鎖」を考え、どうすれば断ち切れるかを話し合う。

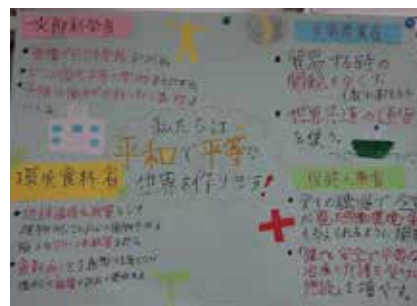
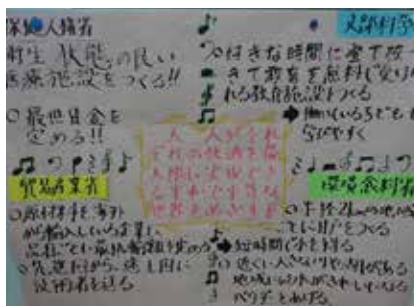


*「より良い『地球国』にするにはどんなことができるか?」班で「地球大統領選挙」に立候補するとして、各省庁担当に分かれて政策を練り、その後班全員で話し合っってブラッシュアップする。



*実現したい理想の地球をイメージしたカラーやイラストを工夫して盛り込みmanifestoを作成する。

*「地球大統領選挙」を実施する。manifestoを前にPRする。



06 | 本時の振り返り

これまでさまざまな教科で学んできた知識を使いながら、答えのない問いに対して主体的・協動的に課題解決に取り組むことをねらいとした。できるだけ多くの他者とつながり、誰とでも分け隔てなく接することができる態度を養いたいと考えているからである。これが将来、自他のよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度につながるのではないかと考えている。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

今日はみんなの意見を聞きながら授業を行った。
自分の考えをみんなの意見と比べて、最初は自分の意見が正しいと思っていたが、みんなの意見と比べて、新しい問題を見つけた。
たぶん、納得がいく生活(世界)をつくるのは難しいことだ。

他の人の意見を聞くことで新しい問題が見つかり、それをきっかけにさらに思考が深まっている。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

今日は、みんなの意見と自分の意見を比べて、自分の意見が正しいと思っていたが、みんなの意見と比べて、新しい問題を見つけた。
たぶん、納得がいく生活(世界)をつくるのは難しいことだ。

これらの提案が実現するかどうかを、「費用」「人との信頼性」という観点から考えている。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

自分が考えていた意見は、みんなの意見と比べて、自分の意見が正しいと思っていたが、みんなの意見と比べて、新しい問題を見つけた。
たぶん、納得がいく生活(世界)をつくるのは難しいことだ。

さまざまな人と交流したことが自分の思考を深めるのに役立ったと感じている。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

日本はいい国だと思われているが、日本が基準ではないからやはり、世界のいろいろな国を基準に、みんなが過ごしやすい国はないかと思つた。
みんなが基準に、みんなが過ごしやすい国はないかと思つた。

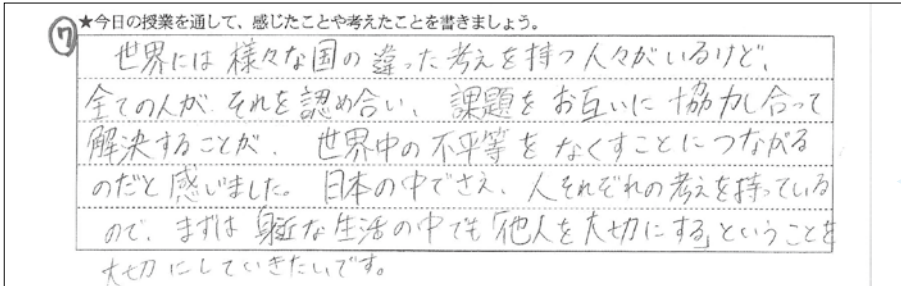
さまざまな見方や考え方、文化や言語を統一するかどうか議論していた班。それぞれの文化や個性はそのままにしながらみんなが過ごしやすい方向に工夫すればよいと気づいている。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

私は実際にみんなが理想とする世界をつくるのは難しいと思っていたけど、考えてみると世界中の国が本気で実現しようとするまではできないわけではないと思つた。
今はそれぞれの国が自分の国の利益しか考えずに動いているけど、いつか全ての国が地球全体の利益を考えて動いてくれるようになるのではないかなと思つた。



より良い世界の実現には「自分たちが実行すること」が一番大切なことだと気づいている。



違う考えを持つ人がお互いを認め合って協力し合うことが世界平和につながると考え、自分は「他人を大切にすることから行動していきたい」としている。

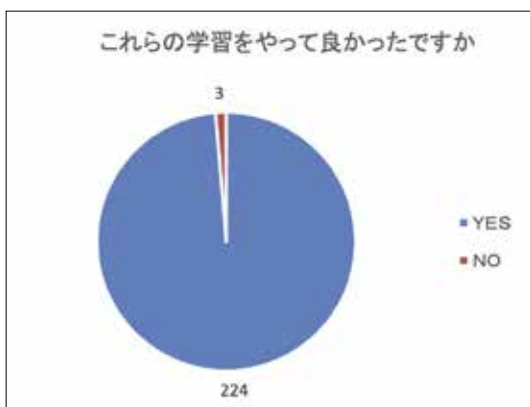
ねらいにせまるため、本時に至るまでに配慮したことが3点ある。1つ目は、マニフェストを作ることが目的ではないということである。理想的なきれいなマニフェストを作ればよいのではなく、いろいろな立場で話し合ってみることや考えを共有することを大事にするような本時の展開にしようと考えた。2つ目は、単に観念的・理念的にならないようにしたいということである。そのために単元計画の1次「世界を知ろう」の学習を進める際、自分のこととして実感できるように、できるだけ具体物を扱うように配慮した。また、「豊かな日本に生まれて良かった」という感想で終結してしまわぬよう、生徒に問いかけていくことを心がけた。3つ目は、「省庁」や「選挙」の学習を終えた後に本時を実施できるように、社会科教員に公民の学習進度をたずねて時期を設定したことである。

本時を終えて感じることは、指導者の想定を生徒ははるかに超えて生徒は現実的に考えていたということである。具体策と費用面を考えたり、「人間の信頼性」が実現には不可欠ではないかと話し合ったり、多様な文化・民族の存在について議論したり、本当に実現させるには自分の行動からだと決意したりなど、これまでの学習をふまえて話し合い活動ができたと思う。

参観者から各省庁は教師主導で決定したが、「どんな省庁が必要か、生徒に決めさせてもよかったのではないか」「中3のみんなの考えだけでもこんなにも良いものが出るのに、なぜそれが実現されないのか」と生徒に問うてもよかったのではないかという意見をいただいた。今後にいかしていきたい。

また、「地球大統領選挙」では非常にユニークな政策がたくさん挙げられた。「新しい仕事を作る」「教育格差をなくすためにインターネット授業をする」「グリーン化政策」「農園革命」「フェアトレードに参加する企業にポイントを加算」などである。マニフェストの理念をイメージ化した色やイラストの工夫も含め、考えの交流によって理解に深まりが見られた。

07 | 単元を通した児童生徒の反応 / 変化



単元末まで学習は終わっていないので、途中経過として学年でアンケートを実施した。その結果をグラフにした。「国際理解の学習をやった良かったと思いますか」という設問に対する答えは YES: 99%、NO: 1% であった。YES の理由は「自分たちと関わりがあると強く感じた」「視野が広がった」等、NO の理由は「自分たちが知ったところで世界は変わらない」というものだった。

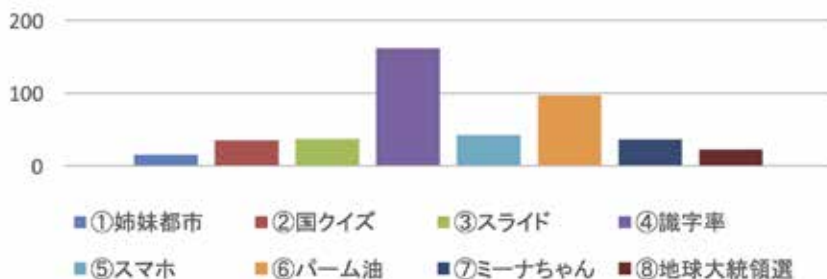
理由 私の知らないことがたくさんあって、これからよりよい世界に作っていく。今の現状を
理解することが大切だと思った。日本だけでなく発展途上国がより
豊かに生活ができてより私たちが暮らす世界も良くなると思ったから。

理由 普段日本で生活していると、自分とは違う国、特に発展途上国
についてはあまり知らないけど、実際すごく関係していて、私たちが
人づかいじゃないということを知れたから。

理由 17では「人々を平等にし、平和」を掲げていたけど、こうやって細かく私たちの
くらしと他の国とのくらしのちがいを発見していくと、私たちの当たり前が、共通ではないことに
改めて気づくことができてより深く、世界とこの問題点を理解できたと思いました。

理由 これらの学習を通じて今まで自分が思っていた以上に世界の環境状況やとても
危険な状態にあるということや識字率の低いことなど驚いたし、どうにかし
なければならぬと危機感や責任感を感じたから。

どの学習が心に残っていますか(1人2つまで)



「国際理解」の学習でどの学習が心に残っているかを尋ねた結果である。「自分の食卓や自分の日常生活」が世界とつながっていることを生かした教材は、こちらが意図した通り、生徒にも印象強いことがわかる。

「国際理解の学習を通して、自分の感じ方や考え方がどのように変わりましたか」という設問に対しての生徒の記述は以下のようなものである。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

以前は、アフリカの子供たちが学校に行けていない問題や世界には
貧しい人たちがたくさんいることは知っていたけれど、もっとその問
題について考えることが少なかった。でもこの学習でアフリカと私たちに
たくさんつながりがあって、その問題は私たちにもし関係のないことでは
ないことがわかったので、もっと平和になるように考えていきたいと思えた。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

自分達の日本という国だけでなく世界全体の本当に関わり
かな所にも地球に関わる問題が起きていることを知って
視野を広げて、日本から世界に向けていこうと考える人
もこの風を感じた。でも、自分達は世界全体の問題を
全て解決できる力はないから、日々の生活が変えて
いけるようになって感じた。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

違う国に暮らしている人のことは今まで何も考えたことはなかった。
私達には関係ないと思っていたけれど今回の学習を通して
前より世界を身近に感じるようになった。私達にも関係がある
ことがあったということがわかった。世界で起きている問題は、
私達自身の問題でもある。しっかりと向き合えるようになりたい
と思うので考えなければいけないと思った。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

以前は、世界より日本の方が日本めたいと思って何かしら思っていたけれど
この学習を通して、少しは1990年代から日本めたいでなく世界を見るようになった。日本人
がより全然多いい国がたいていある人だということを感じた。それに、学校に行かない
人や、勉強が苦手な人も多かった。
この学習を通して、次から先取りで勉強などをして、少しでも多いい人
になりたい。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

前までは世界のことをよく知らなかったけれど、この学習を通して、私達と
世界の関わりとか、今の世界の現状とかを知って、世界の人たちは私達と
たいてい暮らしていない人がたいていいるんだなと思いました。これから
世界のためにも、パーム油が入っているおかしなどもあまり買わないように
したり、ボランティアなどにも参加したいなと思いました。自分が世界の人たち
のためにできることを見つけた。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関わり方や考え方が変わったか。

他の国はその国の環境のせいで貧しい思いをしているから、かわいそう
だけど、日本には関係ないとか他人言のように思っていたけど、その
国を苦しめている中に日本も含まれているとわかって、すごく罪悪感
を感じました。私一人では何かをしたら何も変わらないと思って
いたけれど、最近の時間を通して、自分にもたくさんできることがある
ことを知って、一人を取り組まなくてもいい、味方を増やしていけば絶対に
何か変われると思うことができた。

「より良い社会を目指して参画する態度」を育てたいと願ってこの学習を進めてきたが、少しずつではあるが、生徒の中に
そのような態度が育っていることが分かった。

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲

この学習を通して「もっと世界のいろいろなことを知りたくなった」という記述が一番多く見られた。違いを比べ「自分が自由に学習できる環境にいる」ということを捉え直した生徒も多かった。「受験勉強で不満を抱いていたが、ぜいたくな悩みだと捉えるようになった」「勉強できることが幸せなことだと思うようになった」という。また、「自分の見方・考え方」に関しても、「相手の立場になって物事を考えるようになった」「自分の当たり前は当たり前ではないと自覚するようになった」「知るから考えて行動できるのだ」など、考え方が変わったという生徒も多く見られた。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関心や考え方が変わったか。

この学習を通して、以前は、世界の国々についてあまり知らなくて、「国際理解」に意味がなかったけれど、いろいろな国の状況を知ることが出来て、そして途上発展国の人のために何かができるかどうかのことを考えられるようになったり、物事の視野が広がることになりました。これから、いろいろなことを知りたくなりました。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関心や考え方が変わったか。

以前は、勉強が目的で勉強していた。将来、国際理解が役立つのだと、だんだん興味が出てきた。いろいろな国を知りたい。世界の知識も増え、世界にはいろいろな国や文化があることを知り、自分が日本に生きているのはとてもいいことだと感じた。これから、いろいろな国を知りたい。世界を自分の足で歩きたい。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関心や考え方が変わったか。

物事を他人の目線ではなく、自分たちからどう考えるかを考えた。その人の立場から、どうしてそう思うかを考えようになった。自分たちから考えるのと他人の考えを比べてみる。自分たちの考えを、他人の考えと比べてみる。自分たちの考えを、他人の考えと比べてみる。自分たちの考えを、他人の考えと比べてみる。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関心や考え方が変わったか。

自分の感じ方が日本の中で、ただただ感じるだけだった。それが世界の中で、どう感じるかを考えるようになった。自分の感じ方を、世界の中で考えるようになった。自分の感じ方を、世界の中で考えるようになった。自分の感じ方を、世界の中で考えるようになった。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに関心や考え方が変わったか。

自分たちが当たり前だと思っていることでも、当たり前ではない。その人の文化や考え方に合わせて考え方を考える。自分たちの考え方を、他人の文化や考え方に合わせて考える。自分たちの考え方を、他人の文化や考え方に合わせて考える。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

この学習を通して以前は「いいに感じたなど」とすぐ「感じ方」をやめていたのですが、この学習で「いいに感じた、など」とすぐ「いいの？ など」と感じただけでなく「感じ方」いろいろな考えを出すようになったと思ったのでこの学習を通して感じただけでなく感じた→いろいろな考えに成長したと思いました。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

たいていの問題がある中で、自分の意見を言うことが大切だと思いました。また中心で社会は進んでいるけど、子ども達の意見や、自分たちと違う意見も聞き入れることで平等な世界をつくらせようかもしれないとも思いました。いろいろな意見を、いろいろな考え方をもちことが大切だと思えます。

学習を進める中で「自分の意見を述べるのが大切だと分かった」「自分と違う意見も同じように大事にすることでもっと良い意見になる」「数学や理科のように答えはないけれど、答えのない問いに対して自分自身で考える力を働かせることが大切だと分かった」という大切な気づきもたくさん見られた。

>> 途上国・異文化への意識の変容について

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

世界のいろいろな問題に対する、今までの自分との考え方が変わった。今まで、自分と世界で「起きている」たくさんの問題は、自分とは遠い存在だと考えていたためであって、学習をすることによって自分とそう離れていないと実感した。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

前は、日本と発展途上国の関係はそれほど深くは無いと思っていたけど、学習を通して深い関わりがあると感じた。日本はよく知られているけど、発展途上国は、格差があるのを知り、びっくりした。私は、今自分が住んでいるところと、そこにあると思うので、少しでも世界のために、力を尽そうようにしたい。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

今まではなんとなく知らなかったことも、この学習で理解が深まった。また、同じ地球に暮らしているのに全く生活が違ふ。私が使っている物にも、発展途上国の人たちが作ったものが使われていると知り、そういう人たちにも目を向けていたと感じた。また、その国では、私たちのような子どもたちも働かなくてはいけないくらい貧しい環境にいらることを知った。そこで自分達にできることを考えたので、実行したいと思った。

5) この学習を通して、以前と比べて、どんなふうに感じ方や考え方が変わったか。

日本とアフリカはとても離れているし、関係があまり
ないと思っていたけどこの学習を通して、アフリカが
なかったら日本はなりたていないのかかもしれない
という考え方が変わりました。アフリカで苦しんでいる人
たちのことを客観的に「かわいそう」と思うだけでなく
どう行動すれば変わっていくのかを考えたようになっていま

「途上国と日本は深く関わっていることが分かった」という生徒が多かった。家で自分が使っているスマホや携帯ゲーム機を使うときの気持ちが変わったとか、ポテトチップスを以前と同じ気持ちでは食べられなくなった等という記述もあった。そして、「日本はいろいろな国に助けられている」と考えるようになったという生徒が多かった。「だから日本も世界の国を助けないといけない」「もっと良い世界になるように行動したい」という考えもたくさん書かれていた。

この学習を通して、生徒はそれぞれ、自身の中での変化があったと述べている。その変化が将来につながっていくものと期待して、これからの授業も続けていきたい。

08 | 自己評価

≫ 1. 苦勞した点

- ・同学年の担任の先生方が同じ授業を実施する想定であったため、単元構成を考える際には、サモアで見聞きたことから問題を述べるという個人的な経験に終始するのではなく、普遍性をもった国際理解教育へ一般化するためにはどうすればよいか悩んだ。
- ・答えのない問いを考える授業展開なので、誰でもできる使用する指導案を作成することが難しかった。生徒から出る答えを予想し、どのように繰り返すか、という点まで指導案に記載できなかった。
- ・中学校の強みである教科専門性を生かしきれなかった。社会科や英語科教員と話し合いながらカリキュラムや指導案を立てることができれば、単元計画の途中においてTTの授業展開が実現できたかもしれない。
- ・「幸せ」「豊かさ」についての議論も考えたが、観念的なものにならないようにしたいという思いが強くなり、軌道修正した。「支援」というのも個人レベルでできることや国レベルでできることが違って難しいと感じたので「社会に参画する態度」を育てることを主眼とした。
- ・多様な人、多様な立場で議論することを単元計画の中でもう少し取り入れることができればよかった。

≫ 2. 改善点

- ・「知る」→「考える」→「行動する」という段階が必要なので、1学期からカリキュラム構成を整えることが肝心である。中学三年に「国際理解」のテーマは適切な内容だと思うので、「松中スタイル」のような総合的な学習の時間のカリキュラムが確立されるとよい。
- ・来年度以降も実施してもらうには、誰もが実践できる、一般化された指導案に手直ししていく必要がある。その際には、教科専門性も生かせるように役割を配慮できることが理想である。
- ・学校の教育活動の中に定着させていくには提案と共通理解が必要不可欠である。職員会議や学年会への提案はできるだけ具体的、なおかつ簡潔に行い、まずは教員がチームになって協同的に実践を続けていければよいと思う。
- ・今回、1クラスだけ、仁田所長と武田さんから貴重な感想をいただくことができた。多様な立場・年齢の人から、直接的にお話を伺う機会は今後のアクティブ・ラーニングにおいて大事なことだと考えている。また、抽象的な話をいかに具体化していくか、身近なものへと転換していくかということも大切なことだと考える。だから、予め、カリキュラムの中に国際交

流員の方やジャイカボランティアの方から話を伺う場面の設定を取り入れることが望ましい。その際には、管理職に承認していただき、年度当初から予算を立てておく必要がある。

≫ 3. 成果が出た点

- ・同学年の若い担任の先生方も協力的で積極的だったため、学年全体で、すべてのクラスでほとんど同じ授業内容を実施することができた。
- ・学期を通して、どのクラスも「国際理解」というテーマで継続的に授業を展開することができた。
- ・全体計画の見直し、単元計画、1時間ごとのワークシートと略案を作成できたので一例として次年度に残すことができる。

≫ 4. 担当クラス以外での実践・報告について（内容・対象人数）

- ・同学年他クラス（計7クラス）で本単元の授業（計 13 時間）を各担任が実施

対象人数：36 名×7 クラス

- ・学校図書館でサモアに関する工芸品と国際理解に関する図書を展示

対象人数：全校生徒（計 863 名）と教職員（計）

- ・報告書で還元

対象：教職員

≫ 5. 備考（授業者による自由記述）

同学年の他クラスの担任がこの単元の授業を実施した感想

- ・知らないことを教えるのは難しいと感じた。道徳的な授業になることもあった。でも生徒と一緒に学べて楽しかった。生徒は考える視野が広がっていった。
- ・個人的にとっても興味深いテーマだったが、教師自身の知識不足が大きく、話題を掘り下げることが必要だったがなかなか上手くできず悔しい。「世界は不平等だ」というネガティブな印象を生徒に与えてしまったかもしれない。
- ・サモアでの体験がほとんど表に出てこないことがもったいないと感じた。国別や地域別で担当ということがあってもよかった。できれば自分は東南アジアを担当したい。
- ・英語科では、1学期にはフェアトレード、2学期には人種問題、3学期にはマララ・ユスフザイさんのスピーチを扱う。社会的なテーマが、いろいろな教科で関わっているので、横断的な学習となってよいと思う。
- ・英語で学んだフェアトレードと繋がっていると感じた生徒が多かった。パーム油は日本でも需要が高くたくさん輸入されているのに作った人がもうからないのはなぜか、変だなどという感想があった。
- ・食べ物（特に普段、生徒たちが口にしている物）を扱う授業はインパクトがあった。実物を使う授業は、一番、印象に残っているのではないかなと思う。
- ・熱帯雨林の消失の授業で、2分間で某テーマパーク分の面積が消失していると話すと生徒は驚いていた。規模が大きい話だとイメージしやすい例を示すと良いと感じた。
- ・ミーナちゃんへの支援など、具体的に考える点は良かったが、募金という意見が多く、そのお金を「誰に使うのか」「何に使うのか」まで深めることができなかった。自分事にとらえる＝自分たちにもできる支援ではないので、立場によってできることが違うので立場でしっかりと考えさせたい。
- ・国際理解教育は本当に幅広いテーマだと思うので、毎月1つのトピックを扱い、その問題に対して自分たちができることは何か探る、という型を作るのはどうだろうか。

例) ①導入・ゲーム等→②問題の掘り下げ→③私たちの生活との比較→④私たちにできること

【添付資料】

(次ページ以降参照：ワークシート、略案、資料など)

【参考資料】

- ・「アフリカローズ 幸せになる奇蹟のバラ」萩生田愛，ポプラ社，2017 年
- ・「ゾウの森とポテトチップス」横塚眞己人，そうえん社，2012 年
- ・「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」Think the Earth, 2018 年
- ・「スマホから考える 世界・わたし・SDGs」開発教育協会，2018 年
- ・「パーム油のはなし～「地球にやさしい」ってなんだろう？」開発教育協会，改訂版 2016 年
- ・「マジカルバナナ v3」地球の木，改訂版 2010 年
- ・「コーヒーカップの向こう側 改訂新版」開発教育協会，改訂版 2015 年
- ・「新 貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える」開発教育協会，改訂版 2009 年
- ・「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう!考えよう!～」埼玉県立総合教育センター監修, 国際協力機構 (JICA) 地球ひろば, 2015 年
- ・JICA 地球ひろば <http://www.jica.go.jp/hiroba>
- ・文部科学省 <http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp>

【3年】 9月10日(月) 6限目 :各クラス

★ねらい: 今後の学習テーマを知り、最後まで見通しを持つ。

時間	内容	教師の動き																														
導入 5分	① 2学期からの「総合的な学習の時間」についてお話しします。 学習テーマは「国際理解」です。 ② 1年生では「太鼓や狂言など地元の芸能」「金沢研鑽にむけて金沢のこと」を学びました。 2年生では「地域の職場にでかけて地域の仕事を知る」「修学旅行にむけて関西について知る」ことをしました。 3年生では金沢と関西を比較して良さをみつけました。 どんな視野が広がってきたのがわかりますか？ 次は日本を出て世界へ目を向けていってほしいと思います。 ③ ……といってもむずかしいのですまずキズです。 ④ 第1問「白山市の姉妹都市はいくつあるでしょうか？」 ※答えは6つ（国内1、国外5） →黒板に地図を貼る。ワークシートを配布する。 ⑤ 一番○○国、都市名は○○ 第2問「次のA～Fの写真は、その6つの国のどれか？そう判断した理由は何か？」 →黒板に写真を貼る。	●地元→地域→関西→世界という視点の広がりを実感させる。 ●自由な発言をする雰囲気を作ります。																														
展開① 20分	⑥ 6人グループになる。 ・A～Fの写真をも3分ずつ話す。（3分×4回） ・そのように判断した理由を書かせる。 （プリントをまとめる時間+黒板に書きに行く時間） ⑦ 班ごとに答えを黒板に書く。 （例） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>②</th><th>③</th><th>④</th><th>⑤</th><th>⑥</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1班</td><td>B</td><td>D</td><td>E</td><td>C</td><td>…</td></tr> <tr> <td>2班</td><td>A</td><td>D</td><td>B</td><td>C</td><td>…</td></tr> <tr> <td>3班</td><td>B</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td>…</td></tr> <tr> <td>…</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		②	③	④	⑤	⑥	1班	B	D	E	C	…	2班	A	D	B	C	…	3班	B	D	E	F	…	…						●先生はタイムキーパーをする。 ●先生は黒板に、写真を次はどの班に渡せばよい班の番号を書くなどして示す。 （例） 
	②	③	④	⑤	⑥																											
1班	B	D	E	C	…																											
2班	A	D	B	C	…																											
3班	B	D	E	F	…																											
…																																
10分	⑧ そう判断した理由を発表する。 ⑨ 答え合わせをする。																															
まとめ 5分	⑩ 次のワークシートを配布する。 <u>これからの学習のテーマを知る。</u> <u>これからの学習の目標を知る。</u> <u>これからの学習の流れを知る。</u> <u>最後は1人1レポート（卒業レポート）を作成することを知る。</u>	◎ワークシート2枚を ポケットファイルに綴る。																														

3年 略案 9月9日①

【3年①】 9月19日(水) 6限目 :各クラス

★ねらい: 考えるきっかけづくり(なぜ「国際理解」が大事なのかな?)

★準備物: 班活動用のふせん、磁石(9枚の写真を貼るため)

時間	内容	教師の動き
導入 8分	① 総合的な学習の時間のテーマは「国際理解」です。 ② 今日は地図を持って来ました。(世界の言葉で「ありがとう」)知っている国を挙げてみましょう。 →「ありがとう」をいろいろな言葉でやってみよう。 ★後半重たいのでさくさくと!出来ても2つまで。あとは地図を教室掲示して対応してください。 ③今日の課題は「探検しよう みんなの地球」です。 世界の国々をさらに知っていきましょう。 というわけで今日はフォトランゲージ、一枚の写真からどの国かを考えてみます。 一枚の写真の中にもたくさんの情報が隠れているのでよく見て何が写っているか書き留めましょう。	●自由な発言をする雰囲気を作ります。 ★「フォトランゲージ」とは写真と言語という意味で、写真に載っている情報を読み取るという方法です。
展開① 15分	④4人グループになる。 ・A～Iの写真をもとに3分ずつ話す。(1分×9回) ・写真に何が写っているかをよくみて書き留める。 ⑤答え合わせをする。 ★答え合わせもさくさくと。	●先生はタイムキーパーをする。 ★後半重たいのでさくさくと。 ●先生は黒板に、写真を次はどの班に渡せばよい班の番号を書くなどして示す。 (例) 
5分	⑥意外だった国はどこですか? (国の名前を書かせる) ⑦意外に思ったのはなぜですか? (理由を書かせる)	
展開② 20分	⑧ところで。先生達は、これからの時代「国際理解」が大事になると考えてこの授業をしているわけですが、今、なぜ、「国際理解」が大事なのでしょうか。みんなの予想を書いてみてください。 ★あまり書けないと思われるが、それで良い。 ⑨では、あまり書けていないようなので・・・ そもそも「国際理解」って何だろう? 「国際理解」という言葉から思いつくことは何か。 ふせんにたくさん書いてみましょう。 A3の紙にグループでまとめてください。 ★あまり書けないと思われるが、それで良い。	★同じ活動を単元末にさせたいと考えている。Before と After ができるといい。だから、今回は、全然書けていなくてもいい。
まとめ 2分	⑩「国際理解」って何かを、 <u>これからしっかりと考えていければいいです。</u> <u>みんな考えていきましょう。</u>	◎ポケットファイルに綴るので、ワークシート2枚を合わせて回収してください (次回まで先生が保管)

3年 略案 9月19日②

【3年②】 9月21日(金) 6限目 :各クラス

★ねらい: 「国際理解」が大事なのかを理解する。(知る)

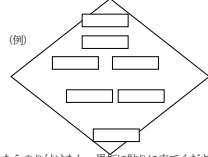
★準備物: パソコン、テレビまたはプロジェクター

時間	内容	教師の動き
導入 5分	① 前日に続いて「探検しよう みんなの地球」です。 いろいろな国の名前が出てきました。 そこで... ② 今日はみなさんにまず、3つのことを尋ねます。 ・一度、旅してみたい国 ・ずーっと住んでみたい国 ・友達がいいたい国 です。どの国ですか?あなたの考えを書きましょう。 (ワークシート配布)	
展開1 10分	③ 個人で書かせる。 ④ 友達3人以上と尋ね合って、記入する。 (例) 4人グループ 立ち歩き自由など。 ⑤ 発表させて、黒板に書いて共有する。 ★あとで色分けするのを黒板に残しておいてください。	●先生はタイムキーパーをする。 ●後半、重たいのでさくさくと。 ●自由な発言を大事にする。
展開2 30分	⑥ ところで、先生は、みんなに、これからスライドを見てもらいたいと思っています。 「探検しよう みんなの地球 パート3」 ★スライドを順番に進めて、次のポイントで一時的に止めてください。そして、Q1からQ3までに書き込ませてください。 ⑦あなたが答えた国は青ですか、赤ですか? →黒板に残っている国名を色分け。青は途上国、赤は(スライドは日本だけしか塗られていませんが)先進国。 →なぜ赤が多いのでしょうか?青の国の数の方が多いのに? Q1→なぜあなたは途上国を塗らなかったの? →書かせる。 Q2「生まれる国」は選べないのに、生まれた場所が違うだけで、こんなにも差があることについてあなたはどのくらい驚きますか? →書かせる。 ⑧あなたは何が得意でしょうか? →書かせる。	★スライドを見ながら触れられたら・・・ ①前線がある一方で、まだ食べられるものを大量に捨てている現実がある(食品ロス)。その数字 ②5歳児未満の死亡者の数字(1000人中何人か) 卒死の原因は何だろうか?・・・ スライドにある「飢餓、水、紛争・・・」他にもあるんだろね ③徴兵制を強いている国の中で、スイスはなぜ徴兵制があるのか? →永世中立国なので、他国から助けてもらえないためすべて自国で戦わなければならない。 ④医療レベルはどうなんだろう? 日本は最先端の医療ですが・・・ 原因がわからず何日も高熱に苦しんでいる国もある、難しい病気蔓延している国もある(エボラ出血熱、ジカ熱など)。
まとめ 5分	(「国際理解の資料」を配布する) ⑦「国際理解」の資料を読む。 <u>こんな力をつけていきましょう。</u>	◎ポケットファイルに綴る。 (ワークシートと別紙資料)

3年 略案 9月21日③

【3年④】 10月1日(月) 6限目 :各クラス

「A3用紙」「のり(各班1つ)」を使います。

時間	内容	教師の動き
導入 1分	① 前回のふりかえりを配布し、いくつか読み上げる。 これからの国際問題についてもっと知って、みんなでもっと「世界の幸せ」の実現に向けて考えていきましょう。	・振り返り配布。
5分	②今日はまずゲームをします。「無人島ゲーム」です。 あなたたちは無人島で暮らすことになりました。なんとか生き残らなければなりません。3つだけ持っていくアイテムを選べます。それを選ぶために、まず班で、次の9つのアイテムの重要性を話し合います。 ③…とその前に、個人で考えてワークシートに記入しましょう。 ・ダイヤモンドグラムの上が「重要度高め」、下が「低め」を表します。 ・重要度が同じくらいの場合は並べて位置づけしてください。	・ワークシート配布。 ・アイテムが書かれた9枚の短冊を掲示する。 ★まず個人で活動させる。
展開① 14分	④グループになって班の考えをまとめる。 【ルール】 (1) リーダーとフォロワーを決める。 (2) リーダーは1人ずつあてて。1人ずつ、考えを話す。 (3) 班員は、口をはさず(絶対)、うなずきながら「聞く」。 (4) フォロワーはまとめる。 (例) 	★各班に次のものを配付する。 ・A3用紙1枚 ・アイテムが書かれた9枚の短冊 ★どんな書き出しをする。 ★途中で真ん中の中テーマを変えても良い。 ★目的が明確になったらOK!
10分	⑤決まったらのり付けをし、黒板に貼りに来て下さい。 ⑥上位3つのアイテムと、それを選んだ理由を発表させる。	
展開② 10分	⑦この9つのアイテムを色分けをします。色は次のように分類します。自分のワークシートのダイヤモンドグラムを色分けしてください。 ●赤→「生活」 →必需品 (Needs) ●青→「医療」 → ●黒→「教育」 ★気づくことを挙げましょう。	★個人で活動させる。 ★セント ①何色が重要度高い位置にくるか。 ②何色が重要度低い位置にくるか。 ★この発問が次につながるので、一番重要です。
まとめ 10分	★「医療」や「教育」は、こんなに重要度が低い、つまり、価値がない、のでしょうか? ⑧振り返りをかく。	

3年 略案 10月1日④

【3年】10月23日（火）6限 総合・各クラス

中身はこらえてくれます！

- ・水　＝水
- ・紙皿　＝皿
- ・いろはす＝茶

★事前に準備するもの・・・『紙コップ3つ』

★掲示物を黒板に貼るための『磁石』8個くらいい

時間	内容	教師の動き
導入 7分	①前回の「無人島ゲーム」の、みんなのふりかたを説明。 大別すると、中身は次の3つ。 ★そうはいっても「生活」も「教育」も「医療」も、 いづれも未初見！ ★言われてみたらそうだな、重要度が低くなったのは、無 意識に「自分たちの生活を振り返るといい」と思っているに 考えていた」からじゃないかな、反省。 ★「分かったこと！考えたこと！」→3つとも、その通り。 だから、途上国へ出かけていって戸開けや商業の技術 支援をしたり、ワクチン接種や医療支援を行ったりして いるんですね。 一でもまだまだ途上国の視点から見ることができています！ ★いろいろな視点から国際理解を深めていきましょう。	①振り返り配紙。
展開 ②③で 5分	②今日の議題は「字が読めるってどういうこと？」です。 Q：掲示物を見て下さい。これは何の数字でしょうか？ A：答は『識字率』です。『識字率』とは・・・（説明） Q：では、どこの国の識字率でしょうか？ ちなみに日本の識字率は99.99％です。 A：答はこの国です。（ネパールの国旗を貼る） ③それでは今からネパール語を勉強します。ネパール語の カードを配ります。 ◆ ④3枚しかありません！「えーつ、無いよ」と言ったら すかさず「そうです。84.5%のしか字が読めないから ね！」と言ってください。そして、「今の気持ちはどうと 聞いてください。」	★順次、掲示物を見る。 ①1枚が書かれた紙 ②「識字率」の紙 ③ネパールの国旗 ④世界の識字率の地図2013
⑤で 3分	★ポイント★ 持っている生徒がつまらなさそうな顔をしたら、すかさず「どう感じる？」と聞いてください。 争う必要はない。・感情がない、ということもそれぞれの立場で立論をさせてください。	
展開 ⑤⑥⑦ ⑧⑨ で 2.0分	④字が権利が「ある」人、「ない」人の気持ちが変わる ある／無があるは「ある」人ですか？「ない」人ですか？ 今の気持ちを書き込みましょう。 ★発表させる。 ⑤それで、ネパール語を勉強しましょう。今日はみんな 平等に、持っている人に、持っている人は見せてあげて、 一緒にカードを読んでもみましょう！と音う。 ★最後に、楽しい雰囲気やみんなでも口から言い合う。 ⑥ネパール語を学んだところで、さらにネパール語を字づ き「ルール」は「全員づきかえを返すこと」です。 ⑦「ネパールに住むあたは字が読めません。ところがあ る日、高熱がでてひどい腹痛になりました。だから、薬 を求めた」と思いました。でも、字が読めません。たぶ んこの3つのうちのどれかが薬です！「体の3つでや」 「ネパール語で『南』『東』『水』と書かれています」 「あたはどれを選びますか？」	★提示する。 ・3つのペットボトル ・ネパール語で書かれた3枚 のカード

3 年 略案 10月23日⑤

(1/2)

	★指導内容のポイント ①「ともに生きる」視点で考えさせる。 ・遠国国というのは「海に向こうの他人国」ではなく「自分分」として認識できるように。 ②「字が読めない」ことから生まれる「危険性」を認識させる。 ・「字が読める」のは「当たり前」ではないことを見直すように。 ・「字が読めない」のは、「自分が悪い」ではなく「ことを認識」「したとしてもできない」現状がある。 ・「字が読めない」というのは不便だけでなく、「命にかかわる」ことを強調。	
まとも 10分	(全員起立、30秒で移動) ③集まった人の中に、「本当に飲んでもらいます!」 代表者1名を選んでください。 「水は、本当に、水が入っています!」 「薬は、ちゃんど、おいしい味がします!」 「海は、・・・が飲んでもらいた分かります!」 とにかく飲む人を1人選びましょう! ◆担任の先生へ (注意) ◆ 飲む人はあくまで (希望者) になるようにしてください。 食べ・飲むに関しては最近厳しいので・・・ ④「今、どんな気持ちですか?」 ・「ドキドキする」「賭け事に参加するみたいだ」 ・「毒を飲んでしまったらどうしよう?」 ⑤では、飲んでください。みんなで「せーの!」 ・○さんが飲んだのが「水」 ・○さんが飲んだのが「薬」 ・○さんが飲んだのが「海」でした。 ◆担任の先生へ (注意) ◆ 塩水の生体がいがいとしたがっतर行かせてください。 →今日はクラスで活動しましたが、これが国だとしたら? 字が読めないということが原因で、今日毒を飲んでしまったように、〇%の人が「命の危険」にさらされているということですね。 ⑥今日の課題は「字が読めないってどんなこと?」でした。 ・これが最新の資料です (世界の識字率の地図を提示)。 ・世界では識字率の低い国がこんなにあります。 ・その原因は「その人個人のせい」ではありません。 「教育を受けたくても受けられない、できない」という現状があるのですね。 ⑦今日の授業を通して、自分が感じたことや考えたことを書きましよう。 ★振り返りを書かせる。(ワークシートの振り返りのところを音読する) →時間があれば発表→集める。	★不安な気持ちと賭けのよう な気持ち。 ★ポイント★ ・「字が読める」のはあたり まえではない。 ・「字が読めない」のは個人 のせいでもない。 ・字が読めないのは不便 だけでなく、命にか かわること。

3年 略案 10月23日⑤

(2/2)

時間	内容	教師の動き
導入 2分	① 前回の「識字事」ではネバールが登場しました。 ② 振り返りを読みます。 字が読めるかどうかは命にまで関わることなのでね。	★振り返りを配布する。
展開 3分	③ 今日は「アフリカ」についてです。 ④ ふりかえりの裏にアフリカの地図が印刷されています。見て下さい。国の名前は知っているでしょうか。 ⑤ ワークシートを配ります。 ⑥ 今日の課題は「18個の謎を解きましょう」です。	★アフリカの地図を掲示する。
5分 12分	⑦ 違いアフリカと私たち日本での生活とのつながりを考えましょう。 ・この18個の品物と日本で暮らす私たちの生活に つながり があるものを探して、○を付けましょう。 ・○はいくつ付けてみましょう。見つけただけ付けてください。	★大きなワークシート（カラ） →を班に1枚、配付。
8分	・空欄には、この18個以外にも、あなたが知っている「アフリカとつながりがあるもの」を書きましょう。 ⑧ 個人で考える。 ⑨ 4人班で考えて、アフリカとつながりのあるものに○を付ける。 ・リーダー（1名）とフォロワー（3名）を決める。 ・フォロワーの中で、フォロワー書記1名とフォロワー発表者を決める。 ⑩発表する。 ・1班から順に何を選んだか、発表する。	
展開 12分	⑥では、答え合わせをします！ ・答えをよく聞いて、地図の中で該当する国名を探して○を付けましょう。 ⑦感想を聞く。	
まとめ 8分	⑧ 中でも、ゲーム機やスマホの裏面に知ってほしいと思います。資料を配布する。 ・資料 NO.1 と NO.2 を音読する。生徒にさせてもよい。 (スマホの原料の世界地図、レアメタルの話、コンゴの紛争鉱物、を読む) ⑩今日の授業を通して、感じたこと、考えたことを書きましょう。	★資料を配布する。

★指導内容のポイント

①「自分の生活とのつながり」を実感させる。
・途国というのは「海の向こうの他人事」ではなく「自分事」として実感できるように。

②「ともに生きる」視点で考えさせる。
・自分の「行動」(何を買うか)を変えることができるのは自分。自分の行動を変えれば、世界も変えられる。どんな行動をとっていくか、どう考えるか、(自分たちさえよければいいのか、他の国の人々は幸せにはなっていないのか)

3 年 略案 10月29日⑥

【3年】 11月 総合：各クラス

時間	内容	教師の動き
導入 3分	① 前回は「アフリカ」と私たちの生活とのつながりを考えました。 ② 振り返りを読みます。 途上国の苦しさの上に、私たちの生活が成り立っているのを知りましたね。こんなにもアフリカが輸出しているのならアフリカは豊かであるはずなのにそうではないのは何かおかしいのではないかと、フェアではないのではという考えが出てきました。 世界の不等等をさらに知っていきましょう。	★振り返りを配布する。
展開 5分	③ 今日は「熱帯雨林」についてです。 ④ みなさん「熱帯雨林」についてどんなことを知っていますか？（熱帯雨林は消失しているなど、答えさせる） ⑤ 地図を見て下さい。 ・1枚目…緑と茶色の分布→どこが熱帯雨林？ ・2枚目…緑のところは熱帯雨林 ・3枚目…赤いところは消失が進む熱帯雨林 ★今日は熱帯雨林のことをさらに知っていきましょう。 ⑥ まず、「熱帯雨林クイズ」！ ・Q1～3を解きましょう。→答えと説明 ⑦ さらに、「熱帯雨林クイズ」！ ・Q4を解きましょう。→答えと説明 ⑧ さらにさらに、「熱帯雨林クイズ」！ ・Q5を解きましょう。話し合ってもよいです。 ⑨ 考えついた人？何も思い浮かばなかった人？ ★ひとしきり出し合った後で、ポテトチップスを出して…「熱帯雨林と関わりのあるものは、これです！」 ⑩ 「熱帯雨林と関わりのあるもの」はプリントの裏に例があります！ ・カップ麺・ポテトチップス・チョコレート・クッキー・マーガリン・シャンプー・リンス・歯磨き・洗剤などたくさんあります！ ⑪ 熱帯雨林と関わりのあるものに色を塗りましょう。 ・植物油（※たまた大豆油は違います。） ・乳化剤 ・マーガリン ・ショートニング・パーム油 ⑫ 共通点は…「パーム油」と記入してください。 ⑬ 資料を配布します。 ⑭ 資料を音読していく。	★世界地図を掲示する。 3枚目が一番最後になるように重ねて掲示してばらばらマングのようにするとよい。 Q ★実物を出せたら出す。 ※「ぞうの森とポテトチップス」という本もよい。 ★資料を配布する。

3年 略案 11月⑦

(1/2)

まとめ 8分	⑮ 自分たちの日常生活が熱帯雨林の破壊に、こんなにも関わっているのですね。 ⑯ 今日の授業を通して、感じたこと、考えたことを書きましょう。	★シャンプーを使った事の無い人？など聞いて、自分たちの生活が熱帯雨林と関わっていることを確認する。
★指導内容のポイント ①「自分の生活とのつながり」を実感させる。「自分事」として実感できるように。		

3年 略案 11月⑦

(2/2)

【3年】 11月 総合：各クラス

時間	内容	教師の動き
導入 8分	① 前回は「熱帯雨林」と私たちの生活とのつながりを考えました。 ② 振り返りを読みます。 ③ （熱帯雨林が消失している原因が私たちの日常生活の食べ物や生活用品にあることを思い出させる） ・これまでの感想にもよく「何も出来ない自分がなげない」と書かれていましたが、本当に、私たちは何もできないのでしょうか。 ・今日は学びを深め、自分たちができること、地球に優しい行動についてみんなで考えていきましょう。	★振り返りを配布する。
展開 5分	④ 今日の課題は「熱帯雨林を必要以上に破壊しないために私たちができることは？」です。 ・考え方の例として、ワークシートの表を見て下さい。 「すぐできる」「1年以内にできる」「50年以内にできる」「個人でできる」「学校でできる」「家庭でできる」「国や世界でできる」のどの欄にあてはまるかを考えます。 ・例題1：「パーム油について誰かに話す」という行動はどの欄にあてはまるでしょう？ →挙手で。一つとは限らない。答えは「家庭ですぐできる」「学校ですぐできる」。 ⑤ 【個人で考える】 ・Q1：ワークシート右上の①～⑥の行動について、番号をどこかの欄に書き入れましょう。 ・Q2：この他にもどんな行動ができるか、考えて、自分が考えたアイデアを書き込みましょう。例「残食調査をして食べ残しを減らす」 ⑥ 【班で考える】→【クラス全体で共有する】 ・班で考えを共有する。 ・班ごとにあてなど黒板に書かせて、全体で共有する。 ★これらすべてが私たちにできること、ですね。真剣に考えてみるとたくさんあります。 ……………	★座席をもとにもどすとよいが、あとからまたグループワークが出てくるのでちゃんと話が聴けるならそのままよい。
書く 3分	★ワークシートの裏へ。 ⑦ 次はプランテーション農園について詳しく知ってほしいと思います。「ミーナちゃん13歳の一日」を読みましょう。（音読する） 【読み終わってから】 ・どんなことを感じましたか。 ・私たちの日常生活はこのような人々の苦しみの上なりたっているのですね。 ・Q3：ミーナちゃんを助けるためにどんなことができるでしょうか。まず個人で考えて下さい。	★先生が範読するとよい。 ★前回使った、油ヤシやトラップの写真を貼って現実を想像させる。
前半 25分		
後半 25分		
Q3 4分		

3年 略案 11月⑧

(1/2)

8分	⑧考えついた人？まだの人？色々いると思いますが… ⑨班の人と意見を共有しましょう。 ・班で出した意見を、「班で選んだ良さそうな支援策」の欄に書いていく。 ⑩班で意見をまとめる。 ・出てきた支援策のうち、良さそうなものを3つに絞る。 ・絞った3つの案を、A4紙に書く。 ・黒ペンで書く。	
2分	⑪各班1枚ずつ黒板に貼って詳しい内容を発表する。	
8分		
まとめ 3分	⑫今日の授業を通して、感じたこと、考えたことを書きましょう。	
★指導内容のポイント ①「自分たちは無力ではない」何もできないといって諦めてはいけない。 「真剣に考えたらできることはたくさんある」「世界のために何ができるかを一生懸命考えよう！」という気持ちになるように。 ②「自分の生活とのつながり」を実感させる。「自分事」として実感できるように。		

3年 略案 11月⑧

(2/2)

【3年】12月⑨ 「総合」各クラス

時間	内容	教師の動き
導入 5分	①前回までに「私たちの日常生活の向こうに途上国の生活がある」ということを学びました。ミナちゃん的生活を知って、どんな支援策があるかも考えました。 ・振り返りを読みましょう。 ・先進国の消費行動が、途上国の貧しさを生み出す一因となっていることが分かってきましたか？	振り返りを配る。
展開 5分	②今日は、「貧困」から抜け出せない途上国の現状に対して、みんなで、なんとか打開策を考えましょう。	★ワークシートを配付する。
5分	③【個人】 ・プリントを見て下さい。 ・「負の連鎖」はなぜ起こるのでしょうか。 ・8つの項目のつながりについて考えて、 ・「負の連鎖」の図を完成させましょう。	・正解は一つではない。 ・貧しさから抜け出せないことを理解させる。
5分	④【班】 ・班で話し合っ、班のプリントに記入して下さい。	
20分	⑤今日の主題です。この「負の連鎖」をどうしたら断ち切ることができるでしょうか。 「負の連鎖」を断ち切るためには私たちはどんな支援をすればよいのか、その内容を考えましょう。そう考えた理由も書いて下さい。 【個人】 ↓ 【班】 一人ずつ支援案を出し合う。 協力して、たくさんの支援策を考える。 *【個人】 ワークシートの裏に記入する。 *【班】 のプリントには赤ペンで記入する。	・途上国の人達が「貧困の輪」から抜け出せるような支援を行う。 どんな支援があれば「貧困」から抜け出せるのか。 *例を参考に。
15分	⑥班ごとに発表する。	
まとめ 5分	⑦今日の授業で感じたこと考えたことを書きましょう。	

★指導内容のポイント
①途上国が貧しさから抜け出せない現状（「貧困の連鎖」）を理解させる。
②どんな支援をしたら、途上国は貧しさから抜け出せることができるのか（本当に必要な支援）を考える。

別紙③ 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

12月 ⑩ 「総合」 各クラス			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	・前回までの振り返りをする。 どんな問題がありましたか？ ・みなさんの感想は…… 「世界は平等すぎる！」 「なんとかしなければ」 「なにができるかな……」 ・世界の不平等さ貧富の差をどうしたらなくせるか本気で考え、マニフェストを作る。	・私たちの生活は、今、地球に生きる他の地域の人々とも密接につながっていることを確認する。 ・黒板に前回の紙を貼る。	・前回の紙
展開 (20分)	より良い「地球国」にするには？		
5分	・4人で1チームとして「地球大統領選挙」に立候補する。 ・そのためにマニフェストを作る。 【思考活動：1】 ・グループで「どんな地球国にしたいか」話し合っって中心の理念を決める。 【思考活動：2】 ・班でそれぞれの担当を分け、「文部科学省」「貿易経済省」「保健人権省」「環境食料省」の4つの役割に分かれて考える。 【思考活動：3】 ・担当ごとに集まって話し合う。 ※エキスパート活動	【4人班の活動】 1. まずどんな「地球国」を実現したいか考える。 2. 担当を分けて、各担当で考える。 3. 考えを共有する。 ※一度考えたあと、エキスパート活動を取り入れる。 4. 各班の同じ担当ごとに集まって考えを出し合う。 5. 元の班に戻って考えをシェアし、ブラッシュアップする。 6. 班ごとにマニフェストを練る。	・ワークシート ・シンキングツール
10分	【まとめ】 ・4人班で考えを共有する。 ・考えをブラッシュアップする。 ・マニフェストを練る。		
まとめ (10分)	・各班の発表を聞く。 ・今日の授業を通して自分の感じたことや考えたことを書く。		
(例) 改めて「平等」な世界の実現を目指せたら良いなと感じた。できることは意外にたくさんあると思った。			

★指導内容のポイント
①「話し合う」過程を大切に。いろいろな立場で。
②「練る」ことができればよい。人の話を聞いて深まる実感大切に。

3年 略案 12月⑨

3年 略案 12月⑩

【3年】12月⑪ マニフェスト「総合」各クラス

時間	内容	教師の動き
導入 5分	①今日は2学期の「国際理解」のまとめとして、みなさんと「地球大統領選挙」を実施しましょう。	★ワークシートを配付する。
展開 分	②各班で「より良い『地球国』」を目指して話し合っって作成したマニフェストをみんなにPRしてください。 最後は投票をします。 ③1班から9班のPR【発表は3分】 1. 模造紙を貼る 2. 班で考えた「マニフェストの理念」 3. 各省庁の担当から政策のPR！ 4. まとめ ④投票する。 ・なぜその班を選んだのか、理由を一人ずつ書く。	★マニフェストは、黒板に磁石を使って貼る。
まとめ 10分	どの班もすばらしいマニフェストでした。相手の立場に立って考えた発想豊かな支援策をたくさん考えられたと思います。ですが…… ⑤中学生でも出せる案がこんなにたくさんあるのに「なぜ実現しないのだと思いますか」？ プリントの空欄に書き込む。 ⑥みんなで考えを共有する。 ⑦今日の授業で感じたこと考えたことを書く。	

★指導内容のポイント
①国際理解の内容のまとめ（2学期のしめくり）
②みんなが考えた理想の世界（平和、自由、平等、笑顔）などの価値観を改めて大切だと認識する。
③意見を交流しながら、貧富の差はなくなるのか、みんなが公平に暮らせる幸せな世界になるのかを考える。共感や納得があるいは反論を大切に。

3年 略案 12月⑪

Share Happy? とともに生きる地球の未来



松任中学校 3 年 _____ 組 _____ 番

氏名 _____

3 年国際理解 _ ファイルの表紙

(1/2)

総合的な学習の時間のポケットファイルが
届きました！！

(不登校生徒、たけのこ生徒分も入っています)
来ない生徒にも渡してください。何にでも使える
ファイルなので家の人にあげてください。

クラス

番号

氏名

を記名させて、

ファイルの 1 つめのポケットに

左開き※英語、数学、社会、理科の教科書と同じ向き
で綴らせてください。

3 年国際理解 _ ファイルの表紙

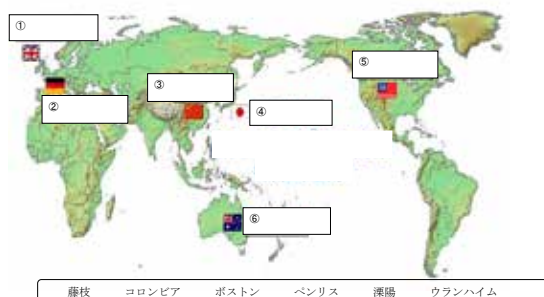
(2/2)

Share Happy? とともに生きる地球の未来

_____ 組 _____ 番 氏名 _____

3 年生では「国際理解」に関する学習を行います。世界にはどんな国があって、どのような世界的規模の問題が起きているのでしょうか。世界へとどんどん視野をひらいていきましょう。その導入として、まず、みなさんに白山市の姉妹都市について尋ねます。どれくらい知っているでしょうか。それぞれにあてはまる国・都市を選びましょう。その都市の写真もわかるでしょうか。

白山市の姉妹都市を知っていますか？



藤枝 コロンビア ポストン ベンリス 漢陽 ウランハイム

- ① 国く イギリス (ポストン) 町
- ② 国く ドイツ (ウランハイム) 市
- ③ 国く 中国 (紅蘇省 漢陽) 市
- ④ 国く 日本 (静岡県 藤枝) 市
- ⑤ 国く 米国 (ミズーリ州コロンビア) 市
- ⑥ 国く オーストラリア (ベンリス) 市

国際理解 白山市の姉妹都市 答え

(1/2)

★軍で話し合います。

次の写真 A～F はそれぞれ①～⑥のどの姉妹都市か？そう考えた理由も書きましょう。

① 理由 _____ _____ _____ _____	② 理由 _____ _____ _____ _____	③ 理由 _____ _____ _____ _____
④ 理由 _____ _____ _____ _____	⑤ 理由 _____ _____ _____ _____	⑥ 理由 _____ _____ _____ _____

感想

国際理解 白山市の姉妹都市 答え

(2/2)

松任中学校 3 年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」

No. 1

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

今後の学習について

3 年 【世界を知ろう】

<目標>

- ・現在、地球上にはどのような問題や課題があるかを知り、その解決にむけた持続可能な開発を行うための視点やグローバルな視点を身につける。
- ・多角的な視点から情報を分析したり課題の解決方法を探ったりしながら、国際的な問題の解決のために何ができるかを考える。
- ・主体的、協働的に課題解決的な学習に取り組むことを通して、豊かな人間性や社会性を養い、進んで実社会に参画しようとする態度を育む。



<流れ>

- ◇オリエンテーション・白山市の姉妹都市について
- ◇地球にはどんな人々が暮らしているかを知る
- ◇世界の諸問題を「自分事」としてとらえる
- ◇世界における日本の役割を考える
- ◇「負の連鎖を断ち切るために」何ができるかを考える
- ◇SDGs の視点を一人一つ選び、調べ学習をする
- ◇一人ずつ卒業レポート（1人1研究レポート）を作成する
- ※自ら課題を見つけ、研究する。
- ※調べ、まとめ、レポートを作成し、発信する。
- ※三年間の学習をすべて踏まえて、自分の考えをまとめて発信する。

「1人1研究レポート」のテーマ

国際的な問題の解決のため、「『世界の幸せのため』に
どのようなことができるか考え、発信、提言を行う。

松任中学校 3 年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」

No. 2

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

【探検しよう みんなの地球①】～これはどこの国？～

写真をよく見てみましょう。1枚の写真にたくさんの情報が隠れています。
どこの国でしょうか。写っている物と選択肢から考えましょう。

A _____ 国 写っている物 _____ _____	B _____ 国 写っている物 _____ _____	C _____ 国 写っている物 _____ _____
D _____ 国 写っている物 _____ _____	E _____ 国 写っている物 _____ _____	F _____ 国 写っている物 _____ _____
G _____ 国 写っている物 _____ _____	H _____ 国 写っている物 _____ _____	I _____ 国 写っている物 _____ _____

★意外だった国 ()
★意外に思った理由



国際理解①オリエンテーション

国際理解②世界の国クイズ・国際理解とは（作業例）

(1/2)

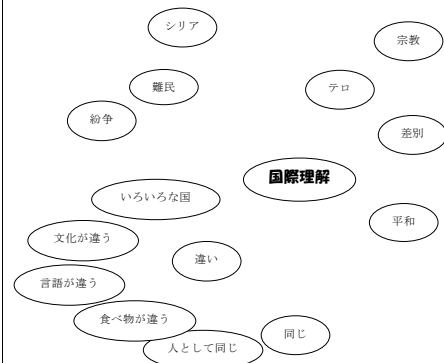
なぜ、今、「国際理解」が大事なの??

これからの総合的な学習の時間では「国際理解」をテーマとして学びます。
なぜ、今、「国際理解」が大事なのでしょうか。予想を書きましょう。

予想（あなたの考え）

それでは、「国際理解」と聞いてどのようなことが頭に浮かびますか。思いつくこと（キーワードなど）
をどんどん書いてウェビングしてみましょう。

……「国際理解」って？



*今日の感想、これから調べてみたいこと・考えてみたいことを書きましょう。

国際理解②世界の国クイズ・国際理解とは（作業例）

(2/2)

マレーシア
ボリビア
オランダ
ケニア

アメリカ合衆国
アラブ首長国連邦
バングラデシュ
エジプト

ロシア連邦
フランス
ガーナ
ネパール

国際理解②国の短冊

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

【探検しよう みんなの地球②】

項目	国名	理由	友だちの考え
一度 旅して みたい国	国名 ()	理由	() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()
友達がい たら いいな と思う国	国名 ()	理由	() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()
ずっと 住んで みたい国	国名 ()	理由	() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()
			() さん 国 ()

★あなたが書いた国を分けてみよう。多かったのは・・・？

色

★スライドを見て、今のあなたの思いを書き留めましょう。

Q 1 :

Q 2 :

Q 3 :

★今日の時間をふりかえって、思ったこと・考えたことを書きましょう。

国際理解③友達がいいたら良い国・旅してみたい・住んでみたい (1/3)

国際理解③友達がいいたら良い国・旅してみたい・住んでみたい (2/3)

＊「国際理解」参考資料＊

1.「国際理解教育」とは？

だれもが平和で公正な世界を願っているが、私たちの住む地球は、戦争、貧困、開発、差別、人権、環境問題など様々な問題を抱え続けています。「国際理解教育」は、このような地球規模の課題に対し、(1)世界の現状を「知る」→(2)課題に「気づき考える」→(3)自分にできることを「実行する」というプロセスで学習に取り組む教育のことです。このような参加体験型・課題解決型の学習を通して、「多文化共生の理念」を育み、平和で公正な地球社会作り「参加する態度」を養うことを目的としています。

ステップ1●相互に関わり合う「世界の今」を知ろう

私たちの住む世界は、人・物・文化・情報などが互いに行き来し、補い合い、影響し合って成り立っています。地球上に生きる私たちは、世界の様々な国や人々と無関係には生きられないことを理解します。

ステップ2●偏見や差別のない世界を作ろう

世界には様々な民族・文化・宗教・価値観がありますが、それぞれがかけがえのない尊さを持つ存在であることを理解し、お互いの違いを受け入れます。

ステップ3●「共生の理念」を養おう

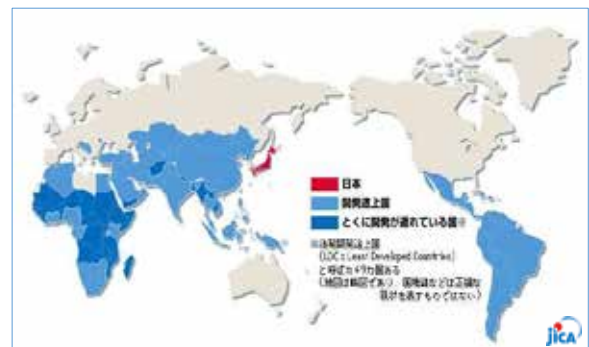
私たちは、お互いの存在を理解し、尊重し合って生きていかなければなりません。自分や自国の価値観のみを正しいとし、押しつけることが、争いや戦争の一因となることを理解します。

ステップ4●自分にできることを考え、実行しよう

現在、地球上にはどのような問題や課題があり、その解決のために、世界の国々や人々がどのような努力をしているかを学び、自分たちにできることを実行に移します。

ステップ5●「地球市民」意識を身につけよう

自分の選択や行動が、自分の周りの小さな世界だけでなく、地球全体に影響を及ぼすこともあり得る存在なのだという認識を持ち、責任ある選択と行動をする態度を身につけます。



国際理解③友達がいいたら良い国・旅してみたい・住んでみたい (3/3)

国際理解③一資料：世界地図（途上国・先進国）

「国際理解」

と言われても・・・

という人のためにまずはクイズから！

まずは世界の国の数について

クイズ：

現在、世界には何カ国ぐらいありますか？

- ① 100カ国 ② 150カ国
③ 200カ国 ④ 250カ国

正確には・・・196カ国

世界の人口は？

クイズ：

現在、世界の人口はおおよそ何億人でしょうか？

- ① 50 億人 ② 60 億人
③ 65 億人 ④ 75 億人

正確には・・・75億5000万人（2017年）
出典：「世界人口予測2017年改定版」

発展途上国の数はどれ位？

- ① 80カ国 ② 120カ国 ③ 150カ国

途上国の数	146
世界の国・地域の数	196

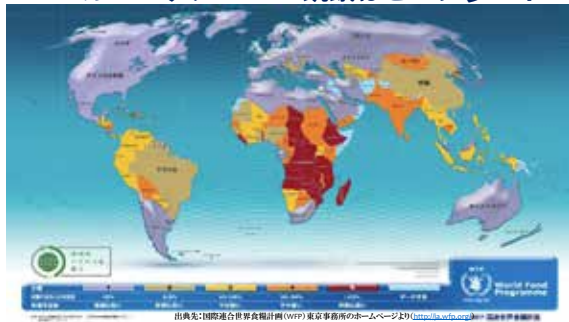
世界の人口75億人の内、75%の人が途上国に住んでいます。

あなたが答えた国は青ですか、赤ですか？



なぜ、今、「世界に目を向ける」ことが大事なの？

ハンガーマップ……飢餓はどこに多い？



なぜ、アフリカに多いの？



途上国のエリア

植民地になっていた過去があります

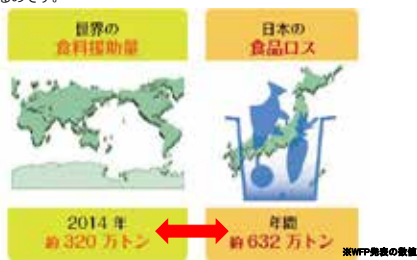


世界では
4秒間に一人が
飢餓で
命を落とす

出典：NATIONAL GEOGRAPHIC 日本版 http://natgeo.nikkeibp.co.jp/ngeo/natgeo/2013/09/09/20130909_01.html [2013/09/09]

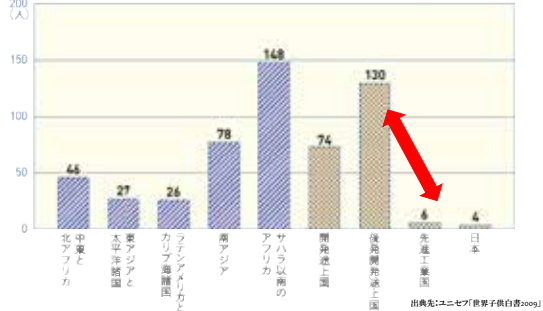
世界には飢餓が存在する一方で、

日本の食料自給率は現在39%（平成27年度）で、大半を輸入に頼っていますが、その一方で、食べられる食料を大量に捨てているという現実があるのです。



他にも、
世界にはどのような「差」が
あるのでしょうか？

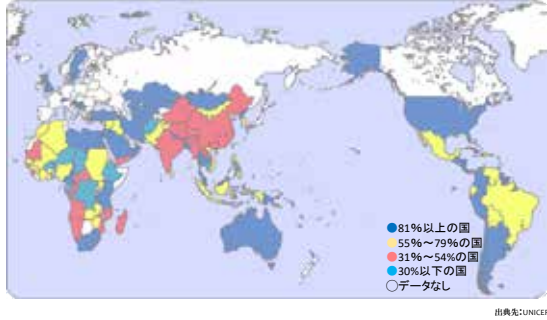
5歳未満児の死亡率（1000人中）



安全な水を手に入れられる人の割合は？



適切な衛生施設（トイレ）などを持つ人の割合は？



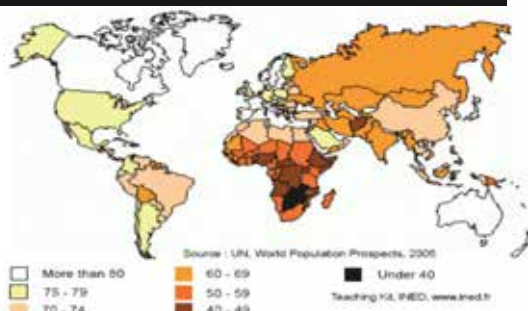
一つか二つ以上の武力紛争を抱えている国は？



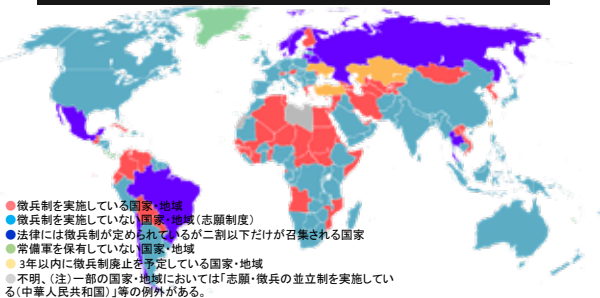
世界の難民・国内避難民の状況



平均寿命は？



徴兵制度のある国は？



日本と同じレベルの医療は受けられるの？



「生まれる国」は選べないのに、
生まれた場所が違っただけで
こんなにも「差」があることについて
あなたはどのように感じますか？

…でも、その差は
「仕方のないもの」なの？



「科学者になりたい」
リベールくん、15歳(エクアドル)



© UNICEF/UN059605/Arcos

2016年に大きな地震が起きて、ぼくの家も壊れてしまいました。今、復興に向けて頑張っているところです。ぼくは、ずっと科学者になりたいと思っていましたが、地震のあと、ぼくには夢をかなえるチャンスがあるんだって思っ、前よりも夢が大きくなりました。

「科学者になりたい」
リベールくん、15歳(エクアドル)

エクアドル大地震

2016年4月16日、エクアドル沿岸部をマグニチュード7.8の地震が襲い、被災者は72万人にのぼりました。ユニセフは安全な飲み水の提供、衛生設備の整備、教育、心理ケア、子どもや妊産婦への栄養指導、ジカ熱予防などの支援活動を行いました。

「生きたい」
ムハマトくん、10歳(バングラデシュ)



© UNICEF/UN0135716/Nybo

ミャンマーにあったぼくの村は、とつぜんおそれられました。二人のきょうだいも銃で撃たれて殺された。ぼくの家は壊れてしまいました。ぬかるんだ道を、時にはあふれた川の水につかりながら、バングラデシュまで何日も必死に歩いてきました。あのおそろしい日に見たこと、にげてきた道を思うと、こわくて、苦しくてたまらない。自分も死んでしまってもいい、そう思うとふるえてしまいます。生きていたい。ぼくの夢はそれだけです。

「生きたい」
ムハマトくん、10歳(バングラデシュ)

ロヒンギャ難民について

2017年の夏にミャンマーで激化した暴力から逃れるために、少数民族のロヒンギャの人々が隣の国バングラデシュに逃れています。バングラデシュのコックスバザールという地域には、すでに地元住民の人口を上回る68万8,000人以上の難民が押し寄せ、過密するキャンプや仮設居住区で避難生活を送っています。この難民危機により子ども72万人を含む120万人の人々が、命と安全を守るための緊急の人道支援を必要としています。

「お医者さんになりたい」
ファトゥマさん、10歳(シエラレオネ)



© UNICEF/UN059605/Arcos

わたしの国では、エボラ出血熱という病気が広がって、お父さんもお母さんもその病気で死んでしまいました。二人のこと、わたしにしてくれたことを考えると、泣いてしまいます。でも大丈夫。いまは算数が得意です。勉強して、大きくなったからお医者さんになって、家族を助けられるようになりたい、それがわたしの夢です。

「お医者さんになりたい」
ファトゥマさん、10歳(シエラレオネ)

エボラ出血熱って？

2014年3月から西アフリカのリベリア、シエラレオネ、ギニアを中心に、世界中で猛威をふるったエボラ出血熱。エボラウイルスによって広がる、まだ治療薬が開発されていない感染症です。

エボラの流行が始まって以降2年以上の間に、2万8,637人が感染し、そのうち4,767人が子どもでした。そして、死亡者1万1,315人のうち、3,508人が子どもであり、死亡者の4分の1を占めています。

2016年1月14日、エボラ出血熱は、世界中からの支援のおかげで、流行3カ国(リベリア、シエラレオネ、ギニア)で終息宣言を迎えることができました。

しかし、この3カ国で、ファトゥマさんのように、片親もしくは両親を亡くした子どもたちは2万3,000人ちかいます。そうした子どもたちにとって、エボラ出血熱の影響はこれからもずっと続くのです。

…あなたには、
なにができるでしょうか？

国際理解「世界に目を向ける」

なぜ世界に目を向けることが大事なの？

私たちが知らないだけで途上国はいっぱいあってその国の人達のために何かできることがあるかもしれないから。

共通点を探すため、世界を見ることで新しい発見が見つかるから。

社会人になると外国へ行って仕事をすることも出来ないから。

字ぶこで、視野を広くするため、他国に行くことが簡単になり、いろいろな国と関わることが多くなったから。

地球の問題は世界の問題なので、少しでも他の国が楽になるようにみんなで協力して取り組まなければならないから。

情報網が広がっていくにつれ、相手のことを知って、その相手に適した接し方をしなければならないから。

「生まれる国」は選べないのに、こんなに差があるって…？

自分たちだけが幸せな思いをしていて本当にいいのかな。他の国の人も幸せになれないかな。

仕方がないもの。運。



この差は世界が抱えている最も大きな問題で、何もすることができない自分が悔しい。この差をなくすために必要以上の無駄遣いをなくして、ボランティアや技術を受け渡すなど世界規模で行っていけば少しの人でも助かると思う。

どの国も平等であるべきだ。だから、日本がもっと途上国を支援すればいい。

悲しいことだと思う。みんなが同じ権利を持って生まれてきているのに先進国はぜいたくをして、途上国は貧しい暮らしをしているのはおかしい。

みんな同じ人間なのに生まれた場所のせいでこんなに「差」があるのは差別だと感じる。

みんな同じ命をもって生きているのに平等でないことは変だしダメなことだと思う。先進国だけ発展していくのは悲しいことだと思う。

あなたには何ができるのでしょうか…？

少しでもたくさんの国について知っていくこと。

差がなくなるために行動できたらいいと思うけれど、まず、途上国について知ることが大切だと思う。

援助という形ではなく、永久に消えないものを寄付する。

募金しか今はできないけれど、大人になると自分の行動も自由になるから救いたいと思う。



差がなくなるために行動できたらいいと思うけれど、まず、途上国について知ることが大切だと思う。

まだあまり分からないけれど少しでも世界のことを考えて行動できたらいいなと思いました。

国際理解③一振り返り

(1/2)

この時間に考えたこと・感じたこと

世界でこんなにも差が広がっていると知って悲しくなった。

世界にはとてもたくさんの途上国があるのに、私たちはそんな途上国のことを何も知らなかったの、もっと調べたいと思いました。

100%みんなが過ごしやすい環境をつくるのは難しいことだと思うけれど、たくさんの国と協力してつなかりを持つということがすごしやすい環境をつくる一番はやい方法だと思いました。

何ができるときかかれて、募金をするなどと言っている私は無力さを感じる。

自分たちは何ができるか、という問いに対して、「ボランティア」としか書けないのが本当に悔しい。

こんなにも多い国が食料や環境で困っていることを知ってとても驚きました。少しでも世界に協力できたらいいなと思いました。

「運良く日本に生まれてきて良かった」で終わるのではなく、そこからどういうふうに住んでいくが大切だと思う。自分だけが幸せになるのは自己満足。それでは意味がないので支援すればもっと良いと思う。

この差は一人だけでなく日本だけでなくすくともできないと思う。「自分に関係ない」というものをなくして、世界規模でこの問題に取り組まねばならない。

今まで何年何年も勉強してきたことなのに、資料を見て、武力紛争が起きている国の多さを初めて知りました。「平等で自由に暮らすことのできる社会をつくる」と口でならんことも言えるけれど、本当にそうしていると思う人が増えない限り平等で自由は遠いと思いました。

自分たちは当たり前のようにおいしいご飯を食べたりハイテクなゲームをしていたりしているけれど、途上国では満足にご飯を食べること以前に、生死の境を歩みながら生きているのだと思う、同じ人間なのにこのような差があることを悲しく感じる。

自分たちは限られた世界しか見ていなかったんだと思いました。アフリカの子供と今の私。年は一歳で、性別も一緒、血液型も一緒でも、出身地だけでこんなにもこんなにも道が違ってくると思う、まだまだ差別はあると思ったし、世界中みんなが手と手をとりあって笑顔で暮らせる社会になればいいと思う。

自分は知っているつもりだった。環境の良いところで暮らしているから分らなかったけれど、途上国の現状を知れた。自分にも支援、ボランティアなど出来ることがあれば進んでいた。

先進国が途上国を作ったのだから、他の国のことだからと無視するのではなく、先進国がどうにかしなければいけないと思いました。

世界の現状を知って衝撃を受けたことが伝わってきました。これからもっと知って、みんなで「世界の幸せ」の実現に向けて、考えていきたいと思います。

自分は幸せなんだと改めて思いました。私はそんな人達に何か協力できることを考えて、自分のことをやっていきたいと思います。

国際理解③一振り返り

(2/2)

松任中学校3年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」

No. 4

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

なくてはならない

あったらいいな

Needs or Wants? ~無人島ゲーム~

あなたたち4人で、無人島で暮らすことになりました。次の9つのアイテムのうち3つを持っていくことができます。3つを選ぶために、この9つのアイテムの重要度を話し合い、ダイヤモンドグラムに位置づけてみましょう。

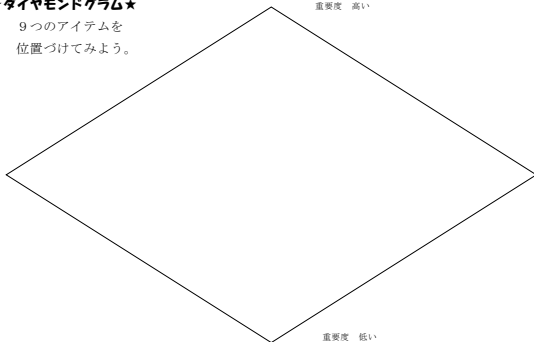


釣り道具	鍋	星座早見盤
百科事典	ロープ	水の「ろ過」装置
薬	のこぎり	ライター

★ダイヤモンドグラム★

9つのアイテムを位置づけてみよう。

重要度 高い



重要度 低い

国際理解④無人島ゲーム

(1/2)

★班で考えをまとめる。

順位	アイテム名	理由	どっち？
ベスト1			Needs / Wants
ベスト2			Needs / Wants
ベスト3			Needs / Wants

★次の分類基準にしたがって、ダイヤモンドグラム上のアイテムを色分けしてみましょう。

●赤→() ●青→() ●黒→()

塗って見て、何か気づくことはありませんか？

★この時間を振り返って、思ったことや考えたことを書きましょう。

国際理解④無人島ゲーム

(2/2)

釣り道具

星座早見盤

鍋

百科事典

ロープ

水の「ろ過」装置

薬

のこぎり

ライター

国際理解④無人島ゲーム9つのアイテムとダイヤモンドグラム (1/3)

封筒の中身

①師範用「掲示物」9つのアイテム

※裏面にマグネットついています。

②班で書くA3用紙(12枚)

③班で使う9つのアイテムが書いてある用紙(12枚)

※9つに切って使わせてください。

※重要度が決まったら、②に③をのりで貼っていく。

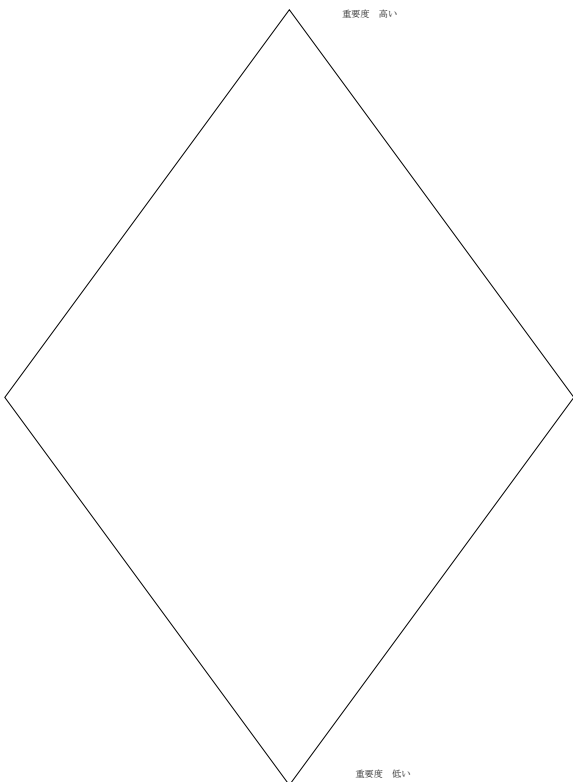
おすすめの班は 3～4人班です

国際理解④無人島ゲーム9つのアイテムとダイヤモンドグラム (2/3)

()班 メンバー[]

★重要度も考え、9つのアイテムも貼ろう。

重要度 高い



重要度 低い

国際理解④無人島ゲーム9つのアイテムとダイヤモンドグラム (3/3)

「無人島ゲーム」ふりかえり感想

「生活」の品物は生きていくために必要だから、やっぱり重要度は高いと思う。

とはいえ、初めは自分の中では百科事典は重要度が低かったけど、よく考えると、「食えないものは何か」とか命に関わる判断が載っているから、必要だなと納得した。

自分の生活を見つめ直して...

百科事典とか薬とかは、私たち日本ではあたりまえにあるから下の方にしてみましたことがわかったけど、他の国では手が届かない人もいるから、教育・医療は、本当は必要だと思う。

あたりまえにある医療とか教育とかが、私たちの中では「要らないだろう」となってしまうことに気づきました。

自分は毎日周りにいるんなものがあるから、生活に大切な物ばかり必要だと思っていたけど、知識がなければ、何を食べてよいかわからないから、知識が必要だと思った。

私たちは普段、当たり前前の幸せに気づいていない。生活していく上で、教育は大切だ。教育がなかったら字も読めないし、辞典で調べることができない。この授業で、自分の生活のありがたさを知ることになった。

自分が知らない物は作ることができない。本当に必要な物は「命を助けるもの」だと思った。

😊 だから、途上国で井戸掘りの技術を教えたり命を守るために母子手帳を普及させたりといった支援をしているのです

「医療」や「教育」もとても大事だけど、私はやっぱり「生活」するための道具の方がそれらよりもっと大切だと思う。

自分は「教育」は必要だと思う。百科事典のようなものがあつたら、書にもあたらない。

私は「医療」が一番大事だと思っていたけど、それだけでは生きていけないので、生活・医療・教育、全部大切だと思いました。

「生活」の用品は自分で作れたりするかもしれないが、「知識」は他の物に替えられない。

「知識」がなかったために命を落としたり、病気にかかって薬がなかったり...医療や教育はものすごく重要なものになってくると思います。私たちの班は百科事典を選びましたが、良かったのではないかと思います。

分かったこと！考えたこと！

発展途上国では、自身の生活を支えるのに精一杯だからこそ医療や教育に手が回らないのだと分かった。その中でも、生活に必要な物すらない人々から争いが生まれるのかなと考えた。

「教育」「医療」の知識は、命に関わるものがあるので、とても大切だと思う。知識があることで救われる命がある。だから、とても価値あるものだし、必要なものだと思う。

国際理解④一人無人島ゲームふりかえり

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

字が読めないってどんなこと…？

国際理解についていろいろ学習を進めてきましたが、まだまだ「自分は先進国に生まれて良かった」などと思ってしまうかもしれません。大事なことは「ともに生きる」心です。同じ地球に生きている人間として、途上国に生きる人の立場になって「心」で考えてください。

السلام عليكم

★「識字率」とは…？

※識字・・・「識字」とは、文字を読み書きし、理解する能力。

意味・・・

★あなたはどっち？

学ぶ権利が（ ）人です。

どんな気持ちですか？

★どの文字がどんな意味でしょうか？

①

②

③

★今日の授業をふりかえって、感じたことや考えたことを書きましょ。

「字が読めない」ということを体験しました。文字を知らないとおなかが痛くなったとき、薬の瓶と農薬の瓶を間違えてしまい、死んでしまうこともあります。今日の授業で、どんなことを考えましたか？

3 年総合「字が読めないってどんなこと？」の補足資料

★識字率とは

- ・基本的に、大人（15 歳以上）の識字率（％）
- ・ある国または一定の地域で、文字の読み書きができる人の割合。

[補説]

・ユネスコでは、「15 歳以上の人口」に対する、日常生活の簡単な内容についての読み書きができる人口の割合」と定義している。

・一般的に「識字」は、単純な算術計算を行う能力である「初歩の計算能力」も含み、日常生活上の短い簡単な文を理解して読み書きすることができる、15 歳以上の人口の割合。

★世界の識字率（Global Literacy Rates 2013 年）



《アジア州について》

- ・ [アフガニスタン](#) - 38.2%(男性 52.0%、女性 24.2%)(2015 年)^[1]
- ・ [イラク](#) - 79.7%(男性 85.7%、女性 73.7%)(2015 年)^[2]
- ・ [イラン](#) - 86.8%(男性 91.2%、女性 82.5%)(2015 年)^[3]
- ・ [インドネシア](#) - 93.9%(男性 96.3%、女性 91.5%)(2015 年)^[4]
- ・ [インド](#) - 71.2%(男性 81.3%、女性 60.6%)(2015 年)^[5]
- ・ [オマーン](#) - 91.1%(男性 93.6%、女性 85.6%)(2015 年)^[6]
- ・ [カザフスタン](#) - 99.7%(2006-2010 年)^[7]
- ・ [カタール](#) - 94.7%(男性 89.1%、女性 88.6%)(2005-2010 年)^[8]

国際理解⑤字が読めないってどんなこと？

国際理解⑤一字が読めないってどんなこと 補足資料

(1/2)

- ・ [カンボジア](#) - 77.2%(男性 84.5%、女性 70.5%)(2015 年)^[1]
- ・ [キプロス](#) - 97.9%(2006-2010 年)^[2]
- ・ [キルギス](#) - 99.2%(2006-2010 年)^[3]
- ・ [クウェート](#) - 93.9%(2006-2010 年)^[4]
- ・ [サウジアラビア](#) - 94.7%(男性 97.0%、女性 91.1%)(2015 年)^[5]
- ・ [シリア](#) - 84.2%(2006-2010 年)^[6]
- ・ [シンガポール](#) - 94.7%(2006-2010 年)^[7]
- ・ [スリランカ](#) - 92.6%(男性 93.6%、女性 91.7%)(2015 年)^[8]
- ・ [タイ](#) - 93.5%(2006-2010 年)^[9]
- ・ [タジキスタン](#) - 99.7%(2006-2010 年)^[10]
- ・ [トルコ](#) - 95.0%(男性 98.4%、女性 91.8%)(2015 年)^[11]
- ・ [中国](#) - 94.0%(2006-2010 年)^[12]
- ・ [パキスタン](#) - 57.9%(男性 69.5%、女性 45.8%)(2015 年)^[13]
- ・ [バングラデシュ](#) - 61.5%(男性 64.6%、女性 58.5%)(2015 年)^[14]

★ネパールの識字率について

今から 5 7 年前	1 9 6 1 年	1 0 % 足らず
3 7 年前	1 9 8 1 年	2 5 %
	2 0 1 5 年	6 4 . 7 %

このように徐々に上がってきてはいますが、先進国と言われる国の識字率が 9 8 % を超えているという現実と比べると、まだまだ識字率は低いと言わざるを得ません。1 5 歳以上の大人のうち、約 6 5 % しか字が読めないということは、3 分の 1 の人は字が読めないということです。

★日本の一例

明治期の各県の調査初年次の識字率（文部省年報による）^[1]

府県	調査初年次	調査対象	男子	女子	全体
滋賀県	1877 年		89.23	39.31	64.13
群馬県	1880 年	満 6 歳以上	79.13	23.41	52.00
青森県	1881 年	全住民	37.39	2.71	19.94
鹿児島県	1884 年		33.43	4.00	18.33
岡山県	1887 年	満 6 歳以上	65.64	42.05	54.38

字が読めないってどんなこと…？
感想

自分は水を飲んだけれど、実際に熱が出たとすると、水を飲んででも助からないと思った。やはり「字が読めない」ということは同時に命の危険が常に近くにあるということだと思った。こうして自分が学んでいることを改めて考え直してみようと思った。

今日は塩水を飲んだからセーフだったけれど、本当に毒だったら死んでいたいと思ひ、悔くりました。

もし死んでしまったらどうしよう…などの不安が最初はありました。勉強するというのはとても大事なことで頭ではわかっていても、苦手な勉強は少し嫌だと思ってしまう。しかし、勉強できるというのは幸せだということを実感しました。

私は学ぶ権利のない人だった。「ありがとう」も読めないなんて嫌だなと思った。

自分の生活を見つめ直して…

生活するのに必死で字が読めないとは、つらいことだと思うし、読めることが幸せに思います。

普通に「字が読める」ことがどれだけ自分の命を守ってきたかが、改めて実感できた。読めない字があると不安になるし、命に関わることになっていくことが今日の授業で分かりました。字が読めることの大切さと必要さに気づいたし、勉強できることに感謝だなと思いました。

字が読めることを日本では当たり前になっているから気づかなかったが、字が読めないで困るだけでなく、命の危機にもなってしまうことが分かった。字が読めない人の中には、マークをつけたらだいたいの意味も分かると思う。例えば危険な物はドクロマークを付けるのと同じだと思う。



この考え方によって、最近「緊急時」「どんな人にも」「すぐ」分かるようにするために……と、災害時の避難所や非常口などにマークがつけられていますね。

字が読めないということはすごく怖くて不安なことだと思った。今日のように「一か八か」だけじゃなく、自分の体や未来がかかっていることを重く感じた。

字が読めないことが命の危険につながるなんて考えたこともなかった。日本は識字率が 99.9% で字が読めるのが当たり前だけどアフリカやインドに住む半分の人が読めず命の危険にさらされていると知って自分の生活のありがたさを感じた。

思ったこと！考えたこと！

世界中の人々に学ぶ権利があると考えると、これからは勉強もイヤイヤ思うじゃなくて、ありがたみをもって学んでいきたい。

識字できない＝死の危険なので、アフリカの人々は肌身などに縫って酷いものだと思います。僕は、これに対して識字ができで、さらに英語も学んでいるくらいなのでこの能力を有効に使っていききたいと思います。

私自身、授業が面倒だと感じることも多いけれど、学ぶ権利のない人からしてみれば、自分の手に入らないものを当然のように受け取り、しかも放棄しようとする人は許せないと思うだろうなと思った。

「教育を受けること」「学ぶこと」の意味を、改めて考えてしまいますね。

国際理解⑤一字が読めないってどんなこと 補足資料

(2/2)

国際理解⑤一字が読めないって?の生徒のふりかえり

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏 名

18個の謎を解け! ~私たちの生活とアフリカとのつながりを考える~

今日は、私たちの身の回りにあるモノについ

て、日本から遠く離れたアフリカとのつながり

を見つけましょう。発見できるでしょうか?

★アフリカとつながりのあるものは?

次の「18品目」は、私たち日本人にはおなじみのものばかりです。この中からアフリカとつながりのあるものを選んで○を付けましょう。



空欄には、私たちの身近にあるもので、他にアフリカとつながりがあるものがあれば書きましょう。

★今日の授業を通して、感じたことや考えたこと、気づいたことを書きましょう。

国際理解⑥18個の謎 アフリカ

(1/4)

18個の謎を解け!

見つけられるかな?

() 班

★18個の謎を解きましょう。どの品物がアフリカと関係しているのでしょうか?

次の「18品目」は、私たち日本人にはおなじみのものばかりです。

この中からアフリカとつながりのあるものを選んで○を付けましょう。



国際理解⑥18個の謎 アフリカ

(2/4)

18個の謎を解け!

資料

★つながりを見てみよう。

18品目は、アフリカとどのようなつながりがあるのか、表で確認してみましょう。

つながりを確認しながら、地図帳で国の場所を探し、色ペンでチェックしましょう。

たこ焼き 日本で消費されるタコの約60%は北アフリカに産出するモーロッカやマリから輸入されています。	携帯電話 携帯電話などの機能部品にはレアメタルが多く含まれています。レアメタルの約10%はアフリカから産出されています。	蚊取り線香 蚊取り線香に使用されている香料はアフリカから輸入されています。	チョコレート(カカオ) チョコレートの原料であるカカオ豆の約70%は西アフリカに産出するガーナから輸入されています。他にもコートジボワール、ナイジェリアなどから輸入されています。
ゴマ ゴマはアフリカの国産品として知られ、多くのアジアや中東、オーストラリア、ヨーロッパなどからアフリカの国産品から輸入されています。	電気 日本は天然ガスや石油、石炭、原子力から輸入しています。アフリカは天然ガスの産出地として知られています。	イセエビ 西アフリカ沿岸国(輸入量約10%)やエジプト(輸入量約5%)からイセエビを輸入しています。	ダイヤモンド アフリカの産出地はダイヤモンドの主要産出地であり、ボツワナ、コンゴ民主共和国、南アフリカの産出地などが有名です。
スシ(マグロ) 青魚や鮮魚で使われているマグロは、北アフリカ(モロッコやアルジェリア、チュニジア)から輸入されています。	バラの花 日本はケニアやエチオピアからバラを輸入しています。ケニア産のバラは輸入量の約20%を占めています。	ガソリン 日本は中東だけでなく、スーダンやチャドなどアフリカからも原油を輸入しています。	バニラアイス バニラの原料となるバニラ豆の約90%以上がマダガスカルから輸入されています。他にマダガスカルやセーシェルなどからも輸入されています。
桃のジャム 西アフリカの国産品から輸入量約10%、ギニア(輸入量約10%)、マリ(輸入量約10%)などの果実加工品を輸入しています。他にエジプトなどからもジャムを輸入しています。	化粧品 化粧品には多くの天然成分が含まれており、アフリカ産の天然成分は、スーダン、チャド、マリ、セネガルなどから産出されています。	うなぎ 近年、日本ではウナギの養殖が盛んになっており、2012年にマダガスカルからアフリカ産ウナギの養殖品の輸入が開始されています。	ゲーム機 ゲーム機には多くのレアメタルが含まれており、アフリカ産のレアメタルは、ボツワナ、コンゴ民主共和国、南アフリカの産出地です。
ブラチナの指輪 真珠や珊瑚などによって作られているブラチナの約70%は南アフリカから輸入されています。他に南アフリカやインドネシアなどからも輸入されています。	コーヒー アフリカのコーヒーを産出地として、タンザニアやエチオピア、ケニアが知られています。日本では南アフリカやタンザニアなどからも輸入されています。		

出典: 国土交通省 国際貿易政策課 貿易政策課 貿易政策課 貿易政策課

国際理解⑥18個の謎 アフリカ

(3/4)



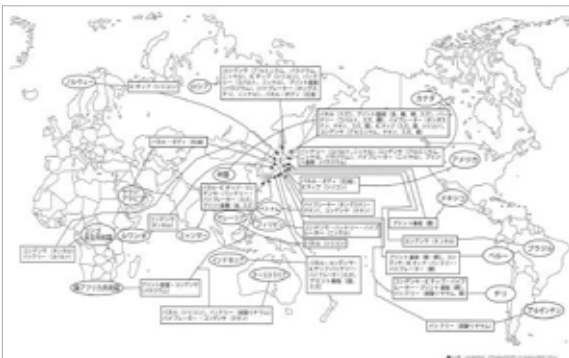
国際理解⑥18個の謎 アフリカ

(4/4)

スマホの真実

～スマホの裏側から考える世界のつながり～

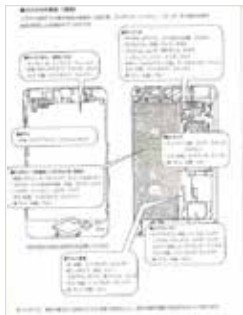
これは「原料の世界地図」です。何の原料が分かりますか？



スマホを作る原料がどこの国からやってきているかという「原料の世界地図」です。たくさんの原料が何度も国境を越えながら集まってできているのが……スマホなのですね。



スマホ1台は約200グラム。とても小さな機器なのに、その機能は多様でパソコンと同じようなものです。それを可能にしているのが、中に搭載されている約1000個の電子部品。スマホをつくるためには20種類以上の鉱物が必要とされています。中には、希少金属、通称「レアメタル」と呼ばれる金属も多く含まれています。そうした貴重な鉱物を採掘している現場は、一体どんなところなのでしょう。



資料 No.1

国際理解⑥—資料（スマホ）

(1/3)

コラム レアメタルが軍事資金に

携帯電話やパソコン、ゲーム機などの電子機器は私たちに便利で快適な生活をもたらしてくれます。携帯電話やパソコン、ゲーム機にはレアメタル（希少金属）と呼ばれる金属が使われており、そのレアメタルを掘って世界規模でこうした問題が生まれているのが、皆さんは知っていますか？レアメタルを掘って戦争が起きている地域があります。コンゴ民主共和国（旧ザイール共和国）では、レアメタルの一つ、タンタルが採掘されています。その産地は豊かで、世界一とも言われています。そのレアメタルを通じて、国や軍、武装勢力などによって戦争が起きている。そして、現在でもコンゴや隣国の国々では多くの武装勢力による活動が続けられています。その多くは、コンゴでのレアメタルの

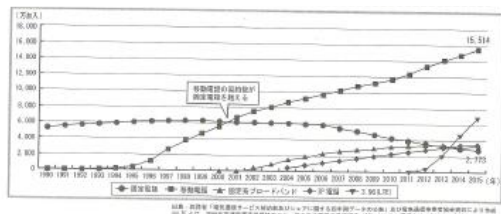
違法な採掘活動から活動資金を得ています。携帯電話やパソコンなどの、レアメタルを使う電子機器への世界的な需要の高まりに伴い、レアメタルを掘っての戦いは後を絶ちません。レアメタルの産地が戦争を繰り返しているのです。私たちが便利で豊かな生活を求める一方で、その私たちの生活がアフリカでの戦争のきっかけとなっているのです。世界の政府や企業、メーカーだけでなく、私たち消費者もこうした問題の責任を認識しなければいけないといえるでしょう。まずは世界各地で何が起きているのかを知り、考えることから始めましょう。



国際理解⑥—資料（スマホ）

(2/3)

これは「日本における携帯電話・スマホの契約数」を表すグラフです。



日本では毎年3000万台以上が出荷されている（2016年の総出荷台数は約3606万台）ことがわかります。一人が一台以上スマホを持っている状況の中で、こんなにも新しいスマホが出荷されているということは、多くのスマホが廃棄されていることを示しているともいえます。

「紛争鉱物」……という言葉を知ってどう感じましたか。レアメタルのおかげで技術革新が進み、スマホは「低価格化」「軽量化」「多機能化」しました。そして通信は飛躍的に快適かつ便利になりました。その一方で「大量生産」「大量消費」そして、次から次へと最新モデルへどんどん「買い替える」しかない仕組みがあることも事実です。先進国ではスマホの恩恵を受取る一方で、原料を提供している途上国では紛争が絶えないという現実があることも事実です。あなたが持っているスマホの裏側に、途上国の人々の血や涙があると知って、今、どのように感じますか。



資料 No.2

国際理解⑥—資料（スマホ）

(3/3)

私たちの暮らしとアフリカとのつながりって…？ 18個の謎を解いてみて…

アフリカからたくさん輸入されていて驚きました。普通に使ったり食べたりしている物は全部日本の物だと思っていたけれどこんなにも輸入に頼っているんだと思いました。

日本はアフリカからたくさん輸入しているのだから、日本はアフリカを支援していくべきだと思った。

私たちの生活の食べ物、機械、花など、アフリカと関わっているのに私たちはそれを捨てたりなくしたり…情けなく感じました。自分たちの欲望のために死んでいる人もいるということに気づくことができました。

日本は、今、輸入している国がもし輸出をやめたら崩壊すると思った。アフリカは貧しいイメージだけれど、実際はつながりのあるものすべてがあると分かった。

自分の生活を見つめ直して…
紛争が絶えず起きているというのに、私たちはそれ以上のことを望んで、いろいろな面で頼っているのはその国に対して失礼だと思った。もっと感謝しなければならぬと思う。

日本は世界のいろいろな国に頼っていて、その国々に支えられて生きているのだと分かった。

日本はいろいろな国に助けをもらっているを知った。けれど、他の国に頼りすぎているのではないかなと思った。考えなければいけないと思う。

私たちが豊かな生活を求めていることがアフリカ内の紛争の原因だと知って驚いた。普段日本のことをばかり考えてきたけれど少し違う視点で見ただけで見えるものがずいぶん違うんだなと感じた。今ある生活があたりまえではないことを忘れないようにしたい。

日本では気軽に何も知らずに使っている…苦しい気持ちになりました。すぐに新しい物を買う「大量消費」をしているので、申し訳ないなと思いました。

思ったこと！考えたこと！

自分の普段使っている物が、自分たちに近い年代の子供たちと関わりがあるかもしれないと考え、もっと買う物を選ぶべきだと思った。使用している物と関係する国のことをもっと知らないといけないと思う。

日本はアフリカにとってもお世話になっていることが分かった。レアメタルを掘って問題が起きていると知り、僕たちの当たり前が実は当たり前ではないことを知り、いろいろな問題にも目を向けてみようと思った。

私達が、今、何が起きているかを知り、どう動くべきなのか、しっかり考えていきたい

私たちにできることは、今まで途上国のおかげで積み上げた技術を、今度は、途上国のために使うことだと思いました。

私達が、今、何が起きているかを知り、どう動くべきなのか、しっかり考えていきたい

某UQ社などで、高級な素材ははずなのにニットを2000円ほどで提供しているのはフェアな貿易ではないからだと思った。これだけアフリカが輸出しているのだからアフリカの収入は多く、国や人々は豊かであるはずなのに、アフリカには生活するのにも大変な人が数え切れないくらいいるのはおかしいと思う。

私たちの暮らしは、自国だけでは成り立たないのです。品物の裏側をもっと知りたいですね。そして、どう行動すればよいか、みんなでもっと深く考えていきましょ。

松任中学校 3年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」 No. 7

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

熱帯雨林と私たちの生活 ～つながりを考える～

「熱帯雨林」のこと、どれくらい知っていますか？

熱帯雨林…と聞くと「暑い地方」というイメージがありますが、熱帯雨林はどこに分布しているのでしょうか？
答えは、「最も寒い月でも平均気温が18℃以上あり、一年中降水量が多いところ」です。最も降水量の少ない月でも60mm以上の雨が降るところに分布しています。そして地表面積のおよそ3%を占めています。

《熱帯雨林クイズ その1》

- Q1：熱帯雨林の樹木の高さは、高いもので（ ）メートルになる。
Q2：熱帯雨林は育つのに（ ）年程度かかる。
Q3：熱帯雨林熱帯雨林には地球上の生物種の（ ）以上が生息している。

しかし、熱帯雨林は、現在、減少し続けています。

《熱帯雨林クイズ その2》

- Q4：熱帯雨林は1分間におよそ（ ）haずつ消失している。
Q5：1980～95年の間には、日本の面積の約（ ）倍の熱帯雨林が消失した。

世界には現在までに約150万種の生物種が確認されていますが、実際にはこれよりはるかに多く、少なくとも1000万種は存在すると推定されています。

しかし、熱帯雨林が消滅すると同時に、生物の多様性も消失しているのが現状です。森の先住民は止血、化膿止めといった外用薬から、腹痛、頭痛、咳止めにさく内服薬まで、さまざまな薬草を伝統的に利用してきました。その知識は、現在研究者から注目されています。すでにマレーシアのサラワク州の熱帯雨林からは、エイズウイルスの増殖を抑える可能性のある物質が樹木からみつけられたという研究報告もあります。他にも、がんなどの特効薬は未発見だが、そうした未発見の成分を熱帯雨林の植物からみつけることができると考えられています。しかし、こうした、人類にとって貴重な資源は、急速に失われているのです。では、なぜそんなに速いスピードで熱帯雨林は消失しなければならないのでしょうか。これも、先進国は関わりがあるのでしょうか。

《熱帯雨林クイズ その3》

- Q6：熱帯雨林と私たちの生活はどんな物でつながっているだろうか。
5つ以上挙げてみましょう。
() ()
() ()
() ()

国際理解⑦熱帯雨林とのつながり（パーム油）

(1/2)

例

① インスタントラーメン



② ポテトチップス



③ チョコレート



④ クッキー



⑤ アイスクリーム



…共通点？

★ふりかえり★ 今日の授業で感じたこと、考えたことを書きましょう。

国際理解⑦熱帯雨林とのつながり（パーム油）

(2/2)

「パーム油」の話

パーム油とは、油ヤシの実の果肉から採れる植物性油脂である。油ヤシはコンゴ原産の熱帯性植物で、19世紀半ばにアジアに移植された。多年生草木で、植樹後3年で収穫できるようになり、その後、24年間、通年で収穫が可能である。



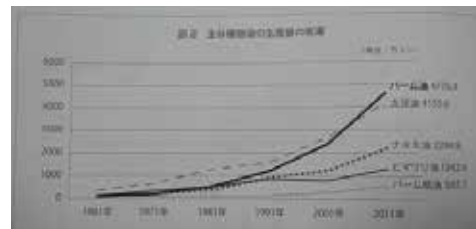
油ヤシの栽培には、赤道をはさみ10度前後の熱帯地方が適している。また、油ヤシの実の収穫から24時間以内に搾油しないと品質が劣化するため、処理工場をともなった大規模なプランテーションで栽培される。処理工場では、油ヤシの実を高温で加熱し、搾油・精製を行う。プランテーションで採算を取るためには、最低でも3000haの土地（5.5km×5.5km）が必要である。



国際理解⑦ー資料（パームオイル）

(1/4)

「主な植物油の消費量の変遷」（出典：FAOSTAT=FAO Statistics Division 2013）

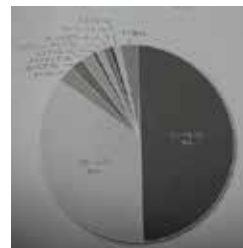


世界の植物油で最も生産量が多いのは、パーム油である。パーム油の生産量は、2005年に大豆油を抜いて、第1位になった。

世界のパーム油の生産量の約4割を占めるマレーシアでは、1960年代から、商業的な生産が本格化し、マレー半島では天然ゴムプランテーションが油ヤシプランテーションに転換された。近年ではボルネオ島の熱帯雨林が開発され、プランテーションが拡大されている。

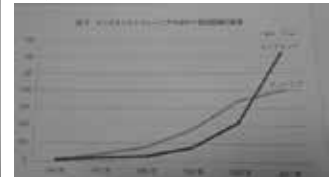
パーム油は、単位面積あたりの生産効率が大きく（同じ面積で比べると大豆油の約4～6倍の生産量）、収穫量も安定し、安価であるので、生産量は毎年増加の傾向にある。パーム油生産量の増加にともない、油ヤシの栽培面積も拡大している。

2005年ごろからは、欧州でバイオ燃料としてパーム油の需要が高まり、インドネシアでも生産が急増した。インドネシアは2006年には生産量、2009年には輸出量でもマレーシアを抜き、世界一となった。



パーム油の国別生産量 2012年（出典：Oil World Annual2013）

インドネシアとマレーシアの油ヤシ栽培面積の変遷（出典：FAOSTAT=FAO Statistics Division2013）



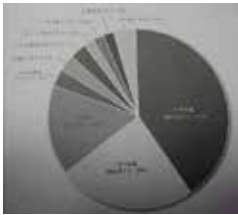
国際理解⑦ー資料（パームオイル）

(2/4)

日本で消費される植物性油脂は年間およそ 265.4 万トンにのぼる。
これらの原料は米油の米ぬかをのぞき、ほとんどを輸入に頼っている。

資料 No.2

日本の植物油消費量 2014
(出典：農林水産省「我が国の油脂事情」)



日本のパーム油の使途別消費量 2012 年
(出典：農林水産省「我が国の油脂事情」)

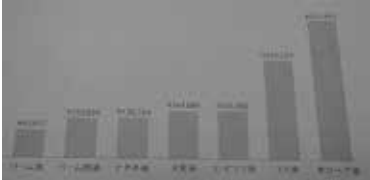


日本におけるパーム油の9割近くが食用に使われる。日本人の油、特にパーム油の食用での消費量が増えている背景には、以下のようなことが挙げられる。

- ① カップめん、スナック菓子、レトルト食品、外食産業などを通して、油脂全体の消費量が大幅に伸びた。
- ② 健康意識が高まり、動物性油脂から植物性油脂への転換が進んだ。
- ③ パーム油は精製後、酸化しにくく、常温で固体で保存でき、風味やにおいがないという特徴から、加工食品に多く用いられている。
- ④ 食用以外にも使用が増えているのは、髪や肌に優しいという理由で石油系からの転換が進んだ。

また、パーム油の輸入価格が、他の植物油と比較しても安価であることも輸入が増加している理由の一つである。

植物油別輸入価格
(1 トンあたり/2014 年)



出典：農林水産省「我が国の油脂事情」、財務省「貿易統計」

国際理解⑦ー資料 (パームオイル)

(3/4)

パーム油の使途用途の内訳 (出所：「かわら版7号」コンシャス・コンシューマー 2000)

分類	製品名	パーム油を原料とする成分の表示名	何のために入れているか
食品	カレールー、ホワイトシチュー、カップめん、アイスクリーム、クッキー、パン、チョコレート、スナック菓子、冷凍食品	植物性油脂 乳化剤	油脂 (マーガリン・ショートニング)、生クリーム (ココア)、バター・牛脂などの代替品、食品添加物
洗剤	歯磨き、石けん、洗剤、リンス、シャンプー	脂肪酸ナトリウム、 合成界面活性剤 (アルキル硫酸エステルナトリウム・ラウリル硫酸ナトリウム・トリエタノールアミン塩など)	原料の油脂として 汚れを落とす成分として
化粧品	クリーム、乳液、口紅、香水	植物性油脂、脂肪酸 (パルチミン酸、ミリスチン酸、ラウリン酸など) ラウリアルアルコール、グリセリン	油脂・基材として 界面活性剤として (乳化剤、可溶化剤、分散剤などの製品の安定のため)
医薬品	軟膏	界面活性剤、グリセリン	医薬品の原料、基材、充剤剤として
工業用	セロファン、樹脂・塗料、プラスチック、合成ゴム、繊維、ろうそく他	脂肪酸 (ラウリン酸、ミリスチン酸、カプリン酸など)	各種科学合成品の原料として、潤滑油、可塑剤として



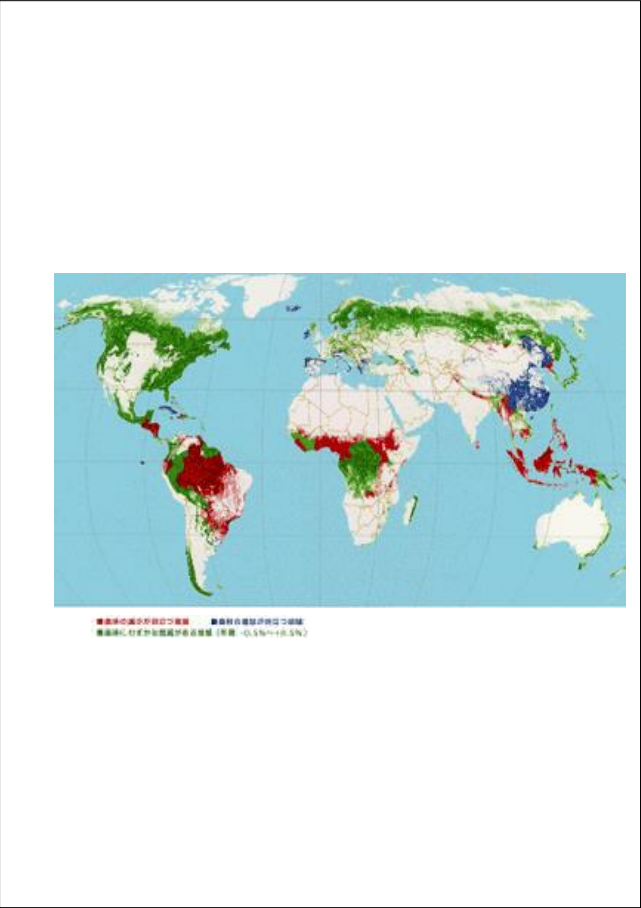
「熱帯雨林」と「私たちの暮らし」にはこんなにもたくさんのつながりがあったのですね……。

熱帯雨林がどんどん消失していることは知っていたと思いますが、それはなぜなのか、その理由を調べたことはありませんか？

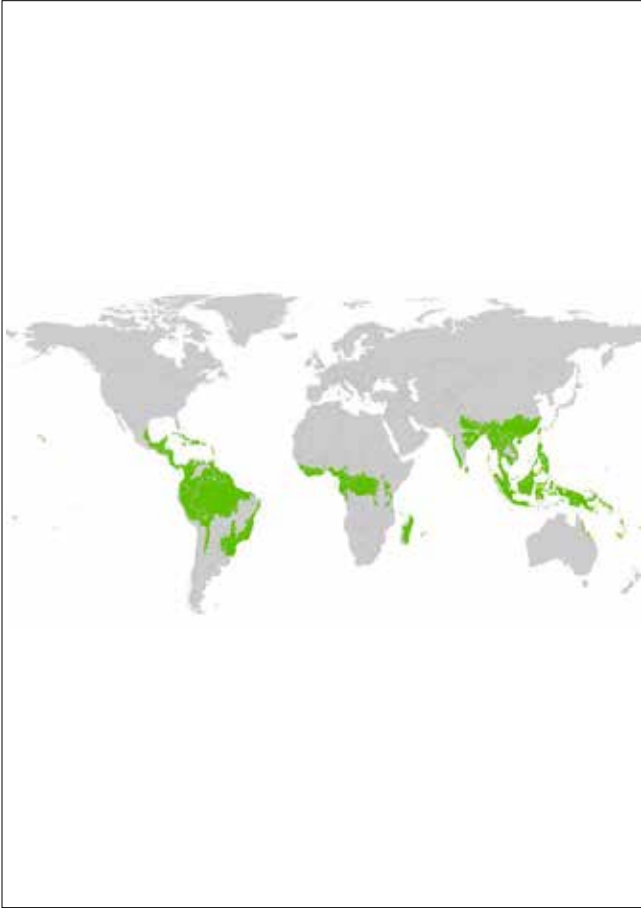
あなたがこれまで口にしてきた大好きなお菓子や食べ物、普段何気なく使用してきた品物の裏側に、こんな環境破壊が関わっていたことを知って、今、どう感じますか。

国際理解⑦ー資料 (パームオイル)

(4/4)



国際理解⑦ー資料1：熱帯雨林地図1



国際理解⑦ー資料2：熱帯雨林地図2

「熱帯雨林クイズ」の答え （1 枚目）

《熱帯雨林クイズ その1》

Q 1 : 熱帯雨林の樹木の高さは、高いもので（ ）メートルになる。

Q 2 : 熱帯雨林は育つのに（ ）年程度かかる。

Q 3 : 熱帯雨林には地球上の生物種の（ ）以上が生息している。

高いもので80メートル、育つのに50～100年

しかし、熱帯雨林は、現在、減少し続けています。日本も熱帯雨林を輸入して建築資材として使っています。(小学校も木造だった?)

《熱帯雨林クイズ その2》

Q 4 : 熱帯雨林は1分間におよそ（ ）ha ずつ消失している。

Q 5 : 1890～1995年の間には、日本の面積の約（ ）倍の熱帯雨林が消失した。

世界には現在までに約150万種の生物種が確認されていますが、実際にはこれよりはるかに多く、少なくとも1000万種は存在すると推定されています。

その半分(50%)が熱帯雨林に生息しているといわれています。

しかし、熱帯雨林が消滅すると同時に、生物の多様性も消失しているのが現状です。

世界では1分間に29ヘクタールずつ消失しています。これはおよそ540M×540Mの土地と同じ面積です。

1890～1995年の間に、日本の面積の約5倍の熱帯雨林が消失しました。

森の先住民は血止め、化膿止めといった外用薬から、腹痛、頭痛、咳止めにさく内服薬まで、さまざまな薬草を伝統的に利用してきました。その知識は、現在研究者から注目されています。すでにマレーシアのサラワク州の熱帯雨林からは、エイズウイルスの増殖を拘束する可能性のある物質が樹木からみつけられたという研究報告もあります。他にも、がんなどの特効薬は未発見だが、そうした未発見の成分を熱帯雨林の植物からみつけることができると考えられています。しかし、こうした、人類にとって貴重な資源は、急速に失われているのです。では、なぜそんなに速いスピードで熱帯雨林は消失しなければならないのでしょうか。これも、先進国は関わりがあるのでしょうか。

「熱帯雨林クイズ」の答え （2 枚目）

《熱帯雨林クイズ その3》

Q 6 : 熱帯雨林と私たちの生活はどんな物でつながっているだろうか。

●熱帯材、丸太

※日本は世界一の熱帯材の輸入国である。

半分が建築、土木に使われ、3割が家具の材料。

コンクリート形成用の型枠としても使用されるが、2、3回で使い捨てにされている。

※日本の住宅はわずか20～40年で建て替えられる。熱帯雨林は育つのに50～100年かかるので、日本人は樹木が育つよりも速いスピードで熱帯雨林を消費していることになる。

他にも熱帯雨林と関係あるものは・・・

●カップめん ●スナック菓子 ●チョコレート ●アイスクリーム
●マーガリン ●ショートニング ●菓子パン ●クッキーなどの菓子
●シャンプー ●リンス ●口紅などの化粧品 などなど

国際理解⑦ー答え（熱帯雨林クイズ）

(1/2)

国際理解⑦ー答え（熱帯雨林クイズ）

(2/2)

熱帯雨林と私たちの暮らしのつながりって…?!

感想

熱帯雨林の森林伐採と自分たちは何も関係が無いと思っていたけれど、**自分の身近なところに森林伐採とこんなにも関係している物があるのだと知り、びっくりした。**

パーム油が熱帯雨林を奪い、私たちの食品等になっていることに衝撃を受けた。やっぱり**地産地消は大切**と思う。

自分たちの生活を見直して…

熱帯雨林が1分間に29haも消えていて、そんなに?！と思った。これからはそんなに食べないようになりたいと思う。

植物油脂は聞いたことはありましたが、何に使われているかは知りませんでした。でも今日、自分が普段食べているものもそういうのが使われていることを知りました。そういうのを考えると、複雑な気持ちです。

私たちは**「何」を食べている**のでしょうか。普段、なにげなく食べてきた物の味が、これからは変わりますね…。

本当に難しい問題だと思う。普段使っているものにもたくさん入っていて、もう少し深く知りたい。

パーム油は植物油であるから環境にやさしいと思われているが、結局、**熱帯雨林を切り倒している**ので、**そこに暮らしていた生物にとっては全然優しくない**。地球にやさしいと思っているのは思い込みでしかない。

毎日使ったり食べたりしている物の中に入っている物が、熱帯雨林と強い関係をもっていたことにびっくりした。そのせいで熱帯雨林がどんどん消失しているので**この問題をしっかり考えていきたい**と思う。

日本とはあまり関係ないと思っていたけれど、私たちが何気なく生活していることで、**熱帯雨林の環境破壊を、同じ人間の私たちがしているのを知って驚いたし、悲しくなりました。**

ポテトチップスを食べまくるのを自覚しようと思った。

熱帯雨林と自分たちの生活で食べているものはつながっているのだと分かりました。お菓子などを買うときは見てみたいと思います。

コンビニのパンの後ろを見たことがあって、そこにもショートニングやパーム油と書いてあったことを思い出した。身近な物に熱帯雨林で働いている人がいるのを知って複雑な気持ちだ。**食べ残しなどできない**と思う。

思ったこと!考えたこと!

何気なく見ていたものの裏には背景があるということを知った。こんなにも**世界は不平等**なのだなと思った。

自分たちが食べている食べ物ほとんど熱帯雨林と関係があることを知り驚いた。熱帯雨林の消滅と私たちの暮らしが繋がっていることを知り、**どうやったら熱帯雨林の消失が防げるのか**考えていきたいと思った。

自分たちで油を作るか、もうちょっと油を高くするべきだと思った。

「地球にやさしい」のではなく今を生きている自分たちは今の生活を良くしようとして、**長い目で見ると、逆に自分たちの首を絞めている**と分かりました。**持続可能な社会をもとめて、これから生活環境を作れたら…**と強く思います。

国際理解⑦ー熱帯雨林と私たちのふりかえり

松任中学校 3年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向け」 No. 8

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

「つながり」の中で・・・ ～「地球にやさしい」って何だろう～

私たちの日常生活に関わる、多くの品物に使われているパーム油。そのパーム油のもとになる油ヤシのプランテーション農園をつくることで、熱帯雨林の伐採がすごいスピードで進んでいる一因であることを学びました。つまり、私たちの便利な日常生活と、熱帯雨林の消失が、こんなにも密接につながっているという現実があるのですね……。この状況を打開するために、私たちにできるのはどのようなことでしょうか。考えましょう。

Q1: 次の1～16の行動について、班で話し合っ、下の表に分類してみましょう。

① パーム油についてもっとインターネットや本で調べる	② レトルト食品やインスタント食品の購入を控える	③ 現地に行つて実際の様子を見てくる	④ 新聞に自分の意見を投稿する
⑤ シャンプーやリンスの回数減らす	⑥ 無駄遣いをしない、無駄に食べ残すことをやめる	⑦ 勉強会を開き、解決策を考える	⑧ 買い物をするときに商品の表示をチェックする
⑨ パーム油を使用している商品を購入しない	⑩ レポートを作成し、掲示したり発表したりする	⑪ 国産の木だけで造つた家を建てる	⑫ 植林の活動に参加する
⑬ 企業に、「植物性油脂」と書かれているものの原材料を質問する	⑭ 日本の林業を復活させる	⑮ プランテーション労働者や熱帯雨林のことを常に心にとめて生活する	⑯ 無駄な熱帯材を使わないように管理する機関を設置する

〈熱帯雨林を必要以上に破壊しないために私たちができることは？〉

Q2: この他にも私たちができることはないでしょうか。話し合っ、考えを書き込みましょう。

分類	すぐできる	1年以内	50年以内
個人で			
学校で			
家庭で			
国や世界レベル			

国際理解⑧自分たちにできること・ミーナの話（パーム油）

(1/2)

プランテーション農園で働く、13歳の少女ミーナの話

- 私はミーナ。インドネシアのプランテーションで働いている13歳の女の子。朝の光が差し込む頃、火をおこすことから私の一日は始まります。鍋に水を入れて、お米を炊き、朝食の準備をし、家族そろつて食事します。
- 朝食がすむと、小さな弟や妹たちをあずけ、集合場所に集まります。ここには私たちと同じような労働者がたくさんいて、経営者から今日の仕事の指示をうけます。そして、同じ場所に割り振られた家族と一緒に農園に向かいます。
- プランテーションの経営者から割り当てられた場所に着くと、お父さんは鎌のついた長いさおを持ち上げて油ヤシの実、一房を切り落としました。一房は20キロもあり、落ちると「ずどーん！」と地面にたたきつけられた実が飛び散りました。飛び散つた実を拾い集め、袋に入れるのも私の仕事です。
- 弟もそれを手伝います。散つた実は、全部拾うように言われています。近くには油ヤシの葉がたくさんあり、その鋭いトゲでけがをするときもあります。
- 家族でお昼ご飯を食べながら、お母さんが言いました。「今日はジャミラ姉さんの命日だよ。ジャミラは2年前、油ヤシの雑草や害虫を取り除くための農薬や殺虫剤をまいていて、病気にかかって死んでしまったんだよ。かわいそうなジャミラ。」私は悲しくなりました。
- お昼が終わったら、また仕事です。「重いから気を付けるのよ。」とお母さんが言います。お母さんと重い油ヤシの房を2人がかりで持ち上げて、手押し車で運びます。
- いくつかのまと手押し車で道まで運びます。運び終わった房は袋に詰めた実と一緒に、後でトラックに積み込まれます。私の家族が今日集めた油ヤシはいつもより少なく84房でした。今日は給料の支払日でしたが、私は子どもなので賃金をもらえません。
- 夕方、トラックがやってきて、皆を乗せて家まで帰ります。私はすぐに小さな弟や妹を引き取りにいき、急ぎ足で家まで向かいます。
- 私は弟の世話をしながら夕食の準備を始めました。
- 夕食が終わると私は翌日の水をくみにいきます。往復30分の道のりです。お鍋をこしこし洗います。翌朝おこす火の準備をし、一日の仕事がやっと終わりました。一週間働いたからといって休みがあるわけではありません。休みはお祭りのときと決まっています。
- 寝床につきながら私は考えました。大好きだったおばあさんは油ヤシが植えられる前のゴム農園で生涯働いて亡くなったわ。そして私のお母さんも幼いうちから油ヤシ農園で働き、15歳で私を産んだわ。お母さんもまだ若いのに爪が変形し、肌は農薬のために荒れている。私もきっとここから一歩も出ないまま生涯を終えていくんだわ。そして私の子どももきっと同じ……。

(出典：「パーム油のはなし～『地球にやさしい』ってなんだろう？」開発教育協会、2016、p.24)

Q3:ミーナを助けるためにできることはないだろうか。班で話し合っ考えてみよう。

*あなたの考え

*他の人の考え

***班で進んだ、良い考えを支援策**

-
-
-
-
-

★ふりかえり★ 今日の授業で感じたこと、考えたことを書きましょう。

国際理解⑧自分たちにできること・ミーナの話（パーム油）

(2/2)

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

われら地球市民① ～「負の連鎖」を断ち切るためにできること～

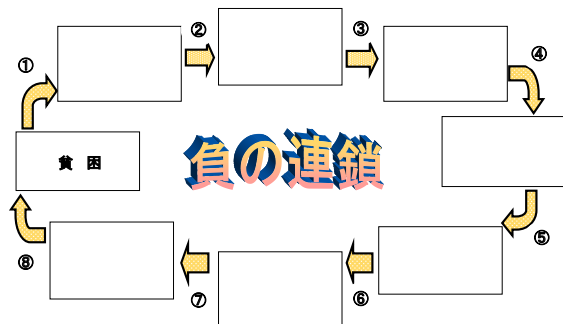
自分たちの行動で世界を変えられるかもしれないことを、前回、学びました。今日はさらに、同じ地球に生きる「地球市民」として、世界の人々とともに幸せを分かち合うために、知恵を出し合ってもらいます。



★「負の連鎖」とは・・・？

世界の貧困状態にいる人々は、さまざまな状況や理由から貧困の負の連鎖に陥っていて、抜け出せなくなっています。次の8つの項目のつながりを考えて下の「貧困の輪」の空欄に入れてみましょう。

学校に行けない	能力や技術が身につかない	栄養不良になる	仕事が見つからない
健康を損なう	収入が足りない	家計を助けなければならない	貧困



国際理解⑨われら地球市民その1「負の連鎖」

(1/4)

★「負の連鎖」の状況を見て・・・

自分がこの「負の連鎖」の中にいたとしたら・・・？自分一人の力でこの悪循環から抜け出せるでしょうか・・・？と考えると、なかなか自分一人の力では抜け出すことができませんね。では、外部からどのような支援があればこの悪循環から抜け出せるでしょうか？

「負の連鎖」の①～⑧のどの部分を断ち切れれば良いか？

【自分の考え】

の部分	⇒	支援の内容： その理由：
-----	---	-----------------

【班の人の考え】 ※自分の考えと比べて違うものを書き留める

の部分	⇒	支援の内容： その理由：
-----	---	-----------------

の部分	⇒	支援の内容： その理由：
-----	---	-----------------

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

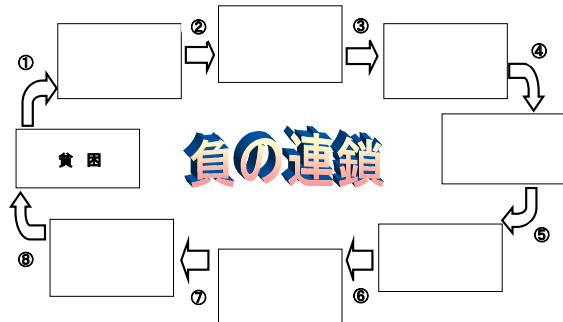
国際理解⑨われら地球市民その1「負の連鎖」

(2/4)

われら地球市民① ～「負の連鎖」を断ち切るためにできること～

3年 組 班 メンバー ()

☆自分がこの「負の連鎖」の中にいたとしたら・・・？自分一人の力でこの悪循環から抜け出せるでしょうか・・・？と考えると、なかなか自分一人の力では抜け出すことができませんね。では、外部からどのような支援があればこの悪循環から抜け出せるでしょうか？



班で考えた支援の内容 (理由)

国際理解⑨われら地球市民その1「負の連鎖」

(3/4)

学校に行けない

栄養不良になる

家計を助けなければならない

健康を損なう

能力や技術が身につかない

仕事が見つからない

貧困

収入が足りない

国際理解⑨われら地球市民その1「負の連鎖」

(4/4)

松任中学校3年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」
No. 10

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

われら地球市民② ～「地球国」から不平等をなくすには…?～

これまでの学習の中で、「世界は平等だ! おかしい!」「なんとかしなければ…でもどうやって?」
 というような振り返りがたくさんありました。そこで今日は……地球に生きるすべての人々と「地球
 国」を作るとするならば?と考えます。どんな政策を打ち出せば「地球国」から世界中の不平等をなく
 せるでしょうか?「マニフェスト」を作成し、班ごとに「地球大統領」の選挙に出るのです。「どんな
 地球国」をめざして、各省庁から「どんな政策」を打ち出せばよいか、真剣に考えましょう!



Share Happy!

★世界中の不平等さをなくすための「マニフェスト」を作成し、地球大統領選挙をします!

班の中で、それぞれの省庁の担当を決め、それぞれの省庁からも政策を出します。
 そして、班で一つのマニフェストを作りましょう!

私たちは
な世界を作ります!

省 庁	担当	具体的な政策
文 部 科 学 省	学校・教育	
貿 易 産 業 省	貿易・経済 農業・工業	
保 健 人 権 省	医療・福祉 人権・労働	
環 境 食 料 省	環境問題 食料問題	

★今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。

国際理解⑩われら地球市民その2「マニフェスト」地球大統領選（練る）（1/2）

われら地球市民② ～「地球国」から不平等をなくすには…?～

組 班 メ ン バ ー ()

私たちは

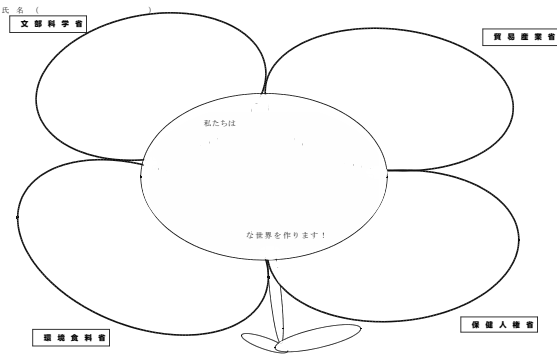
世界を作ります!

省 庁	具体的な政策
文 部 科 学 省	
貿 易 産 業 省	
保 健 人 権 省	
環 境 食 料 省	

最後のPR

国際理解⑩われら地球市民その2「マニフェスト」地球大統領選（練る）（2/2）

氏 名 ()
組 班 メ ン バ ー ()



- 1 -

組 班 メ ン バ ー ()

- 2 -

国際理解⑩マニフェストのためのシンキングツール（お花）

松任中学校 3 年 総合的な学習の時間 国際理解「世界に目を向ける」

Share Happy? ともに生きる地球の未来

組 番 氏名

No. 11

われら地球市民 地球大統領選挙をします！ Share Happy!

4 人班で「こんな地球になったらいいな」ということを考えてきました。自信を持って発表してください。聞くときは、どんな地球になったら不平等がなくなってみんなが幸せに暮らせるのか、真剣に考えながら聞きましょう。

班	マニフェストの理念	特に良いと思った点
1 班		
2 班		
3 班		
4 班		
5 班		
6 班		
7 班		
8 班		
9 班		

国際理解①マニフェスト投票

(1/2)

①一番良いと思った班に投票しましょう。そして、なぜそれが良いと思ったのか、理由を書きましょう。

班

理由

.....

.....

.....

.....

② () のは、なぜだろうか。あなたの考えを書きましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

【他の人の考え】

③感じたことや考えたことを書きましょう。

.....

.....

.....

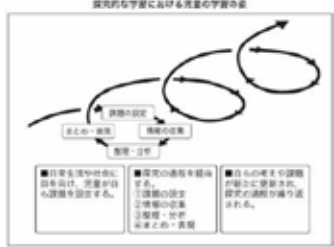
.....

.....

.....

国際理解①マニフェスト投票

(2/2)

3年 総合的な学習の時間		白山市立松任中学校 2018/8/28
(テーマ)【国際理解】		
(単元名) 世界に目を向ける「Share Happy? ～ともに生きる 地球の未来～」		
(目標)		- 国際的な問題に関わる内容に触れ、持続可能な開発・発展のための視点を認識する。【知識・技能】 - 多角的な視点から情報を分析したり課題の解決方法を探ったりしながら、世界の問題の解決のために何ができるかを考える。【思考力・判断力・表現力】 - 学習を通して豊かな人間性や社会性を養い、またグローバルな視点を身につけ、進んで実社会に参画しようとする態度を育てる。【学びに向かう力・人間性】
(評価の観点)		① 知識技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 学びに向かう力・人間性 ※詳細は別紙提案
(学習の注意点)		※探究的な学習を行う。 ※3つの配慮事項 1) 他者と協働 ・多様な立場の他者と ・多様な意見のやりとり ・双方向のコミュニケーション 2) 言語による表現 ・情報の整理や分析の場面で ・レポートやプレゼンの場面で ・聞き手になった場面で質問やアドバイスを 3) 考えるための技法 ・多様な考え方(比較、分類、関連づけなど)を意図的に ・実社会・実生活の場面でも活用できるように ・他教科で身につけた力も横断的に
(学習の流れ)		※第1次：世界の諸問題を知る ※第2次：「自分事」としてとらえて解決方法を考える ※第3次：個人レポートでまとめる、提示
		

学年会：松任中3年「国際理解」総合的な学習の時間 (1/3)

9月からの単元構想(案)			
次	時	テーマ・ねらい	活動・内容
1	1	【世界を知ろう】	・これから半年間の学習内容を知る。 ・「国際理解」という word からブレインストーミングをしてみる。
	2	【世界を知ろう】 「探検しよう みんなの地球」①	・フォトランゲージで世界の国クイズ。 ・「友達がいらないなと思う国」「ちょっと旅をしてみたい国」「ずっと住んでみたい国」を挙げ、その理由を書く。【残す】
	3	【世界を知ろう】 「探検しよう みんなの地球」②	・前回の振り返りをする。【残した紙使用】 ・途上国と先進国があることに気づく。
	4	【世界を知ろう】 「need or want?」	・無人島で暮らすとしたらどのアイテムを持っていくか、優先順位をつける。 ・アイテムを「生活」「医療」「教育」に分けてみる。 ・気づいたことをまとめる。
	5	【世界を知ろう】 字が読めないってどんなこと？	・外国語で「水」「毒」「薬」と書かれたラベルが貼られた3つのボトルを用意する。 ・世界の識字率を知る。 ・字が読めないってどんなことが起こりうるか、考えたことや気づいたことをまとめる。
	6	【世界を知ろう】 見つけよう、外国から来たもの	・自分たちの生活の中から外国とつながっているものを見つける。 ・18個のアイテムのうちアフリカとつながっているものを考える。 ・パーム油 or スマホ or コーヒー or ファストファッションなどを取り上げ、どの国と関係が深いかなる。 ・気づいたことをまとめる。
	7	【世界を知ろう】 フェアなトレードって何か？ or 世界がもし100人の村だったらのワークショップ	・貿易ゲームをする。 ・富の格差について知る。 ・平等な世界をつくるためにどうしたらよいか、解決策を考える。
			ワークシート 付箋 写真12枚程 ※5才までの死亡率と死因 ※紛争地域の分布図 ※水など ※ダイヤモンドグラムを班1つ ※アイテムカード ※3つのペットボトル (水・塩水・いろはす) ※他の国とつながるもの(実物) ※貿易ゲームカード ※世界が～のカード(1人1枚)

学年会：松任中3年「国際理解」総合的な学習の時間 (2/3)

次	時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材・資料
2	8	【Share happy?】 「世界における日本の役割」	・日本は世界の中で必要とされる国の第2位であることを知る。 ・ボランティアの出身を知る。 ・「ぼくのお父さんは〇〇というやうに殺されました」を読む。 ・世界における日本の役割について考える。	※「僕のお父さんはボランティア」というやうに殺されました
	9	【Share happy?】 負の連鎖を断ち切るために①	・負の連鎖を知る。 ・断ち切るための方策を考える。 ・日本人として何ができるかを考える。	
	10	【Share happy?】 負の連鎖を断ち切るために②	・寄付200万円をもらったら何をしたいか考える。 ・「保健省」「教育省」「産業経済省」「農林省」の4つの役割に分かれて考える。	
	11	【Share happy?】 マニフェストをつくる	・あなたがもし地球大統領だったらどのようなマニフェストをかかげるか。	
3	12	【ともに生きる 地球の未来】	・SDGsという概念を知る。 ・100年後の地球を考え、優先順位をつける。その理由も考える。	
	13	【ともに生きる 地球の未来】	・自分が一番取り組みたいもの、取り組みそうなものは何か。 ・自分SDGsを作成する。	
	14	【ともに生きる 地球の未来】	・SDGsからテーマを決める。 ・課題を決め、現状を調べる。	
	15	【ともに生きる 地球の未来】	・解決方法を探る。 ・個人レポートにまとめる。 ・発表表を作る。	

学年会：松任中3年「国際理解」総合的な学習の時間 (3/3)

総合的な学習の時間		総合的な学習の時間全体計画	
<生徒の実態> ・県下最大の高校校のため、様々な特性を持った生徒集団が存在する。 ・行事や部活動を通して、上級生の姿を見て下級生が育ち、学校生活の意欲へつながっていると思われる。 ・自分の将来の生き方を考えている生徒はまだ少ない。 ・主体的に課題を追求する姿勢が弱く、積極性に欠ける。 ・考えを言葉で他者や全体に伝えるための表現が十分でない。		<学校教育目標> 『価値ある汗と涙をいかに光りに輝く学校』 一生同士、先生同士、生徒と先生が寄り添って 探究的な学習・考え方を働かせ、創発的・総合的な学習を行うことを通じて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。 ↓ <育成することを目標とする資質・能力> ◆知識及び技能 探究的な学習の過程において課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の力を生かす。 ◆思考力・判断力・表現力等 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ◆学びに向かう力、人間性等 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	
<地域の実態> ・農村地区と新興住宅街、旧市街地が共存していることに鑑み、大型スーパーや商業施設が点在している。 ・地域の中心地であるため、地域の強力なバックアップも得られる環境にある。地域に愛着を持ち、生徒を応援しよう、という地域の力が感じられる。		<各学年のテーマ> 第1学年 「身近な人々や伝統文化に触れることで、自分がどのように支えられてきたかを知り、自分の将来像を考えるとともに、計画的に行動する」 第2学年 「身近な人々と関わり、その生き方に触れることにより、自分の目標の再確認をすること、広い視野に立ち、行動する」 第3学年 「(自分)を見つめることで、自分自身の生き方を考え、主体的に行動する」	
探究課題 ・調べ方を学ぶ。 ・働くことについて考える。		第1学年 ・調べ方を学ぶ。 ・働くことについて考える。 第2学年 ・わが町白山の良さを金沢の町づくりから学ぶ。 ・職業や働く人の夢や願いを考える。 第3学年 ・金沢の町づくりの特徴が分かる。 ・金沢や地域の探究的な学習から様々な職業について分かる。 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集、分析する。 ・相手の立場に立って論理的で効果的な表現を工夫する。 ・学習を振り返り、今後の学習や生活に活かそうとする。	
知識技能 探究的な課題について解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。		探究的な課題の解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。 ・多様な方法からより効果的・効果的な手段を選択し、確かな結果を持つことができる。 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集、分析する。 ・相手の立場に立って論理的で効果的な表現を工夫する。 ・学習を振り返り、今後の学習や生活に活かそうとする。	
思考力・判断力・表現力等 探究的な課題について解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。		探究的な課題の解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。 ・多様な方法からより効果的・効果的な手段を選択し、確かな結果を持つことができる。 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集、分析する。 ・相手の立場に立って論理的で効果的な表現を工夫する。 ・学習を振り返り、今後の学習や生活に活かそうとする。	
学びに向かう力、人間性等 探究的な課題について解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。		探究的な課題の解決の仕方がある。 ・目標を持って学ぶことの大切さが分かる。 ・身近な人の職業から働くことについて分かる。 ・多様な方法からより効果的・効果的な手段を選択し、確かな結果を持つことができる。 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集、分析する。 ・相手の立場に立って論理的で効果的な表現を工夫する。 ・学習を振り返り、今後の学習や生活に活かそうとする。	
<学習の評価> ・作文や作成したレポートなどの制作物や振り返りのワークシートなどを用い、生徒の良い点や進歩の状況を積極的に評価する。 ・指導の過程や成果について評価する。		<指導方法> ・グループ学習や異年齢集団による学習など多様な学習形態を工夫し、他人の意見を聞き取り、自分の意見を伝えたりする学習を行う。 ・外部の人と接するときのマナー指導を徹底する。 ・課題調査や発表、まとめ、表現と、学習の過程を提示するように工夫する。	
<指導体制> ・必要に応じて外部人材を活用する。 ・生徒の学習状況に応じた柔軟的な指導体制をとる。			

職員会議：「総合的な学習の時間」全体計画なおし

≫ 1. 今回の研修参加に際し、特に主眼をおいた点

次の三点に主眼をおいた。一つ目は、途上国から世界を見るということである。日本が中心に描かれている世界地図を見慣れている感覚と同じように、いつのまにか私は先進国からの目線で世界を見ていたのではないかと思わされたからだ。視点を転換して日本を見るとどのように見えるのだろう。太平洋の真ん中の島国から世界や日本を見てみたいと思った。二つ目は、SDGs17の観点から世界を見るということである。物や情報があふれた場所を離れ、シンプルに「持続可能な開発」について考えたかったからである。三つ目は、サモアの教育に対する考えや方法の良さから学ぶということである。また、参加するメンバー内でもたくさん意見交流し、貪欲に学ぼうと考えた。

≫ 2. 視察を通して見つけた途上国の姿、疑問に思ったこと

初日から驚くことばかりであった。まず、到着した空港の綺麗さ。そしてアピア市内まで車で移動中すべて舗装されている道路。トイレは水洗。トイレットペーパーもある。ホテルではお湯の出るシャワー。アピア市内の某ファストフード店。お金を出せば使えるWi-Fi。その一方で、市内を歩けば至る所にポイ捨てされたゴミ。雨が降ると道路のあちこちにできる汚水の大きな水溜まり。車はたくさん走っているが、追い越しをかける車をさらに追い越す車。市の中心部を外れるとちらほらと存在する廃墟のような建物。このアンバランスさはどこから来るのだろう。

JICA事務所、大使館、教育省、腎臓センター、博物館。いろいろな施設で働く方々にお話を伺った。空港、病院、市庁舎などの建設は、現地雇用無しで行う中国からの借入れが多いこと。発電所、水道設備、廃棄物管理プロジェクト、気象・災害対策、アピア港の整備……これまで46年間にわたるJICAの支援で成し遂げてきたこと。また、サモアの人口は約20万人だが、それだけで国の政治・経済を立ち行かせるのは難しく、ニュージーランドやオーストラリアに出稼ぎに行っているサモア人による送金で成り立っていること。サモアにいる家族は仕事をしなくても送金だけで暮らせる家もあること。

知れば知るほど複雑に感じた。国の将来を担う子どもを育てても、その子どもたちは島の外に出ていく。将来、島の外に出ていくための教育でよいのだろうか。残った人たちで一国の政治を動かしていくのは難しい。「支援慣れ」という言葉にも出会い、考えさせられた。サモアの人々がサモアに産業を興すことをもっと考えるべきなのではないか。アンバランスさの原因の一つがここにあるのではないか。帰国した今も、出稼ぎと送金が前提になっている国の有り様に割り切れない思いを感じる。

ブレジステイでは、立派な教会、コミュニティの立派な建物、道路にそって植えられ、管理された美しいガーデニングを目にした。一方で、水シャワー、石を積んだだけのかまど、壁に立てかけてある蛍光灯。扉の壊れた、今にもエンストをおこしそうな車。車のボンネットを毎回あけて水を入れ、何とか動かしながらかご近所さんの送り迎えのために何往復もするホストファミリー。夜の暗さ。都市と村の格差も感じた。そして、給料の50%を教会へ、25%をコミュニティへ、25%を自分の家に入れると聞いていたことが形になって表れているように感じた。

事前研修会で「こんなに支援をしたのになぜいまだに貧しい国があるのか？」という問いを考えたことがある。そのときに出的答えは次のようなものだった。「国の理想となる姿・モデルがない」「発展するための国の基盤づくりが必要（ハード面もソフト面も）」「成功体験を積むことが大切」「これまでの支援はそれで良かったのかという費用対効果を検証する必要がある」「自助努力がないとすべて無駄になる」。これらを思い出す場面がたびたびあった。サモアに来てみて、地理的要因やその国の歴史が深く関わることも分かったし、人々の習慣が国を形づくることも分かった。だからこそ、支援のあり方が難しいということも。

しかし、「サモアにとって良い道とは何か」を考えている人もたくさんいた。教育省の大臣がおっしゃった。「いろいろな国の人が、自分の国のものが一番良いと言って持ち込んできたという歴史がサモアにはある。でも、サモアのやり方に、落と

し込んでいくことが大事だと思っている」。サモアの子供達にどんな人になってほしいかということに対しては「クリティカルシンキングができる子ども。知識を持っているだけでなく自分で考え、自分の言葉で表現できる子ども」という返答だった。腎臓センターのCEOからは『「オールサモア」でやっていきたい』という言葉聞いた。小学校の先生も「モダン化は『not good anymore』サモアの文化を大切にしていきたい。」と言っていた。サモアの人々はサモアが国として独立しただけでなくサモアの自立を目指し、よりよいサモアになるように、サモアオリジナルの方法を模索しているのだと強く感じた。

それとともに、2月のハリケーンで破壊されたという某ホテルを眺めながら、ハコモノだけではだめなのだと感じた。結局のところ、支援に依存するのではなく、また島の外へ出ることを考えるのでもなく、サモアの人々がもっと国内に目を向けて、サモア原産のものに価値を見いだしたり、健康や医療の現状に問題意識を持ったりすることがまずあって必要感が生まれれば、人々の習慣を変えるかもしれない知識を身につけたり、未来への選択肢を増やしたりすることができるのではないと思う。最終的に本当に価値あるものにするには、そこに「人の力」がないといけなことがよく分かった。

≫ 3. 研修を通して、自身の成長に繋がったこと、子供達に特に伝えたいこと

わずかでも「視点を変える」という体験ができた。途上国にとってそれはどういう意味を持つものなのか、複雑で難しいが、相手からの目線で考えることの大切さがわかった。また、一つの行動が、どのような影響を与えてしまうのかということに常に考えることになった。日本でお土産を選んでいいたときに感じた漠然とした不安は、タファイガタ処理場に行って決定的になった。だから、この研修中、ゴミを捨てずにためてみた。一日にどれくらいの量のゴミを出しているのかを実感した。中でも、プラスチックで出来ているゴミの割合に驚いた。「わかる」と「できる」は違う。行動してみて初めて気づくことがあるということがよく分かった。

また、「学ぶ」ことの自由と、向こう側に広がる可能性を感じることができた。サモアは文字を持ってから、年月の浅い国である。文字を持つてからの発展の伸び率で考えると、実に優秀なのではないか。大人も子どもも教会に通い、日曜学校でもさらに考え、学んでいる。「学ぶ」ことに国境は無く、老若男女の別もない。今回の研修もそうだが、自分にとっても「学ぶ」ことの価値を改めて感じた。この経験を踏まえて、子ども達に伝えたいことは、「相手の目線に立つこと（相手の自己ルールがあること）」『「わかる」だけで終わらず『やってみる』こと』『「学び続けること』。そして、何のために学ぶのかを考えてほしい。自分のためだけに学ばないでほしい。受験や就職が終わればそれで終わりという学びではなく、共に学ぶ、共に考えるという視点を生涯持ち続けてほしいと思う。同じ時代に同じ地球に生きている仲間という視点で、よりよい地球にするために、いろいろな分野で学び、考え、よりよい地球のために貢献してほしいと願う。

≫ 4. 今年度だけでなく、今後の国際理解教育活動への活用について（構想）

これから生きる子ども達は、いやがおうでも、地球規模で答えのない問いを考え、他者と協働しながら行動していかなければならない。まさに「Think globally Act locally」である。そのような子ども達に毎日対面し、義務教育の現場で仕事をする者として、対子どもには、道徳、専門教科、総合的な学習の時間などに織り交ぜながら、これからも国際理解教育を進めていきたい。対教員では、図書館教育とタイアップして紹介したり、人権週間にタイアップして取り組みを考えたり、他の教員を巻き込みながら学校の教育活動の中へ落とし込んでいきたい。また、一人の地球市民として、個人でもSDGsの視点で分析しつつ、取り組めることや個人でできることを継続していきたい。これらをライフワークにしたいと思っている。

≫ 5. 研修に関する全般的な所感

国の発展は複合的で一口ではいえない。国が自立することを目指して、どのような支援をするか。そんな国づくりは、教育のあり方と同じだとハッとした。その人を育てるときの最終目標は自立である。他者と気持ちよくつながりながら、一人で生活ができ、一人で生きていくことが出来る。諸外国と気持ちよくつながりながら、国が自国の力で自国を発展していける

ようにする・・・それが支援の、そして教育の本質なのか。国の発展を目にして、はからずも教育について考えることになった。

一方、たくさんのトヨタ車が走り、人々はスマホを持ち、街角には某ファストフード店がある。発展の波はこれからも押し寄せ続けるだろうことは想像に難くない。「知らない」幸せもあるが、「知らない」ままでは済まされないのだろう。では、知ってしまったとき、その幸せが壊れ、不幸になるのは必至なのだろうか。それは否だと思う。というより、そういうことにならないでほしいと願う。ただし、それには意志が必要だ。

「Share Happy?」と開発教育の分野で尋ねたとき、その前提は「富の格差」ではないか。その「富」というのは結局、貨幣で計られる「物質面」での豊かさではないか。「幸せ」というのは、お金に起因する幸せと、お金の有無とは関係なく感じられる幸せの2種類あると思う。ホストファミリーのサラは「fialia (Happy)」は「愛」と答えてくれた。そして「家族」だと。これを聞いて殊更「サモアの人々の幸せ」の正体を考えることはやめることにした。それは日本人も同じだと気づいたからだ。お金で得られる幸せももちろんある。ただ、自分たちが「お金の有無とか関係なく感じられる幸せ」を日頃意識しているかどうかの違いだけだ。

最近「働き方改革」と日本では言われている。「働く」とはそもそも何か。出発前、生徒が「job」「work」の違いは何ですかと質問してきた。そのときは何も意識せず答えていたが、サモアの人々に触れて、そもそも「働く」って何だろうという疑問がわいてきた。ビレッジステイで、海に潜り、魚やエビを捕まえた経験をした人。飼っていた子豚を食料として殺す場面に立ち会った人。庭のココナツを収穫し、ココナツの葉で皿を作り、石を積んだだけの竈で火を熾し、お湯を沸かす。「働く」って「生きる」こととイコールだったんだ・・・そんな当たり前のことに気づかされた。自分の頭の中では「働く」＝「お金を稼ぐ」ことにいつのまにかなっていた。貨幣経済というメガネで世界を見ていたのだ。昔は物々交換で成り立っていた暮らし。何もなくてもどこかの家で何かを手伝えたらそのかわりにごはんを食べさせてもらい、その日を何とか生きていける。そんな暮らしを崩壊させるのが貨幣。物の価値を計る、一見公平な尺度。でも、貨幣は本当に公平だろうか。「働く」ことは「お金を稼ぐ」こと。貨幣経済という尺度。現代社会はこれが基盤となっているが、だから、生きにくいかもしれない。成熟した社会になって、見えなくなったものがある。それは「生きる」実感なのではないかと感じた。

≫ 6. JICA に対する要望・提言

JICAの支援は必要だと感じた。国が育つというのは実に複雑で総合的なものなので、その国だけの自助努力だけではできないからである。今回、それぞれの場所に派遣されている青年海外協力隊の方々の生の声を直接聞くことが出来たのも本当に良かった。この研修中、たびたび実感したのは「イマ・ココ・ヒト」というのはそれだけで素晴らしいことなのだなということ。同じ時間を、同じ場所で、誰かと関わりながら生きている。人と人とが関わることで生まれるものはたくさんある。派遣されている隊員の存在 (being) だけでも実は大きな「心の支援」なのではないかと感じた。自立をめざして歩むとき、寄り添ってくれる人がいることは心強いからである。確かに、隊員の間報告にあったように異国の地での活動には難しいところがたくさんあると思う。しかし、何かを成し遂げようとする (doing) としき仕事の壁にぶつかったり人との関係に悩んだりするのは、どの国のどの職場にいても同じことだと思う。ただそれが海外なので孤軍奮闘、となる。過酷な環境にあることは容易に想像できる。そう簡単にいかないことだからこそ、現地の人と一緒に歩むのだという姿勢で「イマ・ココ・ヒト」を大事にしながら現地の人や現地の暮らしにとけこむことが、「人」を派遣する青年海外協力隊の一番崇高な部分なのだと強く感じた。青年海外協力隊の派遣がこれからも続くとういと思っている。

また、これまで、ハード面、ソフト面で50年近くにわたる支援をJICAが続けてきていることで今の状況があるということも分かった。すぐに大きな結果が見えるわけではないが、地道に「続ける」ことが大きな力になるのだということを実感した。ただし、国が育つのは複雑で総合的なものなので、今後は、一人一分野ではなく、横断的かつ編み目構造のような複合的な「グループでの支援」というやり方が必要になるのではないかと思う。

このような多くの学び・気づきの機会をいただき、大変感謝している。国の自立を目指す支援のあり方は教育に似たところがあるので「教師海外研修」の意味は予想以上に大きいと思った。今後も継続してほしい。一人の教師が100人の生徒

を教えることを10年続けたら1000人の一歩になる。一人の100歩ではなく1000人の一歩を実現し、よりよい世界の実現にむけて前進できたと思う。

≫ 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

*研修全般について

- ・参加メンバーで毎晩話し合ったことが実に価値あるものだった。同じ場所に行って同じ物を見ているのに、9人9色の考え方があった。考えを分け合い、たくさんの学びを得た。次の参加者にもお勧めしたい。なお、ふせん、画用紙、マジックペン、テープなどの文房具があると便利である。
- ・チェキを持ってきてくださった方がいらした。台紙、両面テープ、ペンをもっていくと、その場で寄せ書きをしてプレゼントできた。
- ・名刺（裏面は英語、メールアドレス入り）は時間がなくても渡せばよいので便利だった。
- ・行く国の予習をしておくともよいかもしれない。私は途中まで予習していたが、まっさらな気持ちでその国を見た方がよいのでは?という疑問が出てきたのでやめてしまった。しかし、予備知識がある方が、現地で知ったことが、どのような意味を持つのか深く理解できるのではないと思う。概要がわかっていた方が肉付けしやすい。

*ビレッジステイ

- ・お土産はかりんとうと八方焼が喜ばれた。お菓子以外で喜ばれたお土産は、数字を学ぶ仕掛け絵本が引っ張りだこだった。歌ったりめくったりして子どもはもちろん楽しんでしたが、大人も興味津々で子どもが寝たあとと楽しんでいた。家に本はなく貴重品だと聞いた。他にも、大人も一緒になって楽しめた遊びは紙風船。おばあちゃんも含めてみんなで盛り上がった。子ども達が楽しんだのは、なわとび、フリスビー、子ども対象の迷路の本だった。
- ・地図、家族の写真、学校生活を紹介する写真、クラスの写真が役に立った。日本はどこ?という問いで地図をみたが見つけれなかった。答えを教えても中国とどう違うのかを聞かれた。
- ・反省点は「紹介する」だけではなく「教えてもらう」ことにもっと時間を使いたかったということだ。英語ができればもっとできたに違いない。持っていったスケッチブックに、サモアネームとイングリッシュネームを書いたり、子どもたちが落書きしたり。サモア語を教えてもらったページが一番印象的だ。